

社団法人 米沢有為会々誌



春の訪れ 高森 務

復刊 第60号 平成22年9月



登録商標第1457084号



米沢牛販売店

日本橋 日 山

日本橋 日 山 本 店	中央区日本橋人形町2-5-1 TEL03 (3666) 5257
すき焼き割烹 日 山 (予約が必要です)	中央区日本橋人形町2-5-1 TEL03 (3666) 2901
日 山 横 浜 店	横浜市西区南幸1-5-1 相鉄ジョイナス内B1 TEL045 (321) 6649
日 山 亀 戸 店	江東区亀戸5-1-1 亀戸駅ビルアトレ内B1 TEL03 (3638) 1129

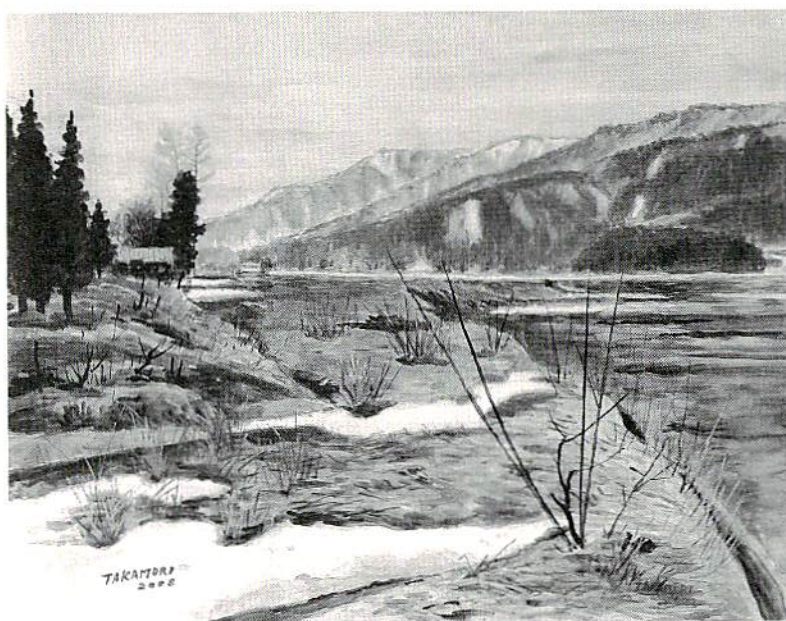
米沢牛銘柄推進協議会
山形おきたま農業協同組合

米沢牛出荷組合

社団
法人

米沢有為会々誌

復刊第60号



春の訪れ 高森 務
〔水彩 F40号〕

高 森 務



〔画歴〕

一九〇九（明治四十二）年生まれ

日本水彩画会会員、奨励賞受賞、元示現会会員、第二代緑光会会長のち同会顧問、元米沢水彩画会会長のち同会顧問、火曜会主宰、やつで会主宰、山形県水彩画会顧問、山形県美連特別会員、山形県美展無鑑査。

この作品は百歳の早春、林泉寺から吾妻山を望んで描いたもの。
第九十八回日本水彩画展出品。

目 次

ご挨拶	名誉会長 上杉 邦憲	4
会長あいさつ	会 長 下條 泰生	6
本部活動報告		
定時総会		10
本部各部門の主要活動報告		15
本部主要委員会の活動報告		21
受賞者活動発表…米沢工業高校		24
支部だより		
東京支部		32
米沢支部		36
仙台支部		40
京都支部		43
北海道支部		45
興譲館寮だより		
東京興譲館		47
仙台興譲館		50
我妻榮記念館だより		53
寄宿舎、奨学制度利用者一覧		55
「私の志」22年度奨学生の作文		56
置賜市町だより		
米沢市		58
長井市		64
南陽市		67
高畠町		71
川西町		73
小国町		77
白鷹町		80
飯豊町		83
名誉会長特別寄稿		86
トピックス		102
幻の有為会雑誌1号について 戦後復刊会誌24年版について 直江兼統像建立 他		
会員の広場		110
役員名簿（平成22年9月）		114
賛助会員名簿		123
本部・各支部事務所等所在地		124
編集後記		125

最近思うこと

～衣食足りて礼節忘れる?～



名誉会長 上 杉 邦 憲

有為会会誌第六十号発刊にあたり、御挨拶に代えて最近の世相に対し感じたことを述べることを御許し下さい。

普天間基地移転問題をきっかけに沖縄がクローズアップされることが多い昨今ですが、有為会発足にも携わった私の曾祖父・上杉茂憲が、明治十四年（一八八一）第二代沖縄県令（現在の県知事）として沖縄に赴任した際、庶民の生活のあまりの貧しさに驚愕して、時の政府に税の軽減や教育・産業の振興策を再三具申するも認められず、逆に二年後の明治十六年に罷免されるということがあった、という事実を御存知の方は多いかと思います。

以下は茂憲が着任早々、沖縄の実情を知るため全島を巡回した時に同行した三俣三郎が残した記録に書かれていた話です：「沖縄庶民は習慣も全く違い、風呂も無く、木炭の使い方も知らぬ無知な上、頑固な愚か者の様に見受けられたが、それは全く違っていた。人情薄い今の人々と比べると、却って数等人間が上等であると認められた。人々は礼節を尊び、信義を重んじ、目上の人は目下の人を恵愛し、目下の者は目上の者を尊敬する、という驚くほど立派な共同生活があった。さらに島の習慣では、八十才以上の老人へは、家族の有無に関わらず、親戚より必ず輪番で看護人一人宛て付けておき、その親戚が無い時は、隣保においてその義務を尽くす、という風俗習慣があつ

たので、孝子が無くても老人は手厚い看護を安心して受けられる環境にあった。県令もあまりに思いがけぬ風俗習慣に感動し、内地の何処にこれ程の美德があるだろうか、この美德を永く失はぬ様に、と諭された。」（寺崎房子著「上杉茂憲」より）

次はごく最近、私が都内の電車の中で実際に経験した二つの出来事です：①優先席に座った若者、前にお年寄りが立っているのを一向に気にせず、脚を一六〇度に拡げて二人分の席を占有した上に、（本来通話どころか電源を切るべき）携帯電話で延々と話をしていました。②紙袋からパンを出して食べた若者が、食べ終わった後、袋を床に落としました。前にいた人がそれを拾い「落し物ですよ」と渡すと、無言で受け取ったものの、その人が降りていったら、再度床にポイと捨てて、自分も電車を降りていきました。

明治時代に貧しい生活を余儀なくされていた沖繩の話と現在飽食の時代と言われる東京での話を並べてみると、中国・春秋時代の管仲の言とされる「衣食足りて礼節を知る」（元は「倉廩満ちて礼節を知り、衣食足りて榮辱を知る」）は間違いで、「衣食足りて礼節を忘れる」ではないかと思わざるを得ません。

（若者に限らず）礼節を忘れた人達に直接注意してもなかなか聞いて貰えないばかりか、時には命懸けになりかねないので、こういう連中は「そういうことはしてはいけない」ということを教えられていない可哀相な人達と諦め、これからの子供達に対して、「三つ子の魂百まで」と言うように、小さい頃からの躾を徹底するしかないのではないかと思う次第です。そのためにはまず我々自身日々の行いを振り返ってみないといけません。

（なお、以上は冒頭部分を除き、米野宗禎有為会東京支部長が主催されている「エデュケア21（夏季・再生十三号）」に寄稿したものを氏のご了解を得て再掲したものです。）



時々所感(七) — 「共同体」考 —

会 長 下 條 泰 生

有為会は社団法人という共同体(コミュニティ)である。共同体は家族、国家、国家を超えた共同体(欧州共同体、東アジア共同体)そしてその間に県、市町村、自治会・町内会、NPO、NGO、各種協同組合、各業種団体等巾広く存在する。ここでは共同体の役割を考えると共に二十年後の有為会の在り方を考えてみたい。

一、ロストゼネレーション

昭和という時代を戦前と戦後に二分した八月十五日から六十五年、日本の成長を生まれ乍ら体験した団塊の世代が、いま各種共同体(コミュニティ)の中核を形成している。一九九〇年平成初頭、バブル崩壊から日本は二十年に亘る停滞の時代に入った。「失われた二十年」である。いま四十歳・三十歳代の青春や社会参入時期はこの「ロストゼネレーション」と重なる。この世代に集中的に現れているのが所得格差の拡大を伴う挫折指標ともいべき現象である。全労働者の三分の一以上を占める

非正規労働者、八十五万人のニート、百六十万人ともいわれるひきこもり、三十歳代五八・二%、四十歳代二二・三%の心の病をもつ従業員、三万人の自殺者そして五%の失業者である。リストラ、倒産、失業等の挫折を体験し、年金や介護で二十年後の先がみえず「心のスイッチが入らぬ世代」で、一方ではすべてをゼロにリセットしたい、いわゆる「焼け野原願望」をもつ世代が今後二十年間日本という国家共同体を担う。

二、生産性を支える「共同体」

前にも本欄でも述べたが一国の成長率は、人口増加率

と生産性上昇率により規定される。人口は二年前をピークに通減し、移民受入や合計特殊出生率の改善なしには人口増加率は今後二十年間マイナスである。生産性には資源生産性、設備（技術）生産性等あり、基本は労働生産性である。生産性は投入量分の産出量の単位当たりの効率（アウトプット）を示す。資源を海外にたより、人件費や円高による生産拠点・部品調達の「海外シフト」等設備投資の低迷は続き設備生産性の大幅な上昇はこれからも期待できない。労働生産性は第二次産業（製造業）では「カンバン方式」にみるようにその向上は、顕著であったが、第一次産業の農水林業での過疎化・超高齢化、労働集約型の第三次産業でのサービスや医療介護部門の拡大により、全般に生産性上昇率一〜二%前後で推移している。生産性評価基準は効率の他に達成満足度による効果（アウトカム）がある。不正規従業員は帰属意義もなく成果主義は適用されず満足度は当然低く労働生産性上昇の阻害要因となっている。

反面、労働生産性を支えているのが、NPO、NGOを始めとする自治会・町内会や各種団体の共同体（コミュニティ）である。なかには行政の下請けとみられるものもあるが、地域社会における福祉・医療・環境・教

育・農業そして国際協力の面で不公平・不公正は正の本来の課題解決の役割を果たすほか、米国とは比べようもないが雇用・GDP面でも貢献をしている。いづれも原則的にアンペイド（無報酬）によるシャドウワーク（隠れた仕事）である。環境保全のNPOは本来の価値の他に年間推定延一億人工時間の環境価値を生み出す原動力となっている。その実情を知らない「事業仕分け人」がその支援措置を廃止するのは腹立たしいが、NPOの社会的貢献を強調主張することなく一方的に押し切られた環境省も、筆者もNPOボランティアだけにまことに情けない。

三、共同体が二十一世紀の主役

共同体でも血縁による家族、地縁による村落は超高齢化・過疎化の進行により崩壊あるいは限界集落化しつつあるが、地縁でもヨコベクトルの共同体である自治会・町内会や、志縁という縦で結ばれたタテベクトルをもつ共同体であるNOP・NGOや社団・財団法人は第一に使命（ミッション）をもち、社会の第一セクターである行政、第二セクターとしての企業に対し第三セクターとしてボランティアを主体とする非営利組織である。

出版業界でもロングテールの経営学者ピーター・ドラッカーは、第三セクターをソーシャルセクターとし、「人々が持つ多様なニーズを満たす変革と成果の場はソーシャルセクターをおいてない。その活動こそが、二十一世紀社会の活力を決定する」と述べている。彼が二十年前、ソーシャルセクターの中核として想定したのが社会的企業家である。彼の予言通り最近ではNPOを主体とする社会起業家の活動が盛んで、社会起業家と提携した企業が発展途上国の貧困や環境などの問題解決にのり出している。社会起業家あるいは社会的企業家とは、「人々を組織化し雇用機会を与え報酬を支払えるマネジメント能力をもつ。寄付者と投資家として扱い、地域社会と協力できる人」とドラッカーは定義する。本業のビジネスを通じ利益の創出だけでなく地域社会の課題を解決、まちにおこしに貢献する人である。地域社会の中にはそういう志をもつ人が多い。井上ひさし著イタリヤ「ボローニア紀行」の書評で阿刀田高は「民生にボローニア方式と呼ばれる筋金入りの理念：一に家族、二に友だち、三にわが街、なにかと言えば志をもつ者が集まって協同組合を作り、みんなで難問を解決していく」人々であるとする。

これまた版を重ねている「トランスクリティーク」の著者、政治哲学者柄谷行人は労働価値の実現は生産過程でなく交換という流通課程にあるとし消費者―生産協同組合を提唱し、自給自足的な共同体への回帰でなく、開かれた市場経済を志向する。社会学者広井良典は著作「コミュニティを問いなおす」で第三セクターを「市場経済を超える定常型社会で……営利と非営利の交差する領域」とする。

四、共同体有為会のマネジメント力に期待

二十一世紀には、営利を本業とする企業（ゲゼルシャフトⅡ「営利共同体」）がビジネスを通じ社会的課題の解決に向うと共に、非営利を目的とするNPOやその他の共同体（ゲマインシャフト）が社会的課題の解決のため、目的に関連した社会的企業を行うというハイブリット型社会であり、それら共同体と行政との協働で「新しい公共領域」が生まれる。

個人から国家までの共同体内部や間での紛争解決は自由と規範に基づく対話による公平公正に基づく合意（共通善）にあると説くのが、NHK「白熱教室」の共同体主義者のハーバード大マイケル・サンデル教授で、著作

「これから正義について話をしよう」は四十万部に及ぶ。

共同体は二十一世紀の主役となる。二十年後超高齢社会の日本の共同体の担い手はいま四十、三十歳代の「熱い時間を」持つことが出来なかった漂流世代である。共同体育成には起業支援のスキーム構築とボランティア育成の仕組—学校でのボランティアによる単位取得や企業のボランティア休暇による自立性の育成と、学校・企業そして地域における身の回りの課題への自発的取組み・解決・自己評価するマネジメント力函養が重要である。それはお上まかせ他人まかせでない「市民が地域の主役」意識の確立であり、「地域主権」に通ずる。そして共同体の数がふえることは、前回本欄でふれたノーベル賞学者セン教授のいう社会の「潜在能力」形成ひいては「道義大国」日本につながる。

有為会という共同体の百四十年への持続可能性は、二十年後いまのロストゼネレーションを如何にとりこむというマネジメント力にかかっている。

七年間本欄をお読み頂き有難うございました。

以上

120周年記念事業協賛金の中間発表

昨年12月からスタートしました協賛金の募金は、半年あまり経過し、8月末までの応募者数、募金額は下記の通りです。

応募者数 504名 応募率 39.5%

応募金額 10,196,200円 目標達成率 51.0%

目標達成には未だ道半ばですので会員の皆様の一層のご理解とご協力をお願いいたします。

本部活動報告

定時総会及び付帯催事に関する報告

一、定時総会の報告

米沢有為会の第一二二回定時総会は、平成二二年六月二七日(日)午後二時から米沢城趾の「伝国の杜」大会議室において開かれました。

会議に先立ち、下條泰生会長と米沢市長の安部三十郎副会長から挨拶がなされました。その後、下條会長が議長席に着き、直ちに定足数の確認が行われました。議決権の行使が



記載された委任状提出者を含めた有効出席者数が全会員一二七三名中六〇・二％にあたる七六七名であり、定款第三〇条の規定により本総会が有効に成立していることが確認されました。

引き続き、下條議長のもと、議案が審議されましたが、各議案とも原案通り承認されました。議事の概要と審議経過および報告事項は次のとおりです。

第一号議案 平成二一年度事業・業務報告

配布の米沢有為会会報記載の「平成二一年度事業・業務報告」に沿って平山英三総務部長から説明と報告があり、採決の結果全会一致で可決されました。

第二号議案 平成二一年度決算報告及び監査報告

配布の米沢有為会会報記載の「平成二一年度決算報告書」および別途配布の「第一二二回定時総会第二号議案・第四号議案説明資料」に沿って、鈴木信之財務担当理事から説明と報告がなされた後、西澤榮一監事から適正に処理されている旨の監査報告があり、採決の結果全会一致で可決されました。

第三号議案 平成二二年度事業・業務計画(案)

配布の米沢有為会会報記載の「平成二二年度事業・業務計画(案)」に沿って平山英三総務部長から全般の説明があり、採決の結果賛成多数で可決されました。

第四号議案 平成二二年度予算(案)

配布の米沢有為会会報記載の「平成二二年度収支予算(案)」および別途配布の「第一二二回定時総会第二号議案・第四号議案説明資料」に沿って鈴木信之財務担当理事から説明があり、採決の結果賛成多数で本案は可決されました。

報告事項

左記事項に関して各部・委員会担当の理事から説明と報告がありました。

(1) 東京・仙台興譲館寄宿舎の改修について

配布の米沢有為会会報記載の「東京・仙台興譲館大規模改修工事報告」に沿って佐藤毅企画部長から説明がありました。

(2) 公益法人認定の準備現況

配布の米沢有為会会報記載の「新工程表」および「今

後の検討課題及び検討の進め方について」に沿って平山英三公益認定準備委員長から説明がありました。

(3) 第三次会員倍增運動について

開沼啓組織部長から目標は未達ながら会員の協力があつたことに対し謝意が述べられました。

(4) 一二〇周年記念協賛金について

別途配布の「協賛金応募状況報告」に沿って須

貝英雄副会長から説明があり、目標達成のために一層の努力をしてゆく決意と更なる協力依頼が述べられました。

※総会終了後、米沢有為会創立百二十周年記念事業として開催された「ふるさとおきたまチャリティ美術展」に尽力された亀岡博米沢市芸術文化協会々長に感謝状の贈呈が行われました。



二、功労者、特別顕彰者表彰式

本年度の産業功労、特別顕彰として次の方々に決定、それぞれ表彰状と記念品が授与されました。

○教育功労賞

近野兼史 殿

(財)近野教育振興会理事長

氏は多くの株式会社を創立し、そのリーダー性を發揮して米沢市や仙台市の商工会議所の中心的存在として、東北経済の活性化に貢献されとともに、平成四年六月に財団法人近野教育振興会を設立し理事長として、今日まで米沢市の教育の振興に大きな力添えをしている。

近野教育振興会では、数多くの教育関係書籍を出版し、学校教育関係者に寄附しているほか、高校生への奨学金制度を確立し、平成二十二年度までに二〇四名の高校生の就学を支援している。

毎年自ら奨学生に励ましの手紙を書くなど、金銭面だけでなく精神的な支援を継続している。

また、未来を支える人材の育成を強く訴え、米沢市内の小中学校の教育振興や学校図書館の整備のために毎年多額の寄付をしているほか、米沢市に桜の木を植樹する

など、教育のみならず環境整備にも大きく寄与している。

○産業功労賞

米沢市電子機器・機械工業振興協議会 殿

平成二十二年三月現在で十八社の地元中核企業から構成されている協議会で、米沢市製造業界の課題となっている地域内企業による共同受発注を推進するため、独自の取組みを始めており、今後その経済効果等が大きく期待されている。

同協議会での共同受注の体制はグループの総合力で顧客の要望に対応するものであり、設計から完成品・出荷まで全ての工程を請け負うことが可能になっている。また、同協議会では地域雇用面における大きな貢献だけではなく、技術開発研修、情報交換、人材交流及び育成等企業間ネットワーク化の構築を進めている。

このような、一団体としての地域に根ざした取組みは他地域では行われていない先進的なものであり、米沢市の工業振興においても多大な貢献を果たしている。

山形県立米沢工業高校機械系機械生産類工業クラブ 殿

平日の放課後や休日に、工作機械を使った機械加工技

術の向上や、世の中に役に立つ機械の製作など、ものづくりをメインとした活動をしているとともに、置賜管内の各種イベントにSLボランティアとして参加しており、年間十回程度、十年以上続けている。

また、約二年前から地球環境に優しい本格的な電気自動車の製作に取組み、モーターやタイヤ、バッテリーなどを除き、ミッションやボディを始めほとんどの部品を生徒達の手で作った。さらに完成度の高い電気自動車の製作のために、バッテリーやボディの塗装については地元企業からも技術協力を得ている。生徒達のものづくりに対する熱意と、地元企業を巻き込んだ取組みは全国から高い評価を得ており、現在ほさらに改良を加え、真っ赤なボディの電気自動車を米沢市



内の公道で走行させる準備を着々と進めている。

山形県立長井工業高等学校 殿

同校は「ものづくりを通した人づくり」を教育の理念として、次ぎのような教育実践を行ってきた。

(1) 高度熟練技能者から指導を受けた技能検定取得の取組み

地元企業から高度熟練技能者を招いての指導や技能検定試験に係る材料、測定具の提供等、地域と連携した実践的なものづくり教育により、多数の検定合格者を出している。

(2) ものづくりによる地域社会への貢献

① おもちやの病院

② 出前測量

③ 出前授業

④ あやめ公園駅にかかわるものづくり

生徒による駅の待合室、駐輪場の建設及び照明設備の設置のほか、清掃活動や植栽活動などの駅の美化活動に努めている。

(3) 異業種との交流によるものづくり活動
① 水田除草ロボット「デジガモ」の開発

② 自助具、福祉機器の開発

福祉施設や介護施設へのボランティア活動を通して、自助具や福祉機器のニーズを把握して開発を行っている。

(4) 産学官が連携した「ものづくり伝承塾」

「西置賜産業会（次世代グループ）」

西置賜産業会（四十八社）の理事会のメンバーに同校の教頭が参加、次世代グループに同校の教員が参加し、二足歩行ロボットの研究の他に、上記異業種間の技術交流を行っている。

このような、これまでの地域連携を通じたものづくり、人づくりが評価され、平成二十一年度「第三回ものづくり日本大賞・文部科学大臣賞」を受賞した。

○特別顕彰者

江口悠貴 殿

平成二十一年度ジュニアオリンピック

A 110 m H

優勝（14秒72）

平成二十一年度国民体育大会

少年B 110 m H 二位（14秒46）

長沼大智 殿

山形県中学校総合体育大会陸上競技

男子一年 1500 m

優勝

東北中学校総合体育大会陸上競技

男子一年 1500 m

優勝

ジュニアオリンピック陸上競技大会

男子一年 1500 m

優勝

山形県スポーツ敢闘賞受賞

日下夕佳 殿

第二回全国カデエベ選手権大会

第四位

二〇一〇年ユースオリンピック大会選考会（兼）カデ世

界選手権大会選考会 優勝

イタリア遠征、カデアジア選手権大会、カデ世界選手権

大会に日本代表として出場

アジア選手権大会 十三位

三、総会懇親会の開催

総会終了後、会場を米沢城史苑に移し、懇親会を開催しました。今回上杉名誉会長は小惑星探査機『はやぶさ』の帰還に係わっておられ欠席でした。来賓として出席いただきました参議院議員渡辺孝男先生に乾杯をお願いし、受賞者近野兼史様、安房毅様をはじめ下條会長以下役員会員にぎやかにかつ和やかに懇親会が進められました。



本部各部門の主要活動報告

○総務部

定時総会後の平成二十一年七月六日に開かれた第三回理事会において新体制がスタートし、新たに事務局が設けられました。事務局の位置づけは、検討の結果総務部の中に位置づけられることとなりました。更に財務、経

理の責任を分離して相互チェック出来るようにという文部科学省の指導に沿って事務局長が支出担当として財務担当理事と責任を分担することになりました。そのため、総務部長と事務局長、財務担当理事と事務局長とが緊密に連絡を取り合い、業務を処理していくこととなりました。

当会の運営については、事務局を中心に日常的な事務処理を行うほか、必要に応じ、総務部会を開き協議しながら進めています。

特筆すべきは、東京・仙台南興譲館が大規模改修されたことに伴い寮費改訂検討委員会が設けられたことです。大規模改修に多額の資金を充てたため、今後も寄宿舎を良好に維持管理していくのに足りない費用の一部を舎生に負担してもらうための検討を行い、平成二十二年四月から施設維持費として舎生に新たな負担をお願いすることになりました。

又、昨年行われた記念事業、祝賀会収支報告書は次ページのとおりです。



120周年事業及び祝賀会収支報告

収入の部	
内 容	金 額
米沢市よりの補助金	1,000,000
寄付金（ただし、平成22年3月31日現在）	7,877,700
ふるさとおきたまチャリティ美術展より	2,121,129
積立金取崩 東京興譲館建築積立基金	24,310,000
積立金取崩 仙台興譲館特別修繕積立基金	5,500,000
積立金取崩 奨学資金積立基金	10,000,000
一般会計より（東京電力地代）	12,781,652
仙台支部より	530,000
記念祝賀会 懇親会（会員出席161名）収支差額（※1）	25,698
収 入 合 計	64,146,179
支出の部	
寄宿舎の整備	
東京興譲館耐震・リニューアル工事	51,610,265
仙台興譲館改修工事	9,450,000
ク クリーニング等（仙台支部対応）	530,000
小 計	61,590,265
120周年記念会誌	1,047,800
祝賀会 講演会会場費等	958,798
会誌復刻版・図書目録	315,000
修祓式（※2）	234,316
小 計	2,530,216
支 出 合 計	64,146,179

120周年記念事業祝儀ご芳名一覧

- ※1 上杉邦憲様、加藤晴一様、伊東祐満様、相田茂夫・大原敏様、
三澤潔子様、和田豊様、種村信次様、亀岡 博様、小関 薫様、
藤田浩一郎様、天地人史跡めぐり旅行会有志様 計 27万2千円
- ※2 大木リフォーム(株)様、横山彰人様、寿司初・小野寺英三様、
興譲館寄宿舎OB会様、寮母三浦絢子様、龍亭様 計 5万円

○教育部

平成二十二年奨学金貸費生選考の報告

平成二十二年奨学金貸費生の募集については、例年どおり、理事会において募集要項を決定し、置賜地域三市五町に所在する十四高校に周知方を依頼するとともに、各自治体及び地元報道機関に広報を依頼する一方、本会ホームページ上に掲載して周知につとめました。

選考経過としては、各高校長から推薦された応募者の全員につき、三月二十七日、伝国の社会議室を会場に、高橋勉教育部長及び伊藤和夫・上村勘二・吉田美智子の各教育委員が応募書類審査と本人面接を行い、教育部の大滝則忠・貝沼孝二の両理事が陪席しました。なお、応募者控え室においては、米沢支部事務局の赤木義信・鈴木隆の両参事から、応募者に対して本会活動についての概要説明を行いました。

そのうえで、理事会・教育委員会合同会議に提出する選考資料が調整され、この選考資料に基づき、四月二十四日、同合同会議において審議が行われ、次の四名が平成二十二年奨費生として決定されました。

(氏名の五十音順)

会田

俊 (東京薬科大学薬学部薬学科入学・米沢興譲館高卒・米沢市堀川出身)

宇野

大貴 (宇都宮大学工学部応用化学科入学・米沢興譲館高卒・南陽市赤湯)

島貫

夏実 (神奈川県立保健福祉大学入学・米沢興譲館高卒・米沢市下小菅出身)

丸山

昂 (山形大学工学部情報科学科入学・長井工業高卒・長井市五十川出身)

貸費生が応募の際に提出した「私の志」と題する小作文を本誌五六ページに掲載してあります。

本会の奨学金貸費制度は、置賜三市五町出身または出身者の子弟の大学生・大学院生を対象に、経済的には恵まれないが、学業優秀で将来性豊かな学生を選考して、月額四万円の奨学金を貸与しています。戦後期の本制度は昭和二十八年度に再開されましたが、それ以来の貸費生総数は、新貸費生を加えて、延べ二百六十四名(うち女子四十一名)となっています。

なお、本会の奨学金貸費制度の明治四十四年創設以来の歴史については、創立百二十年記念会誌(平成二十一年十二月刊)掲載の「奨学金貸与事業の歩み」をご覧ください。

二十一年度高等学校卒業生表彰(二十二年二月表彰)

本会では郷土の人材育英支援事業の一環として、米沢・置賜地区の高等学校(十三校)の当年度卒業生のうちから学校長の推薦により学業、部活動、生徒会等での模範となる特に優れた生徒を表彰しております。

今年度は従来にない十三校から推薦があり、暫く有為会の育英事業について各高等学校への浸透の広がりが確認されて喜んでおります。

今年度の有為会表彰生徒は次のとおりです。

明珍 大志―米沢興譲館高等学校(米沢市)

北郷 充―米沢商業高等学校(米沢市)

八巻 加奈―米沢工業高等学校(米沢市)

大竹 志穂―米沢東高等学校(米沢市)

蒲生 晴香―米沢中央高等学校(米沢市)

島貫 蓮―九里学園高等学校(米沢市)

樋口 咲希―南陽高等学校(飯豊町)

手塚那津美―長井高等学校(南陽市)

丸山 昂―長井工業高等学校(長井市)

寒河江 豊―置賜農業高等学校(川西町)

添川 勝貴―高島高等学校(高島町)

五十嵐兼一―荒砥高等学校(白鷹町)

今 竜哉―小国高等学校(小国町)

○文化広報部

米沢有為会会誌復刊六十号の編集発行に伴い、七月二十日編集会議を東京で行いました。

五十九号は昨年百二十周年記念特集号としましたが六十号は通常の会誌となり、九月発行を予定しています。なお定款集については今号から分離し、別冊とすることとしました。付帯として、有為会年表、歴代会長名、歴代興譲館寄宿舎館長名を入れます。

また、有為会ホームページを開設していますが、昨年引き続き米沢工業高校専攻科に更新等を依頼しています。有為会の育英事業や本部、支部の情報をできるだけ速やかに提供できるよう努めています。

○組織部

(1) 第三次会員倍增運動の成果について

平成二十一年は、創設百二十周年記念の年にあたり、会員倍增運動の最終運動期として、第三次会員倍增運動(平成二十一年四月―二十二年三月)が展開されました。各支部、会員各位の取組みとご協力により、多数

の新会員の入会がありました。

その成果は新入会員百四十八名、退会会員は百二名、会員増は四十六名です。終了時の個人会員数は千二百七十九名となりました。

目標は第二次会員倍增運動終了時会員総数千二百三十名の二十%増以上の二百五十名以上ですので、残念ながら、目標未達成となりました。後頁に添付の「第三次会員倍增運動の結果表」を参照してください。

(2) 平成二十二年度組織強化（会員増強）の推進

米沢有為会会員の推移は数次にわたる会員倍增運動もあつて、やや増加傾向になっています。

会の事業運営の財政基盤は会員の会費によります。新会員の入会があり、会員が常に現状維持以上にあることが本会存続の要です。

今年度は、特別な新会員勧誘活動とはしないで、地道に継続的に有為会あげて取組みを続ける事にしていきます。

会員増強運動の基本は、会員各位の交友をベースとしたマンツーマンの勧誘が最も効果的です。

なお、互いに未納会員にならない気配りが大切です。

各支部、会員皆様のなご一層のご協力をお願い致します。後頁に添付の「第二次会員倍增運動の結果表」をご参照ください。

（組織部長 開沼 啓）

○婦人部

残念ながら今年度は大きな活動はできませんでした。年初、都内、近県の「郷土関連の名所旧跡等」の探訪を計画しました。しかし、その候補地を選定してみると、距離的にかんがりの隔たりがあり、それを一日のコースに組み込むと交通機関を利用している時間ばかりが長く、巡回効率が悪いことがわかりました。

話し合いの末、郷土関連の名所旧跡等は一点にしぼり、あとは周辺の一般旧跡を巡ることとし、むしろ会員相互の懇親を重点にしようという考えに切り替えました。

そして、川崎・横浜地区のコースを選定してみました。鶴見総持寺の伊東忠太博士の墓参を中心に、同寺の有名な墓所を探訪して、その後、横浜市の赤レンガ倉庫街散策、横浜中華街で会食するというものです。早速、総持寺に眠る著名人の一覧表、中華街のレストランの見積りまでの準備は完了したものの、九月現在、実行

には至っていません。いずれ実施の節は、多数の方々の参加をお待ちしています。
(婦人部長 小山 泰)

○企画部

(1) 身近な取り組み

近年における有為会の大きな課題は「公益法人移行」であります。

この高いハードルをクリアするために、多くの課題があります。その一つが財政基盤の安定であります。なかでも、有為会育英事業の柱である東京・仙台興譲館の施設維持管理が永年大きな課題となっております。

幸い、昨年の創立百二十周年記念事業として、大規模改修工事がなされ無事完了することが出来ましたが、東京興譲館は築四十四年、仙台は築二十三年です。今後は計画的、定期的に修繕補修工事を実行していかなければ、将来に大きな負担が発生します。

施設の維持管理は有為会の負担でなされてきましたが、今回の創立百二十周年記念事業における両興譲館寮の大規模改修は過大な負担であり、今後、有為会だけで全てを実行する余力は今のところありません。

そこで、昨年両興譲館の「寮費検討委員会」(委員長

平山英三総務部長)がもたれ、今後予想される修繕計画や有為会としての負担能力、他の類似施設との比較や地域性等、幅広く検討され舎生に施設維持費として、一部を舎生に負担してもらうことになりました。

東京興譲館では、一万円/月(今年度は経過処置として五千円)、仙台興譲館二千円(舎生十六名以下の場合三千円)としました。さらに有為会からも一定額を積み立て、修繕積立金として将来に備えることといたしました。

舎生に負担をお願いすることになったため、生活環境を一定レベルに確保する必要があり、東京興譲館では、春に発生した一部漏水を解決するため、塔屋と四階屋上、二階屋上の防全ての防水工事を行いましたし、他の面でも適切に対応する必要があります。

一方、有為会の安定的な収入である東京興譲館の東側敷地の有効活用についても、今年八月まで、東京電力の高架線張替え工事のため、東京電力に一年間工用のスペースとして貸与してきましたが、その後も確実な収益施設として活用すべく取り組み、三井不動産販売㈱に、今年十月から二十万円/月(税込み)で駐車場として貸与する事としました。九月には前面道路から駐車場まで、車路の舗装工事を行い近隣や舎生に迷惑のかからない準

備をするつもりであります。

東京・仙台興譲館寮の長期的な維持管理の見通しを立て、東京興譲館敷地における東京電力高架線の保証を含む駐車場活用が確定し、当面の課題は解決されたと考えられていますが、老朽化した我妻榮記念館の施設維持管理が残っています。米沢支部で鋭意検討いただいておりますので、より良い解決が図られることと期待しております。

(企画部長 佐藤 毅)

本部主要委員会の活動報告

・公益法人制度改革に対応する準備状況について

従来の制度に基づいて国・都道府県の認可を得て活動している公益(社団・財団)法人数は、現在、合計二万四千以上にのぼります(うち約半数以上が社団)。これらの法人すべてが、現行の公益法人制度抜本改革三法の規定に則って、来る平成二十五年十一月三十日までに、それぞれ「公益社団(財団)法人(公益認定法人)」または「一般社団(財団)法人」その他に移行することになり、各法人において、その準備が行われています。

本会もこの全国的な動きに対応して、平成二十年三月以来、理事会のもとに公益認定準備委員会を設置し、その検討結果を基礎に理事会における検討を進めてきました。そして、理事会は、本会のこれまでの目的・事業・組織を基本的に維持・継続する方向で、公益社団法人への移行を前提とした「新定款・原案(第四版)」を取りまとめ、平成二十一年六月刊行の会報上にその案を掲載するなどして、全会員からの意見を求めています。

その後、準備委員会では、国の公益認定等委員会に対する公益認定申請書類の作成を始めるなど、所要の準備作業に取り組んでいます。一方、それらの準備の前提として不可欠となる新法人移行のための細部検討事項も明確になってきました。これらは、いずれも公益認定申請に適合するためと同時に、新法人移行の時点で即実施可能な体制づくりのために不可欠な事項といえるものです。それらは「新定款・原案(第四版)」の中で一応の想定はあるものの、個々に実施に移すにはそれぞれ細部検討を要するもので、例えば、目的・事業(公益目的と非公益目的の種別の精緻化)、会員制度(会員の種別・会費・入退会)、総会定足数、理

事会の機動的な意思決定、効率的な実務執行体制、支部活動、新財務体制、等々の事項が挙げられます。

そこで、理事会は、平成二十二年四月二十四日、今後の進め方を再確認し、新しい工程管理のもとで、移行準備を進めることになりました。その骨子は、(1)準備委員会において早急にそれらの事項の検討に取り組み、その提案を受けて理事会で検討すること、(2)平成二十三年六月開催の定時総会において新法人移行のために必要となる決議ができるように、今後、理事会による機関決定等、最終的には会員への周知と意見集約できるように進めること、(3)定時総会後は、所要準備を行って公益認定申請すること、(4)申請後の国の公益認定等委員会による決定時期は不明確であるが、早くて平成二十四年四月一日からの新法人移行を目指すこと、等です。これらの新工程については、平成二十二年六月刊行の会報上に掲載し、会員各位にお知らせしていますので、ご覧ください。

準備委員会では現在、各事項を細部検討中で、早期にその検討の中間まとめを理事会に提案して、まず理事会における方向づけを得るための準備作業を行っています。内容はいずれも、現行の各事業部・委員会・

支部等が所掌する事項と密接に関連せざるを得ないところ です。検討期間は限られてはいますが、今後の米沢有為会のあり方を再確認する重要な節目となる時期に当たり、必要な議論は尽くして新体制を迎えることができるよう、よろしくご理解ご協力のほどをお願いします。

あわせて、引き続き会員各位から多岐にわたるご意見をお寄せいただくよう、お願い申し上げる次第です。
(公益認定準備委員会)

・奨学制度検討委員会

米沢有為会奨学生OB・OG会が平成二十一年二月二十八日発足し、奨学制度などに関して提言がなされました。そして平成二十一年十二月二十二日の第六回理事会において、OB・OG会から「米沢有為会奨学金制度検討委員会」設立に関する提案書が提出され、検討委員会設置が了承されました。平成二十二年二月十八日七名の委員が選考され委員会が発足しました。委員を中心に懇談会や予備会議を行い奨学制度の検討が始まりました。委員会は今年度を目途に報告をまとめることとしています。

第3次`会員倍增運動、の結果表

平成22年3月末日現在 組織部集計

		倍增運動 第2時終了時 平成21年3月	○第3次倍增運動期間の増加会員数 平成21年4月～22年3月末				*参考 21年度決算 時会計口数 (22/3)
			入 会	退 会	差 引	会員数	
東京支部	通 常 会 員	341	32	34	△ 2	339	306
	特 別 会 員	116	0	0	0	116	125
	個人会員計	456	32	34	△ 2	454	413
	賛 助 会 員	9	0	0	0	9	2
	計	465	32	34	△ 2	463	433
米沢支部	通 常 会 員	538	105	53	52	590	497
	特 別 会 員	76	1	4	△ 3	73	65
	個人会員計	614	106	57	49	663	562
	賛 助 会 員	16	0	2	△ 2	14	12
	計	630	106	59	47	677	574
仙台支部	通 常 会 員	32	4	1	3	35	35
	特 別 会 員	51	4	5	△ 1	50	49
	個人会員計	83	8	6	2	85	84
	賛 助 会 員	5	1	1	0	5	4
	計	88	9	7	2	90	88
京都支部	通 常 会 員	22	0	0	0	22	18
	特 別 会 員	7	1	0	1	8	8
	個人会員計	29	1	0	1	30	26
	賛 助 会 員	0	0	0	0	0	0
	計	29	1	0	1	30	26
北海道支部	通 常 会 員	18	0	0	0	18	17
	特 別 会 員	4	0	0	0	4	4
	個人会員計	22	0	0	0	22	21
	賛 助 会 員	0	0	0	0	0	38
	計	22	0	0	0	22	0
阪神・地方	通 常 会 員	29	1	5	△ 4	25	38
	特 別 会 員	0	0	0	0	0	0
	個人会員計	29	1	5	△ 4	25	38
	賛 助 会 員	0	0	0	0	0	0
	計	29	1	5	△ 4	25	38
全体合計	通 常 会 員	978	142	93	49	1,027	911
	特 別 会 員	255	6	9	△ 3	252	251
	個人会員計	1,233	148	102	46	1,279	1,162
	賛 助 会 員	29	1	2	△ 1	28	18
	合 計	1,262	149	104	45	1,307	1,180

〔註〕 ○欄は各支部からの調査表による *欄は総務部の決算報告書による

○受賞者活動発表



発表者 機械生産類工業クラブ
三年 伊藤 悟
引率 村山 禎一

電気自動車の製作について

山形県立米沢工業高等学校

【本校が取り組んでいる事業】

文部科学省「ものづくり産業担い手育成モデル事業」
山形県教育委員会「特色ある高校づくり推進事業」
財団法人社会経済生産性本部「エネルギー教育実践校」

一、はじめに

百年に一度と言われた大不況から二年が過ぎようとしているが、経済の低迷は現在も続いている。景気は底をうち回復基調にあると言われるが、実感できるまでには至っていない。

雇用情勢は依然厳しく、社会の第一歩を踏み出そうとする高校生にとって、希望進路を実現することは容易な事ではない。確かな知識、技術・技能の基本を身につけ

ながら、将来に向かって意欲的に取り組もうとする人材が求められている。

一方、経済不況と雇用の悪化という問題に対して、新技術の創造と新規産業の創出による克服が地域を問わずうたがわれている。特に地球温暖化の防止やエコという観点から「低炭素社会」や「CO₂二五%削減」などのキーワードとともに、国あげて環境技術立国やグリーンニューデール政策などの旗印のもと、新たな国際競争の舞台が幕開こうとしている。

本校においてもすでに多くの関連する研究テーマに取り組んでおり、一つのプロジェクトとして整合性を高め、広く社会にアピールするとともに学校全体として社会に貢献する姿勢を示したい。

二、校内の主な取り組みについて

本校の取り組みの中から、環境・エネルギーに関連する主な取り組みを以下に示す。

- (1) 風力発電機の設置と利用(図1)
- (2) 太陽光発電装置の設置と開発(図2)

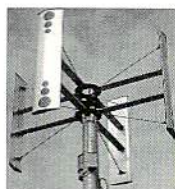


図1

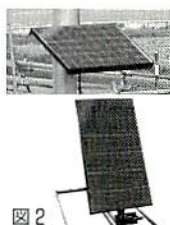


図2

(3) 電気自動車の開発

開発における主な技術課題を以下に示す。

- a. FRP成形加工技術
- b. 機械部品の精密加工技術
- c. リチウムイオンバッテリーの活用

三、ゼロエミッションプロジェクト

これらの取り組みに関係性をもたせると、風力や太陽光など化石燃料に依存しない自然エネルギーで電気自動車を走行させることができる。

二酸化炭素を放出しないことからゼロエミッションプロジェクトと名付け、さらに関連する取り組みを含めて流れ図に表したものが図3である。

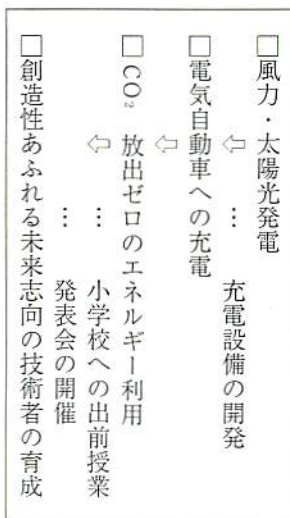


図3

四、電気自動車の開発

機械系（機械生産類）工業クラブでは電気自動車の製作を行った。学校全体で発表会を開催し、メディアを介して広く伝えられ大きな反響をいただいた。

(1) 目的

ものづくりを通じた環境問題への取り組みを実践するため、電気自動車の製作によってその課題や可能性を理解し、その将来性を地域に広める。

(2) 基本構想

実用を目指して走行性能、居住性、安全性を実現する。電源はリチウムイオン電池を主に、他の方式なども検討する。また車体の装備や機能についても新しいアイデアを提案する。（図4）

(3) 主要緒元を表1に示す。

表1

車高 mm	全長 mm	全幅 mm	車面（タイプ）
一、一五〇	二、四五〇	一、一五〇	原付四輪車（スポーツタイプ）
走行距離 km	最高速度 km	最小回転半径 mm	
三〇（一〇〇）	六〇	四〇〇〇	



図4

車両(タイプ)		原付四輪車(スポーツタイプ)		
ホイールベース	mm	一、六〇〇	モーター出力	六〇〇
トレッド	mm	一、〇〇〇	バッテリー	リチウムイオン電池
定員	名	一	電圧	V
車両重量	kg	二五〇	電流	Ah
				二二

(4) ボディーの設計、製作工程を以下に示す。

a. 設計：デザイン画 製図(3D CAD)

b. 原型製作：原型成型 樹脂の塗布

スチレンボードでボディーを輪切り状にした部分を作り、張り合わせる。段差を削りとってなめらかにして原型を製作した。(図5)

c. 雌型製作：離型材塗布 型分割切り金

ゲルコート塗布 ガラスマット

樹脂塗布 脱型

原型にガラスマットをかぶせ、約1mm厚の樹脂を塗布する。(図6)

(5) ボディー成形と塗装の工程を以下に示す。

a. 離型材塗布 b. ゲルコート塗布

c. ガラスマット d. 樹脂塗布 e. 脱型

雌型から全体を十一のパーツに分割した部分を作り、組み合わせてボディーを成形する。(図7)



図5



図6



図7

f. パテ整形

パテ整形して凹凸をなくし、下地塗装をした後に

仕上げ塗装を行った。(図8)

(6) シャシーの製作

フレームの溶接を行う。またナックル部分を旋盤で製作して取り付けを行った。必要な刃物類は自作して切削を行った。ペアリングを格納する部分の変形に配慮して

溶接を行う。(図9)

流用したブレーキを組み立て、バイク用のコイルスプリングを利用したダブルウィッシュボーン型のサスペンションを組み立てる。(図10)



図8

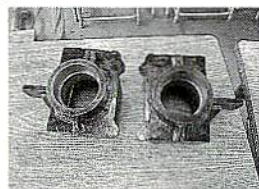


図9



図10

(7) シートの製作

適当なシートがないため、ボディ形状に合わせた運転しやすいシートを製作した。(図11)



図11



った。

a. ミッションカバーの铸造

アルミ铸件で製作するための原型を製作し、砂型铸造で製作した。(図12)

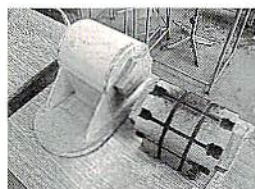
b. ミッションカバーの機械加工

マシニングセンタで切削、穴あけを行う。(図13)

c. 変速装置部品の加工



図12



(8) 駆動系の製作

電気自動車の駆動源として当初インホイールモータを検討したが、予算の都合で1個のモータで駆動させることになった。そのためモータに合ったミッションがなく、自作することにな

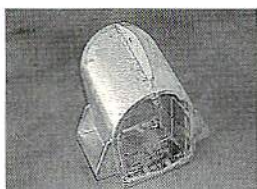


図13

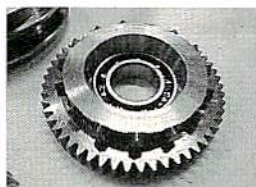


図14

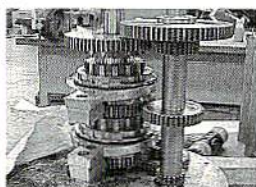


図15

生徒の中には競技会（山形県高校生ものづくりコンテスト旋盤作業部門）で優勝するなど確かな技能を有するものがあり、これらの生徒が中心となって精密な機械部品の加工を行った。（図14）

d. 変速装置部品の組み立て
歯車や変速用のシフトフォークなどの部品を製作して組み立てを行った。（図15）



図16

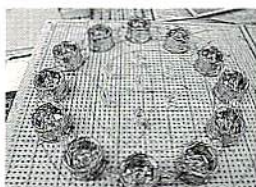


図17

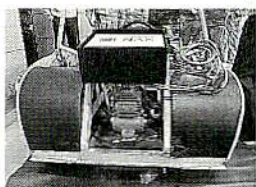


図18

- e. モータの組み込み（図16）
- (9) 電装品の製作
光源として高輝度LEDを使用した。（図17）
- (10) モータとバッテリーの搭載
車体後部に変速装置とモータを配し、その上にリチウムイオンバッテリーを搭載した。（図18）
- (11) 協力いただいた企業を表2に示す。

表2

企業名	協力内容	企業名	協力内容
エナックス	リチウムイオン電池	美尚堂工房	FRD技術
中山自動車工業	塗装技術	安全ガラス	ガラス取り付け
内藤商会	塗装材料	タイヤショップ匠屋	タイヤ
相田商会	プラスチック材料	南陽解体センター	中古部品

(12)

生徒の感想から主なものを以下に示す。

- ものづくりの難しさと面白さを知った
- 失敗から学ぶ事の大切さを知った
- 技術だけでなく、人と人とのつながりが大切であることを知った
- 予想以上に素晴らしい物を作ることが出来た。

五、電気自動車製作発表会

二月六日、本校体育館において発表会を開催した。パンフレット、会場設営、演出、市販車のパネル展示など学校全体で取り組み、生徒の進行によって行われた。企業関係者など外部から約四十名のご列席をいただき、盛大に行うことができた。(図19)



図19

六、今後の取り組み

- 電気自動車については、ナンバー取得に向けてテスト走行を行い、動力系統、シャシー関係、電装品など全般にわたって改良を行う予定である。特に計器類や電装品の制御は、電気自動車らしくコンピュータ制御

によるものを検討しており、発展性のあるものにした
い。

- (2) ナンバー取得後は小中学校へ出向き、一つの教材として環境・エネルギー問題への意識を喚起するとともに、ものづくりの面白さや楽しさを十分にアピールし、将来の技術や産業の担い手になってもらえるように呼びかけたい。

- (3) 電気自動車の周辺の設備についてはゼロエミッションプロジェクトとして次のように考えている。

a. 充電設備

現在風力及び太陽光で発電した電力を鉛蓄電池にいったん充電し、その電力をAC100Vとして利用できるようにしている。このAC100Vまたは鉛蓄電池から、直接電気自動車のバッテリーに充電できる装置を製作する予定である。

b. 発電設備

現在太陽光パネル（一二〇W×二枚）の構成であるが、パネルの増設を行うとともに、より効率を高めるために角度調整や自動追尾のできるものを研究しながら設置を行う予定である。

c. 車庫兼蓄電設備（非常用電源設備）

電気自動車は風力及び太陽光発電設備の近くに車庫を設置して保管し、充電を安全かつスムーズに行う予定である。余剰な電力は常に鉛蓄電池に蓄え、万一の災害に備えて電気自動車のバッテリーとともに非常用電源に活用できるようにする。大規模災害時の避難場所に指定されておりその役割も担わせたい。

- (4) 将来的に電気自動車を核として、風力や太陽光発電、蓄電設備など備えて、インテリジェントな送電網（スマートグリッド）の研究にも活用することが期待される。概念図を次に示す。（図20）

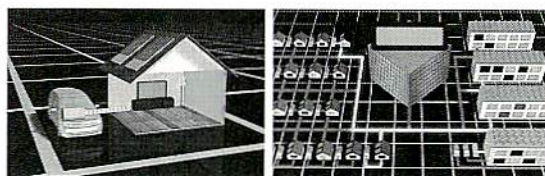


図20

七、おわりに

機械系（機械生産類）工業クラブで製作した電気自動車を全校的なプロジェクトの中核的な取り組みとして位置づけ、校内外からの協力を得て発表会を開催し、企業

関係者や地域の方々から多数参加していただいた。その様子は全国ニュースやインターネットのワールドニュースとなり、山形県内のみならず全世界に発信することが出来、大きな反響につながった。(図21)

また、学校では入学式や創立記念式、保護者会や同窓会などの行事ある毎に話の中で取り上げられたり、ニュース映像をあらためて見たりすることによって、生徒自身が社会からある一定の評価をいただいたことを実感した。しかも、単に一部の高校生が比較的難しいもの作りに挑戦したということだけではなく、学校全体での取り組みであり、自分達が置かれている技術的・経済的な環境がめまぐるしく変化する中で、今後どうなっていくのか、どのように生きていくのか等々考えさせる機会となった。



図21

今後の展開として考えるとき、電気自動車やゼロエミッションなどの新しい技術の一つの例にして、日本や自分の将来についてしっかりと生徒自身に考えさせたいものである。確かにガソリン自動車の製造技術については現在高い技術力をもつ日本ではあるが、電気自動車では激しい国際競争にさらされることになるだろう。その証拠に中国では数多くの自動車メーカーが出現して生産販売されていることや、現に高校生であってもこのような電気自動車を作ることができたことからわかる。そして同時に有望な新興市場であることも確かである。

本校としては今後もプロジェクトの取り組みを通して、創造性あふれる未来志向の技術者を育成していく所存であり、さらなるご指導・ご協力を切にお願い申し上げます。

(文責 村山 禎一 川崎 義浩)

支部だより

東京支部

平成二十一年度の東京支部は、昨年十一月十五日の「創立百二十周年記念祝賀会」を担当いたしましたでしたが滞りなくとり行う事が出来ました。各実行委員メンバーはもとより、全会員の皆様、寄宿舎生と奨学生の方々のご参加ご協力に感謝申し上げます。

さらに、懸案でありました東京興譲館寄宿舎の大規模改修工事が無事完了し、上杉名誉会長をはじめとし関係者にご出席頂き、祝賀会同日に修抜式を挙行いたしました。

東京支部の、平成二十一年度の活動を、実行日順に報告致します。

二十一年四月五日 監事による平成二十年度監査 東京

興譲館

会計収支計算書等、適法・正確を監事承認

二十一年四月十二日 創立百二十周年記念行事準備委員

会 スクワール麹町

二十一年四月二十五日 第一回理事会 スクワール麹町

定期総会議案書の最終案を審議作成

二十一年五月十日 平成二十一年度評議員会及び定期総

会 スクワール麹町

総会議案書を議決承認

総会後に恒例の新寄宿舎生（九名）と新奨学生（六名）の歓迎会

二十一年六月七日 第二回創立百二十周年記念行事準備

委員会 東京興譲館

記念行事役員の業務分担、会場視察等について

創立百二十周年記念祝賀会行事準備委員の役割分担

等

二十一年七月六日 第三次「会員倍增運動」推進お願い

情野支部長名で発信

（活動期間：二十一年四月～二十二年三月）

二十一年八月三日 第二回理事会 東京文化会館

本部評議員への支部推薦者の決定

創立百二十周年記念祝賀会準備作業等についての報告

告

二十一年九月三日 創立百二十周年記念祝賀会実行委員

幹部会 東京文化会館

同関連行事の実行内容総括について

二十一年九月六日 山形県人東京連合会 ホテルニュー

オータニ

郷里出身者との親睦交流の会へ参加

二十一年十月五日 第三回理事会（本部理事会と合同にて）東京文化会館

創立百二十周年記念祝賀会関連等の全体総括打合せ

二十一年十月十七日 創立百二十周年記念祝賀会実行委

員幹部会 東京文化会館

同関連行事の具体的準備状況確認等について

二十一年十一月十五日 東京興議館寄宿舎大改修工事の

修祓式 東京興議館

厳かに関係者一同にて直会を行い、祝賀会会場へ移動

二十一年十一月十五日 創立百二十周年記念祝賀会 都

市センターホテル

有為会歴史回顧展、伊東忠太の功績を偲ぶDVD鑑

賞会、先人顕彰の儀、上杉邦憲様の記念講演、記念

セレモニーとパーティー

来賓の方も会員も多数のご参加で大盛況でした。

ご協賛頂きました方々へ感謝申し上げます。

二十一年十一月十六日～二十一日 ふるさとおきたま

チャリティ美術展 ギャラリーくぼた別館

米沢芸術文化協会様を始め福王寺法淋、同一彦両先生から、また黒澤梧郎先生のご家族の方から貴重な作品をご提供頂きました。そして絵画愛好の会員の方々からも作品の提供を頂き、会場が大いに盛り上がりました。皆様方のご協力に、改めて感謝申し上げます。

最後になりましたが、わざわざ会場に足を運びお買い上げ頂きました方々にも、この場を借り厚くお礼申し上げます。

二十一年十二月十二日 第四回理事会 東京興議館

創立百二十周年記念祝賀会総括について

修祓式、祝賀会、美術展の各実行委員の報告

新年会及び卒業の寄宿舎生と奨学生予選会の立案・

承認

二十一年一月三十一日 新年会及び卒業学生の予饞会

スクワール麹町

会員の皆様と新年を寿ぎ、卒業の寄宿舎生（五名）

と奨学生（四名）へ上杉邦憲名誉会長、下條会長と

大関寄宿舎OB会長から饞を頂いた。

二十二年二月二十一日 東京支部総務部会 東京興譲館

平成二十二年度の総括予算等について意見交換

二十二年二月二十八日 第五回理事会 東京興譲館

平成二十一年度の諸活動総括・反省、次年度活動計画

「創立百二十周年記念祝賀会実行委員会」のメンバー
をご紹介致します。(順不同)

小森 力雄	金子 芳雄	大関 修敬
情野 文男	鈴木 脩二	石原 俊一
青木 恵子	飯沼 俊男	伊藤秀太郎
柿間 彰	金子 晃司	片平 善造
加納 和子	川合 勝雄	川井 陽一
菅野 憲幸	佐伯 雅子	須貝 英雄
鈴木 吉助	鈴木 信之	中川 紘一
西澤 榮一	沼澤 研一	羽隅 弘宣
樋口 正宏	宮坂 孝夫	山方 雅晴
吉沢 雄一	米野 宗禎	渡邊 忠義
赤井 淳一	瀧澤 新	小林 栄作
伊藤 貞治	倉田 和子	畠山みつ子
林 里子	吉田 和男	大滝 則忠
小山 泰	佐藤 幸子	橋本 享子

深澤 和子 近藤 郁子 鈴木うめよ
木村 品子 平山 英三 佐藤 毅
横山 彰人 (四十九名)

平成二十二年 東京支部の課題

- ① 新役員による新体制構築
- ② 恒例行事の円滑なる実行
- ③ 「創立百二十周年記念事業協賛金」募金への協力
- ④ 支部会員加入促進活動(二十二年四月～二十三年三月)
興譲館寄宿舎OB会と奨学生OB・OG会との連携による会員勧誘
- ⑤ 「公益社団法人米沢有為会」目標・組織の会員周知活動

東京支部会員数(平成二十二年八月現在)

個人会員 四三九名

(通常会員 三三四名・特別会員 一一五名)

賛助会員 二社(関係協力企業 二社)

訃報会員 ご生前のご協力に感謝申し上げます。
ご冥福をお祈り致します。

() 内は、命月と出身地

倉賀野	明様	(二十二年二月)	米沢市
高野	宏晃様	(二十二年二月)	米沢市
井上	ひさし様	(二十二年四月)	川西町
関	宗三様	(二十二年六月)	米沢市
孫田	忠誠様	(二十二年六月)	米沢市

(石原俊一 記)



総会（新入舎生と新奨学生）



新年会（新会員と卒業舎生）

米沢支部

平成二十二年度の現在までの支部活動状況を報告します。

○四月五日 産業部会開催。今年度の産業功労賞の表彰について協議。

○四月十一日 米沢支部監査

○四月十六日 総会にむけて副支部長と各部長で構成する支部運営会議を開催し、支部の運営に関する協議を行った。

○五月十六日 有為会奨学生検討会が米沢で開催。

【第一回理事会】

○五月十八日 午後一時三十分から米沢市役所庁議室において開催した。

内容は、平成二十一年度米沢支部事業報告及び決算報告を承認し、平成二十二年度事業計画及び予算案を決定した。又、この理事会において教育産業功労賞表彰の選考委員を選任し、選考について一任した。本部表彰該当者については会長に報告し、決定をうけることになる。

今年度は役員改選の時期ではないが、現職理事の異動・死亡により理事二名の補充変更と評議員一名の増員が原案通り議決された。

○六月二日 教育部会を開催。表彰状の案文作成依頼を行った。

【総会】

○六月十二日 午後二時 ホテルサンルート米沢 安部三十郎支部長挨拶の後、議事に入る。二十一年度支部庶務報告及び決算が承認され、二十二年度事業計画案及び予算案が審議され、原案通り議決した。

庶務報告の中で、支部会員数の状況が説明された。

役員の改選については佐藤他人他理事の死去に伴う補充で種村信次氏が、興譲館高校校長蒲生直樹氏の退職に伴い新校長の佐藤広明氏が新理事に就任し、新評議員に加藤正人氏が就任した。

続いて支部の表彰式に移り次の皆さんが受賞した。

〈教育功労賞〉

○岡村哲幹

米沢第三中学校陸上部顧問を務め、熱心な指導で選手を育成し、特に平成十九年度県中学校総合体育大会

において女子総合優勝を米沢にもたらした。さらに、平成二十、二十一年度は全国優勝及び入賞する選手を育成している。

〈産業功労賞〉今年度支部表彰はなし。

〈特別顕彰〉(以下 敬称略)

○青木順一(白鷹町立東根小六年)

平成二十一年度山形県学童水泳記録会百M背泳に優勝し最優秀選手賞を得た

○紺野蒼天(白鷹町立東根小六年)

平成二十一年度まで三年連続で山形県学童水泳記録会において優勝準優勝を重ねた

○大竹聖哉(南陽市立沖郷小六年)

第二十五回山形県小学生陸上競技大会百Mで優勝し、全国大会にも出場

○木伏有希(高畠町立糠野目小六年)

第二十五回山形県小学生陸上競技大会女子八十Mハドルで優勝し、全国大会にも出場

○遠藤花琳(米沢市立第三中学校一年)

第三十回東北中学校陸上競技大会一年女子千五百M優勝

○加藤優希菜(南陽市立宮内中学校三年)

第五十五回青少年読書感想文全国コンクールにおいて、毎日新聞社賞を受賞

○高橋美咲(川西一中三年)

第五十四回全日本中学校通信陸上競技大会三年女子百m第六位(十二秒三六)

○荒井夏実(米沢東高校三年)

平成二十一年度フエンシング競技の選抜大会やインターハイに出場し、団体・個人で入賞

○山形県立置賜農業高校

置賜MOTT

AINAI研究会の一員として、食品廃棄物の再利用に取り組み家畜飼料を



完成させ、第十回環境山形大賞や第十六回ココロ環境教育賞「次世代支援部門」大賞など多くの賞を受賞し高い評価を得た。

その後、安部三十郎支部長のあいさつ、受賞者のあいさつと続き全員で記念撮影をして表彰式を終了した。

「表彰者代表による発表」

置賜農業高校MOTTA INAIプロジェクトチームが小学校や中学校に出向いて行なっている出前授業の様子を再現してもらった。



「懇親会」

受賞者を交えて懇親会に移り、本会の理事、評議員、監事、教育委員、一般会員で和やかな懇親会となった。

○七月十四日 支部運営会議 秋の講演会・交流いも煮会や支部だよりについて協議。

○七月十五日 米沢有為会所有の山林視察 高橋・梅津両副支部長と手塚総務部長そして鈴木常務理事の四名で大江町現地を視察後、西川町の西村山地方森林組合を訪問した。



○八月四日 教育部会開催 教育関係者に対する新規会員勧誘について協議。

○八月七日 支部だより、講演会・交流いも煮会の案内状発送。(理事評議員十名の協力)

○八月十一日 奨学生検討会米沢市で開催 課題について検討した。

○八月三十一日 総務部・組織部合同会議開催。役員会、講演会、芋煮会の運営について協議

○九月十二日 午後三時 ホテルサンルート米沢

・米沢支部理事評議員合同会議

今年度の事業内容や各部の構成などを改めて説明。又、理事・評議員の任期途中の交代により選任された新任者3名の紹介を行った。

新理事 種村 信次氏・佐藤 広明氏

新評議員 加藤 正人氏

・支部講演会 午後三時三十分

講師に山形大学大学院理工学研究科ものづくり技術経営学専攻長 松田 修教授(有為会会員)を迎え、「持続可能な地域社会を目指して」と題しての講演会が開催された。



・会員交流いも煮会 午後四時三十分

講師を囲み約四十名の出席者により、和やかに開催された。

(常務理事 鈴木幸一記)

仙台支部

仙台支部の近況を報告します。

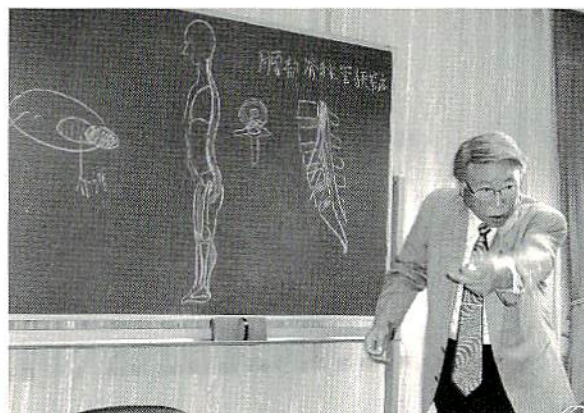
平成二十二年度の仙台支部総会が六月十二日(土)、昨年と同様、県庁近くの仙台ビジネスホテルで開催され、会員二十名、招待学生三名に、来賓として東京から来仙された須貝英雄副会長を加えた二十四名が出席しました。仙台支部の総会時の会員数は九十四名、三年前の同時期の会員数六十九名から二十五名増加していますが、昨年の総会時からの伸びは二名と小さく、会員増強は苦戦しています。今年の役員の異動としては、加川巖氏の理事就任、高屋晴三氏の監事退任、大武清夫氏の監事就任があります。総会では例年通り、前年度の事業報告、決算を了承し、新年度の予算案、事業計画が審議、承認されました。本年度の活動は、仙台寮の入寮生募集の強化と会員の交流の一層の推進を重点とします。

総会に続いて、前支部長で整形外科医の中條仁先生を講師とする講演会に入りました。演題は「ロコモティブシンドローム(運動器症候群、略称ロコモ)」です。「ロコモ」は、骨、関節、筋肉などの機能が衰えて生活の自

立度が低下し、要介護やさらには寝たきりになる可能性の高い状態を言うとのことで、こうした状態が起きてくる原因と手軽な診断法、その予防と回復のためのトレーニングなどについて、平易に解説して下さい

ました。心当たりのある症状を抱える年輩の聴衆には大変有り難い話で、多くの質問がありました。講演会は今回が初めてで、支部では今後も会員が講師を務める講演会を開催していく予定です。

講演会の後はお待ちかねの懇親会に移り、ビールでの



2010年6月12日 講演会

どを潤しながら、久しぶりの顔合わせに話が弾みました。支部は懇親のイベントとして、支部総会時の懇親会その他に、秋の懇親会としての「芋煮会」を、例年、寮のすぐ近くを流れる広瀬川の川原で開催しています。ちなみに、その辺りは、一般市民のグループ、大学の研究室、サークル等の格好の芋煮会の会場となっていて、シーズンになると大賑わいとなります。昨年は改装なった寮を見ていただくことも兼ねて、寮生の親にも案内しました。改修工事が完了して間もない十月十日、会員、寮生に、米沢から来られた二人の寮生のご両親、寮生OB、改修工事を行った会社の方も加わって総勢二十七名が青空の下、米沢直送の材料で寮生がおいしく作ってくれた芋煮を、寮生のご両親と会員からいただいた郷里の酒、漬け物とともに楽しみました。今年の芋煮会は十月九日に予定されています。

支部では、こうした懇親会他に、支部だよりを充実させ会員の交流の促進を図りたいと考えています。支部だよりは、東京支部や米沢支部にならって平成二十年に創刊されました。昨年は三、四号を発行し、今年度は五号を五月に発行、今後年度内に七号まで発行の予定です。会員や寮生の顔が見えるような内容を心がけるとともに



2009年10月10日 芋煮会

に、寮生活に関する情報や、会員の交流を促進し、交流の輪を拡げるのに役立つ企画を、他支部の支部だよりも参考にして盛り込むつもりです。この支部だよりは、全くの手作りで、必要経費は消耗品代と送料だけという、支部の懐に極めてやさしい形で発行されていますが、その分編集者の負担は大きく、その労をとって下さる方がおられることは支部にとって幸いです。

仙台支部が抱える頭の痛い問題は、仙台寮の入寮希望者が少ないことです。昨今の厳しい経済情勢に大改修が追い風となつて、入寮希望者は増加するものと期待していましたが、その期待は甘く、今年の新入寮生は二名に留まりました。年度末の卒退寮生二名と相殺し、定員二十五名に対し寮生数は十三のままです。せっかく大改修した施設が有効に使用されていないのは甚だ残念です。健康的な食事を賄っていたく寮母さんをお願いし、経済的寮費に押さえるためには、十八名程度の寮生が必要ですので、逆算すると毎年五名程度の新入寮生は欲しいところです。

仙台の場合、アパートの家賃が三〜四万円程度で、寮に入れば年間四十万円程度親の負担が少なくてすみません。これだけの経済的なメリットがあるにもかかわらず、

入寮希望者が少ない主な原因は、置賜地方の若者も、日本の平均的若者と同様、共同生活を嫌うことにあると思われませんが、会や寮生会から、米沢市はじめ置賜の各市町村、各高校、県へ送られている寮生募集案内が、受験生には伝わっていても、その親にまではよく伝わっていない可能性も考えられます。

きめこまかな案内をどのようにやるか、特に名案はありませんが、個々の会員から、周辺の受験生の親に案内することはひとつの可能な方法と考えられます。仙台支部としては、米沢支部の会員の方から、仙台での勉学を望んでいる受験生（もし近所にいましたら）の親へ仙台興譲館寮を案内いただければ大変有り難く存じます。

寮は単なる安宿ではなく、寮での共同生活経験が、社会生活に不可欠なコミュニケーション能力やリーダーシップ、協調性等を涵養し、人間形成や能力形成に役立っていることは、舎生OBの多くの方々が実証しているところです。支部としては、経済的メリットに加えて、寮生活で得られるものも、これまでに以上に広報して行かねばならないと考えています。

（仙台支部長 甲 國信）

京都支部

平成二十一年度有為会京都支部総会を六月十三日宇治の黄檗山萬福寺で開催。萬福寺は一六六一年に開創された、いわゆる唐風のお寺で中国明代そのままの法式梵唄を継承している。伽藍配置も創建当初そのまま日本には他にその例がなく、代表的な禅宗伽藍建築群として、主要建物二十三、回廊、額、聯などが国の重要文化財に指定されている。精進料理の「普茶料理」が有名で厨房にもお坊さん、給仕もお坊さんで一同舌鼓をうつ。

参加者は家族、来賓を含めて二十二二人、会は両公遙拝に始まり、支部長挨拶、諸報告と続き、その後顧問の新野氏の旧藩時代における「最上川（五百川峡谷）・舟道開削工法の公開検証結果報告書」なる話を聞く。

◆懇親会の最後はボナンザの三択クイズ 出題 高橋

米沢は今年で市制何年になるか、最初に市制が敷かれた明治二十二年四月一日全国で市になった町はいくつあるか、等々。

米沢はその時点で市になった三十一の中に入る全国



で最古の市歴がある。

今や平成の大合併で全国で市は七百八十六を数える。他に米沢・福島間に鉄道が敷かれたのはいつ、米坂線の開通はいつなど十問。十問正解が一人あった。

新入会員 島津 明仁氏

(米沢工業高 昭和五十年卒)

支部役員の一部更改 新副支部長 高橋 雅雄

新評議員 北郷 勝氏 佐藤 恒夫氏

退任評議員 塩野 光助氏

(高橋 記)

有為会 三択クイズ

平成二十二年六月十三日

問1 米沢市は今年で市制

☐

1. 一一年 2. 一二年 3. 一三一年 を迎える

問2 市制が敷かれた明治二十二年四月一日 全国で市になった

町は米沢を含めて

☐

1. 二一市 2. 三十一市 3. 四十一市 であつた

問3 当時米沢の人口は

☐

1. 約三万人 2. 約四万人 3. 約五万人

問4 現在の米沢の人口は

☐

1. 約七万人 2. 約九万人 3. 約十万人

問5 米沢・福島間に鉄道が敷設されたのは

☐

1. 明治三十二年 2. 明治三十五年 3. 明治四十年

問6 米沢・福島間が電化されたのは

☐

1. 昭和十年 2. 昭和十四年 3. 昭和二十年

問7 米坂線の開通は

☐

1. 昭和十一年 2. 昭和十六年 3. 昭和二十年

問8 1. 鷹山公が十代目藩主として日向高鍋藩から米沢藩入り

したのは

☐

1. 十五歳 2. 十七歳 3. 十九歳

問9 現在の上杉家当主邦憲さんは

☐

1. 十五代目 2. 十七代目 3. 二十代目

問10 日本人で尊敬する人物と聞かれて「ウエスギウザン」と

答えたアメリカの大統領は

☐

1. アイゼンハウアー 2. ブッシュ 3. ケネディ

★「伝国の辞」 鷹山の顕わした二百年前の主権在民の教え、

思想

米沢を開いた人で最も早く歴史上に現れた人物は長井時広である。彼は鎌倉幕府の重臣大江広元の次子。父の命で多大な困難を克服して米沢を造った。その後伊達藩の領主となり政宗はここで生まれた。そして蒲生時代になり、慶長三年（一五九九年）上杉領となる。景勝の知恵袋直江兼続などが當々と再開発したことで知られる。

☐

合計点

お名前

皆さんも挑戦してみてください。回答は五二ページ。

北海道支部

札幌を拠点にしている米沢出身のスキージャンパーが、二月に札幌で開かれた第六十五回冬季国体スペシャルジャンプにふるさと選手として出場し、優勝するなど大活躍しました。当支部はオフシーズンを待って鶴城工親会北海道支部と合同で、その祝勝激励会を開催、選手たちをねぎらいました。

国体ジャンプは札幌宮の森ジャンプツェで行なわれ、少年組に米沢工業高校生の三人、成年B組に坂野幸夫選手（雪印）、同A組に佐々木悠兵選手（日本空調サービス）と米沢から桐生貴幸選手（桐生建設）が出場しました。暖気のため朝方まで雨が降り、助走路に水が浮く悪コンディションの中で選手たちは果敢に戦い、坂野選手が八七・五の最長不倒距離をマークし五輪代表を抑えてトップに立ち、佐々木選手も九五・一まで延ばし三位の好位置に付けました。風が強まって二回目が中止され、一回目の記録で順位が決まり坂野選手の優勝となりました。出場は勤務先の滋賀県からだった遠藤晃太選手（米工出身）は七位入賞でした。



賞状を手にする佐々木（左から2人目）、坂野（同3人目）、遠藤の3選手

佐藤豊相談役ら当会会員は、スタンドに「がんばれ北海道」の旗を張り出し、声援を送りました。

祝勝会は四月二十一日、坂野、佐々木の両選手を招いて札幌・ススキノの居酒屋で開催し、当会と鶴城工親会の会員十六人が参加しました。魚住昌也札幌山形県人会長も加わり、「この成績に満足することなく、次はオリンピックを目指してほしい」と励まし、更なる活躍を祈って祝杯をあげました。坂野選手らは「二本飛んで文句なく優勝したかった。皆さんの応援を背に受けて、トレーニングを積んでもっと上を狙います」と精進を誓っていました。

一方、恒例の今年の「いも煮会」が九月二十六日（日）、サッポロさとらんどで催されます。鶴城工親会との合同開催で既に準備会も終了、サトイモ、肉などの食材をふるさとかから取り寄せる手配を済ませています。会場の設営、芋むきなどすべて手づくりで行なっており、野外で大鍋三つに煮込む「故郷の味」が好評で、今年も五十人を超す参加者を見込んでいます。

支部の総会はいつものように十一月二十三日の祝日、ススキノの温泉施設で開催、親睦を深める予定です。

（北海道支部長・安部英夫）



故郷の選手の活躍を祝った支部会員ら

興讓館寮だより

東京興讓館

益 満 望

今が立秋であることを忘れてしまいそうな厳しい暑さが尾を引き、記録的な真夏日が続く中、秋の訪れを待ち遠しく感じる日々です。この暑さに気が滅入らないよう己を律し、気を緩めずに日々の生活を送っていききたいものです。

さて、東京興讓館では今春、卒業生六名が退寮しましたが、その穴を埋めるかのように五名の新入舎生が入寮することとなり、総勢二十四名という賑やかな様相を呈しています。昨年十一月には寮の改修工事も終わり、真新しい寮と新入舎生の入寮という二つの新しい風が吹き込んだ結果、いささか賑やかすぎるくらいですがそれもまた東京興讓館らしいと言えるでしょう。新入舎生の方々にはまだまだ寮生活や東京での生活に慣れておらず、とまどう場面も多々あるとは思いますが、その中で

自分なりに目的を見つけ勉学のみに限らず日々の生活の中の様々な出来事に対しても実りのある大学生活を送って欲しいものです。また上級生もそんな新入舎生の指標となり、また自分自身にも新たな目標を見つけ互いに切磋琢磨しあつてほしいです。

近年は価値観の変化からか共同生活という形態をとる寮生活を選択する学生は減ってきていますが、しかしこのような時代だからこそ共同生活で得られるものはいかにあると感じています。風呂や廊下の掃除や寮全体の大掃除、月に一回開かれる舎生会の出席など共同生活ならではの規則や各人が負うべき責務はありますが、それらを守るあるいは担うことによって自分の行動に責任を持ちお互いを気遣う気持ちが生じます。また東京という見知らぬ土地で右も左も分からない中、同郷の先輩、同期、後輩がいる寮があるというのは安心しますし貴重なことでしょう。またコンパなどで皆が時間を忘れ楽しむことも、同じ釜の飯を食べあうというができるのも寮生活ならではのです。個人主義が主流になりつつある中、大学生活において寮で共同生活を営むということは何にも変えがたい経験と一生物の仲間を得る機会となるで

しょう。

このような寮生活を送れるのも様々な方々のサポートがあるからこそだと思います。私たちに日々の食事を不足なく提供してくれる寮母の三浦さん、学生会やコンパに限らず常に私たちの様子を見に来、時にはアドバイスを励ましの言葉をかけてくださる館長の沼澤さん、副館長の川合さん、事務局長の中川さん、そして私たちの寮生活を根底から支え続けてくださっている米沢有為会の皆様には頭が上がりないほど感謝の気持ちでいっぱいです。このような恵まれた環境を与えてくださっている皆様のためなのはもちろんのこと、私たち自身のためにも自分自身を高め、期待に応えていきますようより一層の努力をしてまいりますのでこれからもどうぞよろしくお願いいたします。

最後になりますが寮生の紹介をさせていただきます。

○大学院二年生

鈴木 浩晃〔関東学院大学法務研究科実務法学専攻〕

（泰星高校）

○四年生

舟山 智徳〔東京外国語大学外国語学部マレーシア語学科〕

（長井高校）

鈴木 浩輝〔慶應義塾大学法学部法律学科〕

（泰星高校）

須藤 龍司〔明治大学農学部農業経済学科〕

（南陽高校）

益満 望〔桜美林大学リベラルアーツ学群〕

（米沢中央高校）

山田 伸〔法政大学工学部電子情報学科〕

（米沢興譲館高校）

田中 大輔〔日本大学法学部管理行政学科〕

（日大山形高校）

○三年生

後藤健太郎〔東京学芸大学教育学部B類英語学科〕

（米沢興譲館高校）

中村 竜也〔国士館大学法学部法律学科〕

（米沢中央高校）

樋口 駿〔東京大学理科一類〕

（長井高校）

船山 宏樹〔立教大学理学部数学科〕

(米沢興讓館高校)

菊池 邦貴〔日本大学文理学部心理学科〕

(米沢興讓館高校)

松本龍太郎〔慶應義塾大学文学部人文社会学科〕

(長井高校)

○二年生

相田 拓樹〔明治大学文学部文学科〕

(九里高校)

佐藤 拓弥〔高千穂大学商学部商学科〕

(米沢商業高校)

島津 良輔〔東洋大学法学部企業法学科〕

(長井高校)

玉橋 一馬〔東京理科大学理学部化学科〕

(米沢興讓館高校)

元木 康長〔法政大学法学部法律学科〕

(長井高校)

山田 溪介〔専修大学経営学部経営学科〕

(米沢興讓館高校)

○一年生

佐藤 浩彰〔神奈川大学工学部機械工学科〕

(米沢東高校)

島貫 翔伍〔明治大学商学部商学科〕

(八千代高校)

高橋 心〔電気通信大学情報理工学部知能機械工学科〕

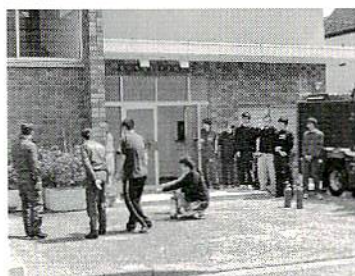
(米沢興讓館高校)

富樫 史博〔日本大学文理学部地球システム学科〕

(基督教独立学園)

山下 智昭〔中央大学商学部会計学科〕

(米沢興讓館高校)



消火訓練の様子

仙台興讓館

塩田 紳

夏が主役の座をまだまだ譲らず、秋の虫の声や木々の紅葉がいよいよ待ち遠しくも、ここ数年にない猛暑続きに日本の四季の鮮やかさを改めて感じさせられる今日の頃、毎日早朝からガラガラと照りつける太陽は、我々の気持ちさえもカラッと晴らしてくれるようです。

ちょうど昨年の今頃は、百二十周年記念事業である寮の改修工事の真っ最中でありました。可能な限り我々寮生の要望を取り入れて頂いた結果、長年の歴史が薫るくすんだ畳はフローリングへと姿を変え、日焼けで色あせていた壁やカーテンは本来の色を取り戻しました。改修作業が進むにつれて、歴代の先輩方の思い出が詰まった床の傷や壁の穴が消えていくのは少し寂しくもありましたが、改修を終え一年が経った今では、そんな歴史を今度は自分達がここに少しずつ刻んでいくのだと、感謝の気持ちを抱くとともに妙な使命感に燃えてさえいるところです。

そんなリニューアルした寮の下に、今年度は新たに二

名の新入寮生を迎え、総勢一三名でスタートを切ることが出来ました。しかし、二人の新入寮生によって寮生の減少は免れたものの、減少傾向にある在寮生の問題は依然として深刻です。個人の尊重やプライバシーの保護が強調される昨今、恐らく一般的な寮生活に対する印象は数年前のものとは違ってきており、ネット社会の発展、拡大に伴う社会における人間関係の希薄化の影響などもあってか、大学生活を寮で過ごすという選択肢がなかなか選ばれにくくなっているのではないのでしょうか。キャンパスライフへの期待に胸躍らせている若者たちの中の「寮生活」とはさしずめ、ひとり暮らしとは違う、個人の自由が少なからず制約される、常に他人を意識しての窮屈な生活、といったところなのでしょう。確かに、私自身も持ち前の人見知りが手伝い、入寮にあたっては集団生活へ並々ならぬ不安を抱いていたことを今でも覚えていますが、時に寮全体が個人に優先されるというのも事実です。しかしながら、そんな不安の根源であり、寮が回避されがちになる要因である「集団生活」とは、ときに不自由な思いをしながらも、貴重な大学生活を常に刺激し合える仲間と共に過ごすことが出来る貴重な体験に他ならず、そうした時間を思い出として永遠に共有で

きる仲間を得られることこそが、寮生活における最大の利点だと思うのです。

いまだ現役生ながら私が強くこのように思うのには、少々個人的な理由があります。私の母校である南陽市立吉野中学校は、今年度より廃校となっていました。それはもちろん残念ではありましたが、形としての思い出がなくなる一方で、同窓会で久々に集まった仲間達との間で中学時代の話題は尽きることがなく、気付けば一夜を語り明かしていました。その時私は思ったのです。確かに学び舎はなくなってしまったけれど、そこでこの仲間達とともに文武に励み学んだこと、いや、他愛もない話で笑いあった時間でさえも、こうして何年後かに語りあえる仲間がいることで何より貴重な財産になるのだと。

そんな仲間をつくるのに、寮ほど適した環境はないのではないのでしょうか。同じ釜の飯を食い、時に羽目を外してバカ騒ぎし、時に激しく意見をぶつけ合いながら共に高め合った仲間達との関係は、きっと永遠に変わることはないでしょう。同期生との思い出を語ってくださっている時の寮OBの先生方の、まるで学生時代に戻ったかのようにこやかな表情が、私にそう確信させてくれ

るのです。

最後になりますが、そんなかけがえのない仲間とともに、新しく生まれ変わった寮の下で有意義な生活を送ることが出来るのも、甲仙台支部長、御供仙台興讓館館長をはじめ、多くの米沢有為会の皆様や、我々にとって「仙台の母」ともいえる寮母の小野寺さんのおかげであり、寮生一同感謝の気持ちでいっぱいです。今後もそんな感謝の気持ちを常に忘れず、互に切磋琢磨しながら各々の目標に向けて日々精進していきたいと思っています。

○大学院生

那須 譲治〔東北大学大学院理学研究科物理学専攻〕
(長井高校)

○四年生

荒井 達矢〔東北学院大学経済学部〕
(米沢中央高校)
島森 拓土〔東北大学理学部数学科〕
(米沢興讓館高校)

○三年生

塩田 紳〔東北大学法学部〕

(山形東高校)

島貫 洋平〔東北大学文学部人文社会学科〕

(長井高校)

高橋 玄〔東北福祉大学総合福祉学部社会福祉学科〕

(日本大学山形高校)

宮坂 匡〔東北学院大学経済学部〕

(米沢中央高校)

○二年生

青木 謙人〔東北大学工学部材料科学総合学科〕

(米沢興譲館高校)

安部 玄樹〔東北大学法学部〕

(米沢興譲館高校)

佐藤 丈洋〔東北大学医学部保健学科放射線技術科学専攻〕

(長井高校)

原田 学思〔東北大学工学部機械知能航空工学科〕

(米沢興譲館高校)

○一年生

遠藤 季理〔東北大学経済学部〕

(米沢興譲館高校)

太田 嵩人〔東北工業大学工学部知能エレクトロニクス学科〕

(米沢中央高校)



今年度の新入寮生面接



今年度の新歓コンパ

京都支部 三振クイズ回答

問 1 1 2
問 2 1 2
(22年度中に39市となる)
問 3 1 1
問 4 1 2

問 5 1 1
問 6 1 ミス
(昭和24年でした)
問 7 1 1
問 8 1 2
問 9 1 2
問 10 1 3

我妻榮記念館だより

我妻榮記念館は、民法学者我妻榮先生の生家です。先生は明治三十年鉄砲屋町（現在の中央三丁目）に五人兄弟の長男として生まれ、（姉が二人、妹が二人）十七歳で第一高等学校に入学するまでこの家で過ごされました。

この建物は明治初期に建てられたもので、米沢においてはごく一般的な木造一部二階建てで、現在では大変貴重な建物になっています。

大正六年に米沢で大火があり、榮先生の父上の又次郎さん（高等学校の英語の先生）の教え子達が消火活動にかけつけて類焼をまぬがれましたが、我妻家は市内の他の地区へ引越され、大正七年に大友家が買い受けて昭和六十三年まで七十年間住み、県外に転居されました。

そのあと市内の建設業者の手に渡り老朽建築物であることから解体の運命になりましたが、取り壊しになる寸前に我妻榮先生の生家という事がわかり、維持保存の機運が高まり、平成元年米沢有為会創設百周年という節目に際し、我妻榮旧居宅取得が了承されました。

そして、記念館として開館する整備を行い、遺族から

の寄贈品を展示し、平成四年六月十九日に「我妻榮記念館」として開館し現在に至っています。来館された方々は、我妻榮先生の生家に触れられ感激されています。

初代館長 松野良寅（平成四年六月～十四年五月）

二代館長 今田久夫（平成十四年六月～二十年五月）

三代館長 伊藤和夫（平成二十年六月～二十一年五月）

四代館長 上村勘二（平成二十一年六月～）

○平成二十一年度の運営報告

・年間開館日

毎週金曜日、日曜日は午後一時～四時、月曜日は午前十時～午後四時まで開館。

年末年始休館で一六〇日開館、他に臨時開館五日。

・入館者数 四四〇名

大河ドラマ「天地人」の放映で、全国各地から多数の方が来館されました。

・記念館の利用

鉄砲屋町町内会、鷹山公と先人を顕彰する会などの団体利用 二五五名。

米沢有為会米沢支部役員会、各部会など 一五九名。

・補修整備

雪囲い、ウコギ垣根刈り込み・植栽・消毒・剪定、廊

下の敷居修理、トイレのドア・スロープの修理。

・備品購入

除湿機。

・印刷・出版

我妻榮記念館だより第十四号。

・その他

興譲館高校（自願奨学財団）の生徒・父兄二十二名の方々に、記念館の内外の清掃奉仕をしていただき、終了後、館長の講義がありました。

○平成二十二年度の運営計画

・建物の補修整備

・各種資料の整備

・各種資料の保存方法の検討

・資料（原稿）のマイクロフィルム化の実施

・利用拡大、広報PRの検討

・記念館だよりの発行（年一回）

・運営委員会の開催（年二回）

・その他必要な事項

・運営事業予算額二百六十万円（負担金四十五万円、補助金百六十万二千円、雑収入、繰越金）

○記念館の運営体制

平成四年の開館以来、館長、事務局長、管理人を置き管理運営をしております。

《二十二～二十三年度》

名誉館長 我妻 堯

顧問 松野 良寅・小関 薫・今田 久夫

館長 上村 勘二

事務局長 鈴木 幸一

管理人 小林 秀一

運営委員 遠藤 拓・安部 敏・五十嵐京子

高橋 節子・本多 和彦

展示室 先生愛用の蓄音機と趣味で使われた釣りざお

茶の間 有為会歴代会長の写真を掲示

展示室 判例を一件づつカード化した判例カード



平成22年4月現在

置賜地区等高等学校卒業生の寄宿舍、奨学制度利用者10年間推移表

(総務部調べ)

	H13年			H14年			H15年			H16年			H17年			H18年			H19年			H20年			H21年			H22年			合計(名)		
	東京興譲館	仙台興譲館	奨学金貸費	東京興譲館	仙台興譲館	奨学金貸費	東京興譲館	仙台興譲館	奨学金貸費	東京興譲館	仙台興譲館	奨学金貸費	東京興譲館	仙台興譲館	奨学金貸費	東京興譲館	仙台興譲館	奨学金貸費	東京興譲館	仙台興譲館	奨学金貸費	東京興譲館	仙台興譲館	奨学金貸費	東京興譲館	仙台興譲館	奨学金貸費	東京興譲館	仙台興譲館	奨学金貸費			
米沢興譲館高校	3	1	2	5	3	1	4	1	2	3	3	5	5	1	3	4	2	3	1	1	4	2	2	1	3	3	3	2	1	3	32	18	27
米 沢 東 高 校		1	1	2		1			2	1					1	1						2	1	1						5	1	6	
米沢工業高校														1						1										0	1	1	
米沢商業高校	2		1			1											1						1							3	0	3	
九里学園高校														1									1		1					1	1	1	
米沢中央高校										2	1	1				1			1	2		1				1		1		5	4	2	
長 井 高 校		3			2								1			1			1			1	1	1	3	1	2			6	8	3	
長井工業高校										1								1											1	1	0	3	
荒 砥 高 校																														0	0	0	
南 陽 高 校					3	1		2			1							1												1	6	1	
高 畠 高 校																														0	0	0	
小 国 高 校																														0	0	0	
置賜農業高校				1																										1	0	0	
山 形 東				1										1		1	1					1				1				3	1	2	
山 形 中 央														1																1	0	0	
日 大 山 形																						1	1							1	1	0	
山 形 工 業																								1						0	0	1	
そ の 他										1								1						1			2			5	0	0	
計 (名)	5	5	4	9	8	4	4	3	4	8	5	6	8	3	5	8	2	5	4	4	5	5	5	3	9	4	9	5	2	4	65	41	49

私の志——二十二年度奨学生の作文

会 田 俊

私には薬の力で病気に苦しむ人々を救いたいという夢があります。そう考えるようになった理由は弟が筋強直性ジストロフィーを患ったためです。この病気は大変珍しく、根本的な治療法は現在確立されておらず完治することは見込めません。しかし、弟は病気の進行を抑える薬を服用して元気に高校生活を送っています。その姿を見て薬が人々の日常的な幸せを支えることを実感し、私も薬を通して社会貢献したいと考えるようになりました。

医療技術の進歩により、何らかの慢性疾患で薬を服用しながら日常を過ごす人々がたくさんいます。そのようなことから、薬は大変身近な存在になったように思いますが、しかし薬には副作用や薬害もあることを忘れてはなりません。患者の日常生活全般とQOLを考慮しながら、薬と付き合っていくように助言できる薬剤師になりたい

いと考えています。そのために春から東京薬科大学で勉学に励みたいと思います。

宇 野 大 貴

私は大学に入学した後、化学の勉強を続けていき、その知識を活かして日本の医学の発展に結びつくような物質の研究をしたいと考えています。私は大学で有機化学を専門的に学び、医薬品についての基本的な知識を得て未だに特効薬が開発されていない病気の薬の開発に携わっていくのが私の目標です。

現在、化学についての新たな発見あるいは医薬品の開発などは難しいとされています。しかし私はそのような状況の中でも新しいことに挑戦し、新たな発見をして医学に貢献することで多くの人の命を救いたいと考えています。私の母校を設立した上杉鷹山公は「為せば成る、為さねば成らぬ何事も、成らぬは人の為さぬなりけり」という言葉を残しました。この言葉のとおり、私はとにかく新しいことに挑戦していき、いずれは自分自身の本懐を遂げたいと思います。

今後毎日々精進して、自分の目標に向かって努力していきます。

島 貫 夏 実

私は将来管理栄養士となり、多くの人々の健康を食の面から支えたいと考えています。

私が将来働きたい場所は病院です。病氣などで苦しむ患者それぞれの状態に合った食事を提供し、病氣などを治す力になりたいと考えています。また、病氣にかかった人だけではなく、病氣の予防のための栄養指導もしたいと考えています。現在、生活習慣病など食生活の乱れなどから病氣にかかる人が増えています。また、生命の危機に関わる病氣につながることもあります。これから生活習慣病はより一層広まると考えられ、ますます栄養指導の強化が求められます。私は栄養指導により、生活習慣病などにかかる人を一人でも多く減らし、健康的な生活を送れるようサポートしたいと考えています。そのため、大学に入学してからは、栄養学などの基本的な知識を学ぶことはもちろん、実習なども意欲的に行い、将

来立派な管理栄養士になれるよう努力したいです。

丸 山 昂

私は、将来、地元山形でシステムエンジニアになりたいと強く思っています。

そう心に決めたのは、高校の授業がきっかけでした。長井工業でパソコンを使用したプログラミング演習や情報技術検定に取り組んで行く過程で情報の教科に興味を持ちこの分野を歩もうと決意しました。

その目標のためにも自分で考える力や、より高度な知識を高めていきたいと思い山形大学工学部に入学しようと決めました。大学では、目標の達成に大切なことである情報の基礎を固めどんな応用でも対応できるように勉強していきたいです。入学してからは、新しい環境に今まで以上に難しい勉強が待っています。その中でも挫けず自分の心に負けない克己心を忘れずに日々の勉強に取り組み、同じ夢を追う仲間を見つけ目標に向けて精進していきたいです。

置賜市町だより

米沢市

ぶらり米沢 里帰り

米沢出身者、米沢に住んだ経験がある人、そして米沢に興味のある人に再び米沢を訪れていただき、四季折々の魅力体験と交流をとおしてふるさと米沢を思う心を育み、米沢を愛する多くの人々がぎぎを強め、元気で活力あるふるさと米沢の発展を目指して開催する、参加体験型のイベントであると同時に、これまで活用されていない本市の地域資源を発掘し磨き上げるチャレンジでもあります。

旧会津街道トレッキング／ブナ山森林浴・草木塔巡り

二〇〇九年の冬に第一回目の企画を実施し、第二回目となる今年は春の米沢の新たな魅力を発見する新緑の山歩き、歴史が息づく旧街道トレッキングを企画、土地人の流れを受け前年復活した旧会津街道松原峠ルートのコースと、旧大峠周辺のブナ山で森林浴の後、地域の文



ブナ山森林浴・草木塔巡り



旧会津街道トレッキング

化遺産「草木摺」を学ぶコースで心地よい汗を流し、その後両コースとも北部コミュニティセンターでの大交流会で盛り上がりました。

冬そして春と毎回約一〇〇人もの皆様にご参加いただきました。

第三回目は、二〇一一年夏の開催です。内容に工夫をこらしより多くの人に感動を与えられるようがんばりますので応援よろしく願います。ホームページもぜひ、ご覧ください。＼ぶらり米沢里帰り＼で検索できます。

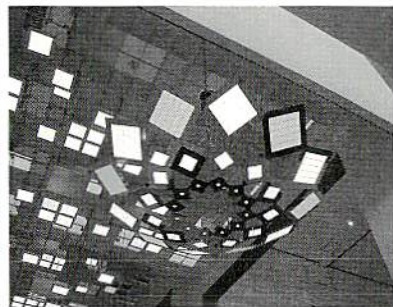
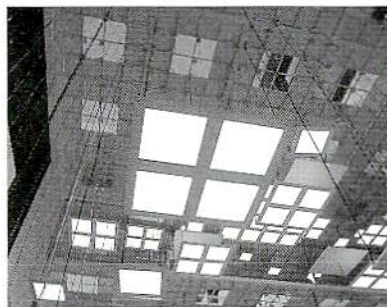
夢未来「有機EL」発信事業

有機EL照明は本市において研究開発されている技術で、LEDと並んで世界中から注目を集めている次世代照明であり、環境問題解決への貢献、大面積で拡散する光源としてなど、将来的に新機能の付加が可能で、本市の次世代産業として大いに期待されています。

有機EL照明については、世界で商品化に向けた研究が行われており、山形大学では、「先端有機エレクトロニクス研究センター」を建設し、日本のみならず世界各地から招聘された優れた研究者によるドリームチームが

結成され、世界的な研究拠点の整備が進められています。県でも「山形県有機エレクトロニクス産業集積会議」を立ち上げ、山形大学と連携を強化し、研究成果を活用した企業化を推進しようとしています。

また、山形県産業技術



振興機構では、平成二十二年七月に「産学官連携有機エレクトロニクス事業化推進センター」をオープンし、前身である「有機エレクトロニクス研究所」の研究成果を地域内企業に還元し、製品化へ向けた研究開発を支援しています。

本市においても、公共施設などへ有機EL照明を設置し、市民や来訪される方々へ「有機エレクトロニクスのまち」としての米沢をPRしています。

一年でも早い商品化、そして私たちの周りが有機ELの優しい光で照らされる日が来ることが待たれるところです。

新たな観光スポット

「戦国の杜（もののふ）武士の時代」がオープン

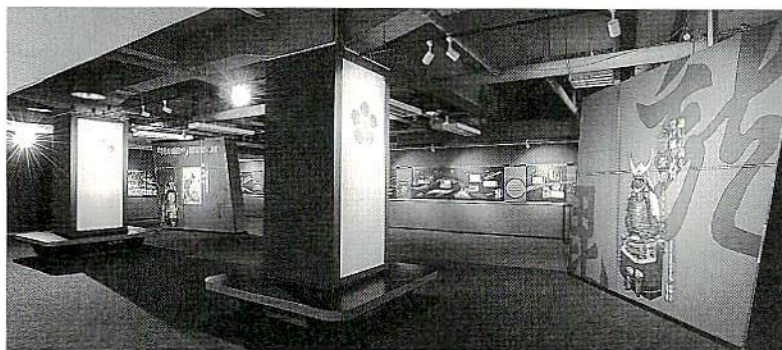
昨年開催されました「米沢 愛と義のまち 天地人博二〇〇九」は、当初見込みの二〇万人を大きく上回り、五一五、七七五人の方に御入館いただきました。本年は、昨年の「天地人」効果と「戦国時代」ブームが継続している中、この機を逃さず米沢を全国に発信すべく、米沢市の中心市街地ポロ館に「戦国の杜（もののふ）武士の時代」

をオープンしました。

施設のコンセプトは「歴史を学ぶ」のではなく、「歴史を楽しむ」「歴史で遊ぶ」を目標とし、平成二十四年三月まで開催いたします。

戦国時代、動乱の世でありながらも義を重んじ貫いた「直江兼統」「前田慶次」等、米沢ゆかりの武将を紹介しています。

中でも目玉の「戦国なりきりの陣」は、お客様の顔をCGによる特殊合成で「直江兼統」や「前田慶次」の顔に取り込み、約三分間大型スクリーンに映し出されます。ここに来た

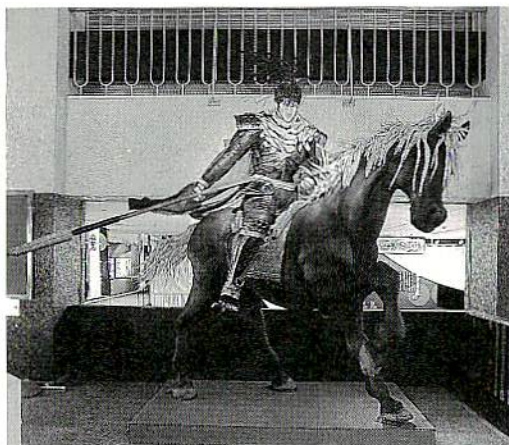


ら、貴方も「戦国武将」になりきれます。

是非一度ご体験下さい。その他にも小さな子供が楽しく遊べる「寺子屋 かねたん」、戦国時代を四〇mの時代年表で綴る「戦国絵巻 武士の道」、

人気コミック「花の慶次」を自由に読める「花の慶次戦国文庫」、武将陶人形展とオリジナル缶バッジ製作体験の「ワークショップ匠庵」、全国各地の武将グッズ販売の「戦国ショップ義風堂」がごさいます。

子供から大人まで、米沢ゆかりの武将を楽しみながら知ることが出来る施設です。多くのお客様に楽しんでいただきたいと考えております。



中心市街地活性化事業が始まります

全国的な傾向として、市の中心部は、人口減少や商業の郊外移転などにより空洞化が進んでいます。

米沢市では、まちの中心核を再生し、その活力を市全体に波及していくため、十一の事業を掲載した「米沢市都市再生整備計画」を策定しました。その中で大きな事業を占めるのが人工芝のサッカー場整備及び新図書館建設事業です。

まず、市のスポーツ施設としては、過年、陸上競技場を全国大会の会場として使用できるよう大規模改修したところですが、この計画ではワールドカップの日本の活躍など、サッカー人気の広がりによる競技人口の増加により、市民ニーズの高い人工芝のサッカー場を整備するものです。東北地方では福島市に次いで二か所目となりますが、陸上競技場と同様、東北単位の大大会の誘致が可能となるため、市外からの利用者獲得による経済効果のほか、次代を担う子ども達への教育的な効果が期待されます。将来、米沢からたくさんの「リーガー」が生まれるかも知れません。

次に米沢市の図書館といえますと、松が岬公園のお堀

端にあった、ギリシャ神殿風の図書館を思い出される方が多いかと思えます。現在は置賜総合文化センターを構成する一施設としてのイメージが強く、多機能施設であるがゆえに、駐車場が狭いなどの利便性の問題も出てきております。

そこで新たな図書館は、中心市街地に配置することにより、まちなかにふさわしい魅力を持ち、人々が互いにふれあい、交流しながら学べる「まちの顔」として整備したいと考えています。

散歩や買い物ついでに誰でも気軽に利用でき、幅広い年齢層が集まり、出会い、ふれあう。そんな場所として、市民が憩い、文化のまち米沢の顔として誇れる図書館を目指します。

東京都品川区に米沢市アンテナショップを開店

米沢のおいしい農畜産物や加工品、特産品などを首都圏でPRするため、全長一・六kmの日本一長い商店街として有名な、東京都品川区の戸越銀座商店街に米沢市のアンテナショップを今年十一月、一カ月の期間限定で開

店します。

銀六商店

街の一角に
小さな店舗
を構えて、

米沢の旬の
ものやおい
しいものを
多数取り揃
えてお待ち
しております。
週末には、
店頭で
芋煮振る舞
いなどの
様々なイベ
ントを開催
する予定と
しています
ので、是非、
お立ち寄り
ください。

期間：平成二十二年十一月（約一カ月間を予定）

場所：東京都品川区 戸越銀座商店街（銀六商店街）
最寄り駅：東急池上線戸越銀座駅、都営浅草線戸越駅



昨年の戸越銀座まつりに出店した際の様子、市長自らPR

米沢初の市民ミュージカルを上演

米沢市制施行百二十周年と山形大学工学部創立百周年を記念して、米沢初の市民ミュージカル「F・M・F」（フェイス）未来をつむぐ実験室」を去る五月四・五日の二日間伝国の杜置賜文化ホールにて上演しました。

このミュージカルは大正時代に山形大学工学部の前身である米沢高等工業学校で人造絹糸の研究開発に尽力し、帝国人造絹糸株式会社（現帝人株式会社）の創業者の一人でもある秦逸三氏の米沢での活躍と苦悩を物語化したものです。脚本・演出・振付を、劇団四季の舞台を手がけてきた演出家の梶賀千鶴子氏、作曲を音楽家の榊原光裕氏、舞台プロデュースを米沢市出身で仙台市在住のシンガーソングライター廣瀬純氏に依頼し、プロの厳しい指導のもとで、公募で選ばれた小学校一年生から六十歳代までの市民四〇名が「伝国座」を結成して挑みました。二日間で三回公演とハードスケジュールでしたが、前売券は完売し、当日は満員の観客を前に出演者一同渾身の演技で観客を魅了しました。

タイトルの「F・M・F」とは、信念や信頼との意味があり、米沢の地に受け継がれている大切な志を表しています。

愛と義を重んじ「なせばなる」の精神で困難に立ち向かい、開拓精神あふれる先人たちの志は、今後も市民に受け継がれ、米沢の新しい未来を切り開く道しるべになるものと期待しています。



長井市

十七年ぶりの長井おどり大パレード

長井市は、今年あやめ公園開園百周年をむかえました。市民から公募した百のイベントも素晴らしいものでしたが、中でも盛り上がりを見せたのはなんと、いつても「長井おどり大パレード」だったでしょう。十七年ぶりに復活したパレードは、市内の各地区の子



ども会やグループ、企業の方々等、四十四団体、約千九百名もの参加をいただき盛大に開催されました。パレードコースになっているフラワー長井線長井駅から長井市役所までの約六百mを新長井おどりの音楽に合わせて踊りました。この日のために練習をかさねてきた皆さんの優雅さと力強さを兼ね備えた踊りは大変すばらしく、沿道の観衆の方々にも元氣とパワーをお届けできたのではないかと思います。

《新長井おどり》

一、ハアー春の長井はヨー ツツジの花よ

土手の桜にアラ 土手の桜に 最上川

※（囃子）サアサ歌えや踊れや踊れ

手拍子揃えて シャンとシャシャンと みな踊れ

二、ハアー夏の長井はヨー アヤメの花よ

踊るあの娘はアラ 踊るあの娘は 誰の花

※繰り返し

三、ハアー秋の長井はヨー 黄金の里よ

そよぐ薄にアラ そよぐ薄に 萩の花

※繰り返し

四、ハアー冬の長井はヨー つむぎの里よ

つむぎ織る娘がアラ つむぎ織る娘が 春を待つ

※繰り返し

市民直売所 おらんだ市場 菜なポート オープン

長井市に、中規模の市民直売所「おらんだ市場^な菜なポート」が、この四月十六日にオープンしました。農業の振興、そして域産域消、レインボー認証ブランド野菜の進展など、さまざまな期待を担う直売所です。



長井市の再生を目指して…

事の起こりは、平成十九年の長井市経済再生戦略会議の開催でした。落ち込んだ長井市の経済の建て直しを図ることを目的に、市民代表三十八人と市職員三十三人からなるチームが、山形大学の先生のご協力を得て三年間、意見を戦わせました。

平成二十一年には、市民直売所・空き店舗有効利用・まちなか歩きデザイン・連携型工業開発、の四つの班が組織され、それぞれの部門でさらに協議を重ねました。

そして、市民直売所班が打ち出した結果が、将来の大規模直売所の実験店舗としての位置づけを持った、常設直売所「おらんだ市場 菜なポート」なのです。

オープン、そして四カ月がたった…

朝、日焼けした明るい顔が陳列棚に進み、それぞれに新鮮野菜を並べ始めます。午前九時三十分、オープンを待ちきれずに近隣のお客様が入店。手に手に思い思いの野菜を取ってレジに並びます。直売所の命は新鮮なこと。葉物野菜は一日の期限しか置けないルールにしました。この原則が新鮮さを保つ理由で、そこには野菜生産者の意気込みが感じられます。

四カ月たった今、次のような成果がありました。最大の懸念材料であった既存直売所との共存共栄は、見事にクリアできました。月毎にプラスマイナスはあるものの、既存直売所にプラスする、ほぼ良好に「菜なポート」の売上を計上しました。「菜なポート」分だけ、域産域消が進化したことになりました。

また、近隣には高齢世帯が多く、特に喜ばれています。歩いて野菜や加工品が買えることが、認知され始めたといえます。野菜の種類は六十種、フルーツが七、山菜等

の林産物は二十四、穀類と豆類は五、花卉類で七、根菜類では八種に広がりました。細分類では相当数の野菜類が出品されています。

多くの種類の出展が、直売所の魅力になるだけに、今後も力を入れる必要を感じます。また、加工品等は、菓子類、醤油味噌、精肉、ハム、漬物などの市内で作る商品が並びます。地元の加工品が、ここ「菜なポート」で買えるなら、ますます魅力が増えるに違いありません。

生産の拡大：

加えて、もう一つの目的である大都市圏域への販路拡大では、「菜なポート」が集荷基地としての機能も合わせて担うことになっています。農業の振興には様々な施策が進められていますが、売る場所、販路を示すことも重要な要素です。

そして長井市では農産物のブランド化、つまりレインボー認証野菜・レインボーの里認証野菜の栽培進展がこ



れからの課題です。レインボー認証野菜が買える直売所であることは「菜なポート」の大きな特徴ですが、栽培拡大の施策として、「菜なポート」における認証野菜の生産農家に対して、長井市が一定の補助を行っていきます。これが、ブランド化推進の起爆剤になってほしいと願っています。

市外に流れている農産物等の消費を市内で消費する、いわゆる域産域消、農家所得の向上、耕作放棄地の解消などの農業政策のみならず、まちなか歩きの出発点の位置付けとするなど、大きな期待を背負った「菜なポート」。農家の方々や消費者の皆さんのアドバイスを活かし、一日も早く名前のとおり「おらんだ（わたしたちの）市場」になれるよう、努力してまいります。

大都市圏域への販売拡大はこれからの課題ですが、個人のお客様向けの宅配などは行っておりますので、ぜひ、ご用命いただき、忌憚のないご意見をお寄せいただければ幸いです。

おらんだ市場「菜なポート」

電話 〇二三八—八三—二三四五

（文責）財団法人置賜地域地場産業
振興センター事務局長：平 正行

南陽市

『市民一人一人が自発的・主体的に学び、
地域を豊かにする』

教育日本一のまちづくり

豊かな地域づくりを推進するためには、市民が主役になり、自発的・主体的に諸活動に参画していくことが必要不可欠です。そのためには、市民一人一人が心身ともに健康で、生涯にわたり幅広い分野で主体的に学び続け、諸課題を解決していく力を身に付けることができる環境を整備していかなければなりません。

一方、南陽市では中学校再編整備事業により今年四月から、これまでの各校の歴史や伝統、校風を継承し、新たに発展させる統合中学校がスタートしました。この中学校統合は、単に小規模校の弊害を解消させるばかりでなく、生徒がお互いに切磋琢磨し、文武両道、質実剛健を目指し、自主・自立の学校づくりを推進するものです。

この中学校統合を機に、教育の究極の目的である「人づくり」、「地域づくり」を重点的に推進するために、教

育委員会組織を従来の二課一室（学校教育課・社会教育課・統合推進室）から五課（管理課・学校教育課・学校整備課・社会教育課・スポーツ文化課）に改編して体制の充実を図り、教育日本一のまちづくりの実践を行っています。

教育日本一のまちづくりは、「人づくりは地域づくり」をモットーに、教育（人づくり）によるまちづくり（地域づくり）を推進するものです。すべての市民がその年代に応じ、学校教育はもとより、さまざまな学習やスポーツ、文化、地域社会活動を通して地域に活力を与える地域総合型の教育を推進し、市民としての意識を一層高揚させ、故郷への愛情を育て、地域に根ざした「人財」育成を通して地域力を高めることで、教育日本一のまちづくりを進めていくものです。

その一例を次に紹介します。

【生涯学習の手引き書の作成・配付】

（学校教育課・社会教育課）

学校教育では、知・徳・体の総合的な成長を目指し、望ましい市民としての意識を醸成し、自己実現が図られるよう指導を行っていますが、教育は学校だけで行われ

る教育をいうものです。

現在、各小中学校では、地域の一員、社会の一員としての自覚を促し、南陽市の多くの行事や活動に参画して市民に勇気や活力を与えるとともに、郷土を愛する心を高め、良き伝統を継承し市民意識を醸成する「社会参画活動」に力を入れています。これは単に活動に参加するのではなく、計画や準備の段階から参画することを通して、やがて、青年となり本格的に南陽市の担い手となる『自立』した人財への成長につながると考えています。

また、教育団体と連携・連動した教育の推進は、対象となる小中学生だけでなく、それぞれの団体の教育機能の充実・発展に資するものでもあります。

一方、「小中一貫教育」を推進し、小学校と中学校における教育理念の共有はもちろん、指導計画・指導プログラムを発達段階に応じて計画的・系統的に作成し、実践を通して、教育の成否の土台をなす自主性・主体性の伸長を図っています。

さらに、今日の生徒指導上の問題行動の傾向から、同一步調を基調とする学校間、校種間を越えた生徒指導の理念の共有化を図り、学校単位での対応から具体方策を協議する体制づくりと指導方針の一致に向けた生徒指導

体制づくりの推進を図っています。

「生涯学習の推進による人財育成」(社会教育課)

すべての市民が、生涯にわたって自発的・主体的に



「夢はぐくむ故郷(まち)南陽コンペティション」
(ご当地ヒーローがデビュー)

学習の機会が得られ、その成果の具現化に向け、活力ある地域づくりと幼児期からシニア期までの生涯にわたる学習活動の展開、支援を進め、次世代を担う人財育成を推進しています。

特に、青年教育については、平成二十年度から南陽市青年教育推進事業を実施し、次代を担う若者の人財育成と同世代の仲間や地域とのつながりづくりに取り組んでいます。通年連続型のまちづくりワークショップと実践学習及びその成果を競う公開コンペティションをきっかけに、新たに六つの若者グループが誕生し、その手法は市内外からも注目を集めるとともに、伝統野菜や農業の活用、ご当地ヒーロー誕生や廃校活用イベントなど、多くの若者たちによるさまざまな地域づくり活動が繰り広げられています。

また、婦人教育については、市内の女性団体等で「えくぼ女性ネットワーク会議」を立ち上げ、各団体の活動報告や事業・情報の共有化を図っています。また今年度は、「えくぼ女性ネットワーク会議」として自主事業を開催し、なお一層の婦人団体の活動の広がりとステップアップを目指しています。

さらに、シニア世代の教育の充実を図るために、具体的には各地区公民館を活動の拠点とし、公民館事業等へ中高世代の参加を促し、地域づくりの主役を担ってもらうことで、地域全体の活力の底上げを図り、世代を超えた中高年世代による「宝の伝授」活動を支援していきます。

「一人1スポーツ・1文化の定着」（スポーツ文化課）

市民一人一人が健康で文化的な生活を送ることができ、環境整備は、人づくりの基盤です。

また、スポーツの振興と文化の振興は、地域を活性化させ、地域貢献にも結び付き、地域づくりのための起爆剤となるものです。

そのため、学校教育と連携・連動し、特にあらゆるスポーツの基礎となる陸上競技を中心に、競技力の向上と底辺拡大を図っています。

このような取り組みを通し、市民一人1スポーツの習慣化を図り、スポーツのある豊かな暮らしを支える環境をつくり、健康体力づくりに取り組んでいます。

文化面においても、結城豊太郎先生をはじめ市内には全国に誇る文化人が輩出しており、偉人の教えを浸透させ、道徳性や志の高い市民を育成する地域文化を創造する取組や、個性豊かな地域文化の振興と地域文化財の継承、活用する取組を行い、市民が自発的・自主的に行うスポーツ・芸術文化活動の支援を行い、心豊かで健康な市民生活と活力のある地域づくりを目指しています。

高 畠 町

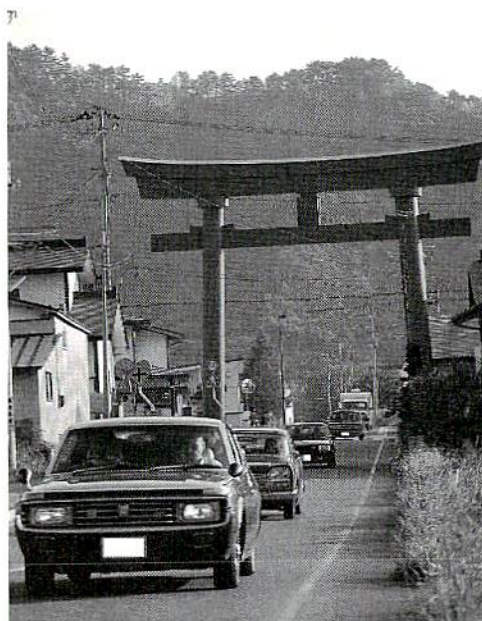
「クラシックカーレビューIN高畠二〇一〇」

(二〇一〇年十月十七日(日) 午前九時～)

実り豊かで野山の彩りが最も美しい季節を待って、「クラシックカーレビューIN高畠」が高畠町中心部の昭和縁むすび通り・まほろば通り・庁舎通り各商店街にかけて開催されます。

この東北最大規模のクラシックカーショーは、平成十年度「高畠町交通安全町民大会」の一環として開催され、二年に一度の偶数年開催となっており、本年度で七回目を迎えます。

一九八五年までに生産されたオリジナルの国産車・外国産車(三・四輪車)が全国から集い、展示やパレードの他、山形県警察音楽隊による交通安全啓発パレードやクラシックカー人気投票コンテストが行われます。一七〇台余りのクラシックカーが一同に会する様は圧巻です。以前ご自身やご家族が乗っていた車、若い頃にあこがれた車など、車好きな方だけに限らず、皆様の胸にさまざまな想いが溢れることでしょう。



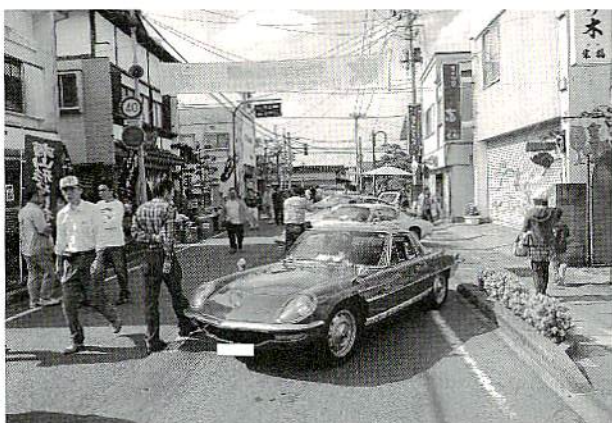
クラシックカーを通じて、町民の交通安全意識および公衆道徳の向上はもちろん、中心商店街の活性化をも目的とした事業として町内外に誇れるものです。

日本全国から自慢の愛車とともにご参加いただく多くのみなさまと、ご来場いただきます町内外の方々に「まほろばの里 たかはた」の秋の魅力を存分に楽しんでいただけるイベントとなっております。

「クラシックカーレビューIN高島二〇一〇」に関する
問合せ先

高島町商工会 内
クラシックカーレビューIN高島二〇一〇事務局

TEL: 〇二三八(五二) 〇五七六
FAX: 〇二三八(五二) 〇五七七
四季折々の自然や文化が楽しめる高島町。今年の秋は
“ノスタルジックなたかはた”を感じてみませんか？



川西町

遅筆堂文庫に井上ひさし

展示コーナーを設置

川西町名誉町民である作家・劇作家で文化功労者の井上ひさしさんが、去る四月九日に亡くされました。享年七十五歳。まだまだ活躍できる年齢であり、その早すぎる死を惜しむ声はいまも絶えることはなく、新聞やテレビでは在りし日の井上ひさしさんのことばや映像が繰り返し紹介されています。

井上さんは、亡くなるまで故郷・川西町に本を送り続けられました。フレンドリープラザにある遅筆堂文庫には約二十二万点もの蔵書・資料が収められています。

また昭和六十三年から毎年、自らが校長となり本町を会場に「遅筆堂文庫・生活者大学校」を開校するなど、川西町の文化振興と情報発信に多大なご貢献をいただきました。

●遅筆堂文庫に展示コーナーを設置

町では、井上さんのこれまでの功績に感謝し、その業績と人となりを町民や全国の井上ひさしファンに伝えて

いくため、このほど遅筆堂文庫の一角に、「井上ひさし展示コーナー」を設置することにしました。

その主な内容は次のとおりです。

①グラフィックパネル展示

井上さんの年表、小説、戯曲の作品年賦をパネルで紹介します。また井上さんの写真とことばを、巨大な垂れ幕にして展示します。

②ガラスケース展示

小説、戯曲の執筆資料やメモ、多くの文学賞受賞記念品、愛用品等を展示します。

③「本の樹」設置

遅筆堂文庫の円柱（直径八十センチ）の一本に、高さ五・五メートルの書架を丸く取り付け、井上さんの文庫本を中心に展示します。たぐさんの「本」の葉が茂り、太い幹が



空に向かって伸びていくイメージを伝えます。

④ 壁面書架の設置

運筆堂文庫の壁三面に書架を設置し、より多くの蔵書を来館者に見ていただきます。

⑤ 映像コーナーの設置

井上さんがこれまで残した講演会やテレビ出演、生活者大学校等の記録映像、さらにこまつ座の演劇公演等をDVDに保存し、来館者にご覧いただくコーナーを設置します。

⑥ こまつ座公演ポスターの掲示

こまつ座公演ポスター四十枚をパネルに加工し、壁面に掲示します。

● 本を生かした文化のまちへ

今後、町は井上ひさしさんの遺志にこたえるために、いただいた本を町民の財産として守り、本を活かした文化の香り高いまちをめざしていきます。

「つや姫」が本格デビュー

「山形県のトップブランドに育てたい」と産地の大きい期待を背に新銘柄米「つや姫」が本年秋本格全国デ

ビューします。県全体で前年産の三百トンの先行販売用生産から本年産は一挙に四十二倍の二千五百ヘクタール、一万二千五百トンの生産が見込まれます。生産者を限定し栽培方法は有機栽培か特別栽培（減農薬減化学肥料）で、玄米たんばく含有率は六點四パーセント以下とこだわりの、日本穀物検定協会の食味鑑定では参考出品ながら二年連続「特A」の評価を得ております。県のブランド化本部では「まず食味の良さを実感」してもらうため、首都圏など大消費地を中心に試食宣伝販売に力を入れ、販売促進キャンペーンを展開し知名度向上の取り組みが進められております。

美味しい米の条件は「土と水と天候、品種」と言われ、川西町は盆地という地形から寒暖の差もあり、水資源にも恵まれ、米づくりに適した自然環境にあります。また、先人達の米づくりに対するたゆまぬ努力の積み重ねにより、昭和四十年代には平均反収六百五十四キログラムと日本一を記録したこともあり全国に誇る稲作技術、良質米生産の先進地となっております。「つや姫」は栽培しやすく、白さや味と香りが良い等「コシヒカリ」や「はえぬき」を上回る食味と評価されている期待の新品種であります。「品質・食味・安全」の三位一体の栽培法を

重視した高級感のある美味しい米」として生産・流通させるため生産面積・生産者が限定されており、本町においては、前年の先行販売用生産面積は県全体の約十三パーセントとなる約八ヘクタール、生産者は十四経営体、本格デビューとなる本年産は置賜地域五百七十ヘクタールの配分面積に対してブランド化本部が算定基準とした栽培適地面積、米の生産量、一等米比率、特別栽培等実施面積の実績値から全体の約二十二パーセントを占める百二十八ヘクタールが本町に配分され生産量は六百四十トンが見込まれます。また、認定を受けた本町生産者数は百五十経営体となり生産量と共に置賜ナンバーワンとなっております。



現在、今秋デビューに向けて「つや姫」は順調に生育しており、生産者がこれまで培った米づくり技術を十分に發揮していただき「つや姫」が生産者にとって全国に誇れる大きな希望と明日への牽引力となることを期待します。

川西ダリヤ園開園五十周年

やまがた川西ダリヤ園は今年五十周年を迎える日本で一番歴史のあるダリヤ園です。開園当初より町営のダリヤ園として営業しております。

本園は二・一ヘクタールの広大な敷地に六百五十種十万本のダリアが八月の開園から十一月三日の開園まで期間中絶えることなく咲き続けます。これはダリア特有の特徴であることに加え、歴史のある本園の栽培技術の進歩によるものでもあり、本園の特徴ともいえます。

栽培されているダリアの大きさは直径三センチ程度の極小輪から直径三十センチを超える超巨大輪まで、咲き方は一般的なインフォーマルデコラ咲きから原種に近いシングル咲き、スイレン咲きなど豊富で、あらゆるダリアの色、形、咲き方を楽しんでもいただけます。中でも超巨大輪（宇宙、白宇宙、炎冠など）の大きさには多くのお客様が驚かれています。また、本園でも新品種改良に取り組んでおり、他では見ることのできない「愛」や「きらきらほし」などの川西オリジナル品種も数多くご覧いただけます。

本園は園内の雰囲気づくりを大切にしており、園内に

小川が流れ、芝の広場やあずま屋を整備し、ゆつたりとした時間を過ごしていただけるよう配慮しています。

週末には地元有志によるダリヤ園内のボランティアガイドを実施しており、花の説明や、ダリヤの栽培方法、歴史などについて解説しています。

今年は開園五十周年の記念の年として例年実施している様々なイベントを軸に新たなイベントを加えております。九月十八日には『ダリアフォーラム 2010』かわにし」として、全国のダリア栽培関係者などが一堂に会してダリアや川西ダリヤ園の未来について考えます。九月二十六日には元プロ野球選手の古田敦也氏をお迎えしてのトークショーを開催します。古田氏はネット川西で友好都市関係にある兵庫県川西市出身のご縁で来園いただけることとなりました。また、例年実施している『かわにし秋まつり』なども工夫を凝らして楽しいイベントにしていきたいと思いますので是非ご来園ください。

●やまがた川西ダリヤ園の概要

所在地：〒九九九-〇一二二 山形県東置賜郡川西

町大字上小松五〇九五-一一

電話：〇二三八-四二二-二二二

開園期間：八月一日～十一月三日（例年）

開園時間：午前九時～午後六時（十月以降は日没閉園）

※期間中は無休で営業しております。

入園料：大人 五百二十円

小人（小学生）二百十円

※団体料金 大人 四百二十円

小人 百六十円（二十名以上）

※未就学児無料

駐車場：百五十台（大型十台）無料



小国町

新しい小国町が誕生して

五十年を迎えました

小国町は、昭和二十九年三月三十一日、旧小国町、北小国村、南小国村の一町二村が合併した後、昭和三十五年八月一日に津川村と合併。現在の姿となり、五十周年を迎えました。

■町づくりの移り変わり

旧小国町と津川村が合併した同年、新しい小国町のまちづくりの指針として「新町建設計画」が策定されました。この計画は、旧四

町村の合併によって強化された経済力と行政力、産業基盤の整備を進め、よ



昭和35年、津川村合併祝いに
沸く中央通り

り豊かで明るい住民生活の実現を目指したものです。新町小国町の基礎を固める最初の計画でした。

しかし、この計画の推進過程において予期せぬ事態が立ちほだかりました。

昭和三十八年一月に本町を襲った豪雪（三八豪雪）は、当時、冬季における唯一の交通機関であった国鉄米坂線を十日間に渡って不通にさせるなど、町を「陸の孤島」に至らしめ、日常生活や産業活動に大きな影響を及ぼしました。

また、昭和四十二年八月二十八日から二十九日にかけて日雨量五三・三ミリを記録した羽越水害では、町内の全河川がはんらんしたのをはじめ、各所で土砂崩れが続出し、家屋の流失・浸水、農地の流失・決壊、それに交通、通信施設が破壊されるなど甚大な被害をもたらしました。これら二つの災害が人口流出にさらに拍車をかけ、過疎化を進行させました。

災害の発生と急激な過疎化に危機感を抱いた町では、新たなまちづくりに取り組み始めました。明らかにした地域課題を住民とともに解決するためのまちづくりとして、中核施設とそれを結ぶ拠点の生活環境の整備、働く場の確保や所得の向上に向けた経済環境の整備、さら

に、地域が持つ特性を生かした産業の創出など、独自の町づくりを展開してきました。また、災害を契機に、国や県の機関による国道一三三号の改良工事や、河川の護岸改修、横川ダム建設などの取り組みが進められました。昭和五十四年には、所得確保対策、克雪対策、医療の確保、生活環境施設の整備など、本町固有の課題を整理した「小国町総合計画」を策定、昭和六十二年には、「新小国町総合計画」を策定し、継続的發展を目指してきました。

平成二年、町全体を、自然と人間の共存のあり方を体験的・保養的に学習できる多彩な生活空間として形成し、交流と定住を促進していく「白い森構想」を立ち上げるとともに、本町の優れた自然環境と地域資源を評価し、大切にしながら、二十一世紀を展望する新たなまちづくりの手法に取り組んできました。

平成二十一年、これまでの白い森構想を継承し、町を取り巻く環境変化や課題に対応しながら、次代の「白い森の国」を築いていくため、平成三十年を目標年次とした第四次小国町総合計画基本構想を策定しました。この構想では、町の将来像を「人と自然が織りなす やさしい暮らしがあるまち 白い森の国おぐに」と設定し、そ

の実現に向けて、今までのまちづくりの過程と成果を土台としながら、各種施策に取り組んでいます。

記念事業を実施

小国町では、新小国町誕生五十周年を記念して、八月一日から二十日まで、小国町役場を会場に、「白い森ふるさと絵画展」を開催しました。

この絵画展では、洋画家渡部利之氏の絵画や、町所蔵の美術品を展示しまし

た。渡部氏は、小国町の沢中地区（昭和三十五年の合併以前は津川村）の出身で、現在、河北町在住。

生まれ育ったふるさととの情景を描いた作品は、二〇一〇年にミレー友好協会フランス本部展ヴァンセンヌ市長賞、同協会



白い森ふるさと絵画展開会セレモニー

日本国内展秀作賞を受賞するなど、国内外において高く評価されています。

オープン初日は、ギャラリートツアー（渡部氏による作品の紹介）をはじめとして、叶水地区を拠点に活動しているコーラスサークル「ラララ」によるミニコンサートや、児童・生徒を対象にしたワークショップも実施しました。

役場には、町民をはじめとして、町外からも多くのかたがたが来場。数々の美しい絵画に見入るとともに、心のこもったコーラスに耳を傾けながら、ふるさとへの想いをはせていました。また、ワークショップでは、児童らが渡部氏の絵画を下地にしたぬりえに挑戦したほか、美術部の生徒らが、渡



白い森ふるさと絵画展ギャラリートツアー

部氏から絵の描き方についてアドバイスを受けていました。小国町役場は、行政機関としての機能だけでなく、町民の安らぎの場となる空間も兼ね揃えています。

町では、こうした機会が、今も変わらぬふるさとの良さ、素晴らしさを再認識する機会としてだけでなく、新たな交流や、情報の発信につながるものと考えています。

■美しい小国郷を引き継ぐために

農山村の景観とは、自然と一体となった人々の労働の積み重ねと、暮らしに備える知恵の結晶であるとともに、その美しい景観には、その姿をつくり出し維持していくために注がれてきた底力と、揺るがない信頼と絆をはぐくんできた人々の心が投影されています。

現在の町の姿は、豊かな自然と、自然とともに生活してきた人々が育んできた生活文化、生活技術を大切にしながら取り組んできたまちづくりの過程と成果によって形作られたものです。

町では、長い時間をかけて築いてきた小国を、暮らしやすさと活力の醸成という視点でさらに磨きをかけ、魅力を高めていくとともに、町民の主體的な「協働と交流と連携」による力の結集に心を傾け、町民の幸せな生活を紡いでいくこととしています。

白鷹町

【桜の舞】

樹齢数百年もの古木に枝垂れる淡桃色の花びら。
踊り子のごとくひらひらと、華麗に舞い降りる。

長く厳しい冬が終わると、待ちわびたように春を謳歌する古典桜。何百年、一千有余年も繰り返されてきた四季の営みは、時を重ねるほどに愛らしく、見る人の心を打って止みません。

「古典桜の里」【白鷹】

白鷹町は、「置賜さくら回廊」（赤湯―荒砥）最北端に位置し、樹齢五〇〇年を超える桜の銘木・古木が多く点在しています。

その多くは、樹種が「エドヒガン」であり、開花の時期をその年の稲作のはじまりとしたことから別名「種まき桜」とも呼ばれています。桜として最も一般的なソメイヨシノの樹齢が約60年といわれるのに対し、エドヒガンは樹齢一〇〇〇年を超える古木も少なくありません。

ん。町では、樹齢五百年以上のエドヒガン桜を「古典桜」と名づけ、県指定天然記念物の薬師ザクラは樹齢約一二〇〇年、町指定文化財の釜ノ越ザクラ、子守堂のザクラ、赤坂の薬師ザクラ、殿入ザクラ、原のシダレザクラ、八乙女種まきザクラ、後庵ザクラの八本の古典桜を数えることができます。この他にも十二の桜や奨学桜、称名寺阿弥陀堂の桜と町中でお花見を楽しむことができます。毎年四月末の花見頃ともなれば、青空に映える残雪の山々を背景に、天を覆う淡いピンクの小ぶりの花は、いかにも見事で、全国から花見客や写真愛好家の訪れが絶えません。また、近年は香港や台湾等の海外からの花見ツアー客も賑わいに加わりました。

また、この頃には釜ノ越ザクラのもとで「桜まつり」が開催されます。お漬物をはじめとする地域の産物で花見客をもてなし、三〇〇年を超える歴史を誇る、地域の人々に親しみ伝えられてきた【高玉芝居】がライトアップされた桜の下、情緒豊かに上演され賑わいに花を添えます。

古典桜と郷土に伝わる伝統芸能、豊かな伝統食文化を白鷹でぜひお楽しみください。

〓 白鷹「古典桜」 辞典

〓 県指定天然記念物「薬師桜」

樹齢約一二〇〇年といわれるエドヒガンザクラ。高さ一〇メートル、幹囲八メートル。薬師堂の境内にあり、堂々たる風格を保っています。西暦七九六年、坂上田村麻呂が奥州征伐の時、手植えたものと伝えられています。



「薬師桜」

〓 町指定文化財「釜ノ越サクラ」

樹齢約八〇〇年といわれるエドヒガンザクラ。高さ二〇メートル、幹囲六メートル。枝張り二七メートル×二

二メートル。釜の越は地名であり、樹下にある三個の巨石は、八幡太郎義家が西方の三峰に居陣したとき、この石でかまどを築き兵糧を炊いたとの伝説があります。地名の「釜」は、この伝説に係わりがあると思われ、この石に炒り豆を上げて拝むと歯が強くなると言われています。



「釜ノ越サクラ」

〓 町指定文化財「子守堂のサクラ」

樹齢約一〇三〇年といわれるエドヒガンザクラ。高さ一九メートル、幹囲七メートル。この地は鮎貝氏居城の

一部にあり、樹下の「子守堂」には、病弱な城主の子どもを無事育てた後、忽然と姿を消した卑しい身なりの童女（実は地藏菩薩の化身）の物語が伝えられています。白鷹町名木十選の一つ。

※町指定文化財

「殿入ザクラ」

樹齢約六九〇年と言われるエドヒガンザクラ。高さ一六メートル、幹囲六メートル。小高い丘にあり、最上川越しに西山の峰々を望むことができます。昭和の初期、桜の季節には地元の茶屋が店を出し、他村からも



夜桜見物に訪れた全盛時代もありました。

※町指定文化財「赤坂の薬師ザクラ」

樹齢約九八〇年と言われるエドヒガンザクラ。高さ九メートル、幹囲六メートル。小高い丘にあり、昔から種まき桜として親しまれています。旧栃窪街道（最上海道）はこの樹下を通っていたという伝えもあります。

※町指定文化財「八乙女種まきザクラ」

樹齢約五一〇年と言われるエドヒガンザクラ。高さ二メートル、幹囲五メートル。八乙女八幡神社の敷地内にあり、春の苗代種まき時期を桜の開花で知らせてくれます。

詳しいお問い合わせは、「さくらコンシェルジュ」

白鷹町観光協会

☎〇二三八（八六）〇〇八六

<http://www.sgc.jp/nko/>

※桜の季節は、開花状況を毎日更新しています。

飯 豊 町

「環境に優しいまちづくり」と
「障がい者の社会参加」を推進

飯豊町バイオマス製造施設稼働開始

中津川財産区の森林面積は約一一、〇〇〇ヘクタール。財産区としては、全国一の広さを誇ります。しかし、近年は、林業の衰退などで、山の荒廃が懸念されてきました。また、地球規模では、二酸化炭素排出による地球温暖化が問題となっています。この二つの大きな課題の対策として、平成二十一年十一月二十四日、中津川地区に「飯豊町バイオマス製造施設」が完成しました。

バイオマスとは、「再生可能な生物由来の有機物質（化石燃料を除く）」を指す言葉で、木屑、家畜の糞尿、下水の汚泥などが挙げられます。そのうち飯豊町バイオマス製造施設では、ナラやブナといった中津川財産区の豊富な森林資源を活用するものです。山から切り出された木材を施設で木質ペレットに加工し、町内外の各家庭にペレットストーブ燃料として供給します。また製造過程で



▲昨年11月、中津川地区の宇津沢に完成した飯豊町バイオマス製造施設



◀化石燃料に代わるクリーンエネルギーとして期待される木質ペレットストーブ

作られるおが粉は、キノコの菌床用としても販売します。

施設の運営を担うのは、地元住民が立ち上げた中津川バイオマス株式会社（鈴木良則代表取締役）。木質ペレットは年間四〇〇ト、おが粉は三、〇〇〇立方メートルの製造を目指します。

このような経済活動が、雇用を創出して地域が活性化されると共に、森林に人が入ることで荒廃の抑制にもつながると期待されます。さらに木質ペレットの燃焼による二酸化炭素の排出は、木の成長過程で再吸収されるとされ、地球温暖化を防止する再生可能なクリーンエネルギーに位置づけられています。

飯豊町バイオマス製造施設は「里山再生」などの地域の大きな期待を背負い稼動しました。

飯豊町福祉事業所「でんでん」開所

平成二十二年四月一日、飯豊町福祉事業所「でんでん」が開所しました。障がい者への福祉サービスを提供する町内で初めての施設です。

「でんでん」の名は、町の合唱組曲『ラプリー・ホームタウン〜ふるさとに捧げる六つの賛歌』の歌詞と、祭

りばやしのにぎわい、そしてあのカタツムリの歌のようにたくましく伸びていく願いなどが込められています。

施設の指定管理者は、特定非営利活動法人すぎな。長井市森に「福祉センターすぎな」を開所し、障がい者の生活介護や就労継続支援活動を行っている民間組織です。障がい者福祉に関して歴史と実績を誇り、その知識と経験が、でんでんの運営に期待されていることです。

施設の利用者は、午前九時半に登所し、午後三時までの間、就労や生産活動などを通じて就職に必要な知識や技術の習得を目指します。

町では、施設内に「さをり織り機」二台を導入。「さをり織り」とは、決まりごとの一切ない、自由な自己表現を目的とした織物です。障がいを持つ方の技能訓練の一つとして、全国の福祉施設で注目を浴びています。すぎなでは、十年以上前から生産活動の一環としてさをり織りを取り入れてきました。

「出来上がったものは、世界に一つしかありません。作る人の個性により色彩も模様も異なります。織物から利用者の心境さえ伝わる場合があります。明るい色づかいで、今日は楽しい気分なんだろうなど」

そのように福祉支援センターすぎなの副管理者、風間

孝子さんは話します。さらにすぎなでは、このさをり織りを利用者の収入と運営資金の確保につなげたいと考えています。さをり織りを使ったクマのぬいぐるみを製作し販売するのもその一つ。利用者だけでは作業が困難な部分を、スタッフとボランティアの力を借りて一つのぬいぐるみに仕上げます。市販のものでは見られない斬新な色づかいが、手作り感の温かさを醸し出し、ぬいぐるみを一層愛らしく感じさせてくれます。

「このぬいぐるみのパーツをでんでの利用者の方にも作ってもらいたいと考えています」と風間さん。

さらに利用者は、収入確保と社会に必要な知識と能力を身に付けることを目的に、町の健康福祉センター内の一部の清掃業務も担います。

でんでの運営は、まだスタート地点に立ったばかり。

町内に障がい者の就労支援の場をどれだけ広げ、地域社会とかかわっていきけるかが今後の課題となります。

「障がい者の能力を伸ばすには、様々な分野で社会参加する機会を提供することが大切だと思います。彼らが飯豊町で生活していくためには、町の皆さんも一緒になって障がい者福祉について考えてもらいたいです」とでんでの鈴木英次施設長は話します。

今年4月に開所した飯豊町福祉事業所「でんでん」

▼障がい者のトレーニングの一つとして導入された「さをり織り機」



▲さをり織りを使ったクマのぬいぐるみ。

「おおすみ」から「はやぶさ」まで

上 杉 邦 憲



2010.6.13.「はやぶさ」の帰還
(© NASA Ames Research Center)

今年六月十三日の深夜、私はオーストラリア南部のウーメラ砂漠で天の川のほとりに輝く南十字星を始めとする満天の星を見上げていました。そして二十三時二十

一分過ぎ、ぼつんと光の粒が現われたかと思うと、それは二つに分かれ、ぐんぐん光を増しながら星空の下を通り過ぎて行きました。特に後ろの光は手塚治虫の描いた「火の鳥」そのままに燃える翼を広げ、前を行くカプセルの小さな光を見守るかのように飛んだ後、ば

らばらになって消えていきました。

それは、我々が心血を注いで小惑星「イトカワ」に向けて送り出した「はやぶさ」が七年の旅を終えて地球に帰還した瞬間で、私自身何故か目にあふれてくる水を抑えるのに必死でした。

そしてこの夜、同じように空を見上げていた今から四十一一年前のことが脳裏に浮かびました。それは、一九六九年十一月半ば、場所は鹿児島県内之浦の実験場で、我が国初の人工衛星打ち上げを目指して準備作業をしていた時のことでした。ふと見上げた空には丸い月が浮かんでいて、そこには（勿論目には見えませんが）アポロ12号が着陸していて、ビート・コンラッドとアラン・ビーンの二人の宇宙飛行士が降り立っていたのです。

片や重量わずか二十四kgの衛星打ち上げに既に四回続けて失敗し、五度目の挑戦中の我々と、片や月に人を送り込んでいる米国：その時に感じた彼等の技術力の差には愕然とせざるを得ないものがありました。しかしながらその時、いずれは我々自身の力で月に衛星を送り込みたいという夢を抱いたのを覚えています。因みにこの五度目の挑戦は一九七〇年二月十一日に成功、打ち上げられた我が国初の人工衛星（ソ米仏に続き世界で四番目）

は内之浦町への感謝を込めて大隅半島の名を採り「おおすみ」と名付けられました。

それから丁度二十年後の一九九〇年一月二十四日、月に向けて工学実験衛星「ひてん」が打ち上げられました。この衛星の目的は月の重力を利用して衛星を加速したり減速したりする「スウィングバイ」や、月周回軌道への孫衛星の投入、地球上層大気との摩擦で減速させる「エアロ・ブレーキ」等の技術を実証するのが目的でしたが、これらの実験が全て成功裡に行われた後、我々は次なる挑戦に臨むことにしました。太陽と地球と月の重力の微妙なバランスを利用した特殊な軌道を採らせることにより、極めて少ない燃料で「ひてん」そのものを月周回軌道へ投入することでした。これにも成功してほぼ全てのミッションを終えた「ひてん」に与えられた最後の任務は、二十年前に夢見た月へメイド・イン・ジャパンの物体を届けることでした。

軌道制御により地球から見える側の月面に衝突するよう目論まれた「ひてん」は、一九九三年四月十一日未明、予定と一秒の差も無しに信号断絶、ソ連、米国に次いで月へ到達することが出来たのでした。そしてその瞬間は、オーストラリアにある英国天文台の望遠鏡で光る点とし

てはつきり捉えられていたのです。

それはまた、米国のロケット研究の先駆者ロバート・ゴダードが一九一九年に「月にフラッシュを打ち込んで光らせれば、人々がそれを見て、ロケットで月に行けることを知ることが出来るだろう」と述べたことの実現でもありました。なお余談ですが、このゴダードの提案に対して天下のニューヨーク・タイムズ紙が「蹴とばす空気の無い真空中をロケットが飛べるわけが無い」と一笑に付した、という話が伝わっています。

ここで、太陽系探査をやって行く上での技術のステップを述べておきます。それは難度の低い段階（と言って簡単ではありませんが）から順に①「フライバイ」（対象天体の近傍を通過）、②「ハードランディング」（衝突



1993.4.11 「ひてん」月面到達
(© ISAS / RAS observatory)

或いは硬着陸)、③「オービター」(周回軌道投入)、④「ソフトランディング」(軟着陸)、⑤「ローバー」(対象天体上の移動)、⑥「サンプルリターン」(対象天体のサンプルを地球に持ち帰る)となります。これらの段階は次第に観測時間が長くなるとともに精査な観測が可能となることを意味しますが、それと共に技術的な難度が増すことが容易にお分かり戴けると思います。但し、フライバイから軟着陸までは全て片道飛行なのに対し、最後のサンプルリターンは対象天体からの離陸と地球への帰還という往復飛行となるため、④、⑤と⑥の間には大きなギャップが存します。従ってこれまで国の威信を賭けて「ムーンレース」を行った米国とソ連がアポロとルナ16号で月のサンプルを持ち帰った後、二十年以上に亘り世界中心の国もサンプルリターンを計画したことはありませんでした。

一方、我々は一九八六年「さきがけ」、「すいせい」の二探査機によるハレー彗星への「フライバイ」を達成し、「ひてん」により「オービター」と「ハードランディング」のレベルまで到達、続くLUNAR-Aによる月ペネトレータ計画(ハードランディング及びオービター・レベル)、火星探査機「のぞみ」の火星周回軌道投入(オー

ビター・レベル)を計画中の状態でした。

このような状況下で、我々が次に考えたのがMUSE S-C計画でした。因みにMUSEとはムロケットで上げるSpace Engineering Spacecraft(宇宙工学実験機)の略号で、Cはその三号機を表します。(なお、前述の「ひてん」が工学実験衛星一号機すなわちMUSE S-Aです。)

MUSE S-Cは「ソフトランディング」、「ローバー」、「サンプルリターン」レベルまでの実験を、いわば三段跳びのように一挙にクリアしようという極めて野心的な計画で、その対象として選ばれたのは、火星と木星の軌道の間にある所謂小惑星帯(アステロイド・ベルト)にある小惑星ではなく、地球と火星の軌道の辺りを公転しているNEA(Near Earth Asteroid)と呼ばれる地球接近型小惑星でした。

何故、月、火星、金星といった地球に近い天体ではなく、小惑星を対象天体として選んだのか?それには二つの理由があります。まず理学的な理由として:火星や金星のような惑星には大気があり、また内部活動も活発で、所謂「進化」が進んでいるのに対し、小惑星は「太陽系の化石」と呼ばれるように四十五億年前に太陽系が出来た

時の状態を維持していると考えられるため、太陽系の起源を探るには最適の対象であること、次に工学的理由として：月や惑星は重力が大きいいため、一旦着陸するとそこから離陸して地球に戻るためには大きなエネルギーを必要とする（注1）のに対し、小惑星の場合はそこから脱出エネルギーが殆ど要らない利点があるのです。

実は一九八〇年代末に始まった小惑星サンプルリターン計画検討と並行して、S O C C E R (Sample Of Comet Coma Earth Return・彗星コマのサンプルリターン) という計画が検討されていました。彗星が太陽



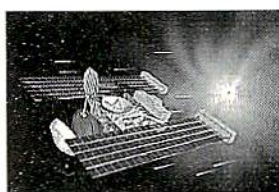
シリカエアロジェル

に近付くと、彗星の核から蒸発したガスや塵がコマと呼ばれる大気を形成して、それが長い尾を引くのですが、S O C C E Rはこのコマの中に探査機を突入させ、塵やガス成分すなわち彗星のサンプルを採取して地球に戻る、という計画でした。

この計画の利点は、往復飛行でありながら対象に着陸するのではなく、彗星コマの中を通過すれば良いので、ミッション最後の地球大気圏突入・回収を除き、基本的

には「フライバイ」の技術レベルで実現可能ということにあります。一方難点は、コマ通過の際の彗星と探査機の相対速度が秒速数kmになるため、コマのサンプルを破壊せずに回収するコレクターの開発が難しいことでした。この問題は一九九〇年代初めに比重が水の1/530しかない「シリカエアロジェル」という物質が開発されたことにより解決しました。

当時、米国では大型ミッションへの反省からF C B (Faster, Cheaper, Better:より早く、より安く、より良い) 太陽系探査を目標にしたディスカバリー計画というプログラムが始まろうとしていました。そこで我々は、米国NASAジェット推進研究所(JPL)で彗星コマサンプル回収計画を検討していたグループと共同で、一



Wild 2に向かう
STARDUST ©NASA

九九三年にディスカバリー計画の候補としてのS O C C E R計画を提案しましたが、残念ながらこの提案は通りませんでした。

その理由の一つが、ディスカバリー計画では国際共同提案は認めないということでした。そ

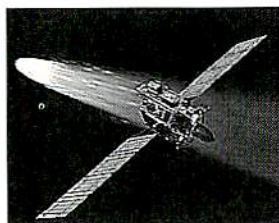
の技術を一機づつの工学実験機で実証したい或いはするべきところです。しかしながら限られた予算の中、我々は敢えて一機のMUSEE-Cでこれら全てを達成することにトライせざるを得ませんでした。

因みに我々のMUSEE-C計画が明らかになった後、米国はニュー・ミレニアム計画という工学実験機シリーズを急遽開始、その1号機であるDS-1（ディブスペース1号）の主たるミッションは惑星間空間でのイオンエンジンの長期運用、自動航法による小惑星や彗星のフライバイでした。一九九八年に打ち上げられたDS-1は当初予定した彗星には到達できなかったものの、他の小惑星や彗星に向かい、ほぼミッションを達成しました。DS-1は明らかにMUSEE-Cを意識した計画で、全てに世界一でなければ済まない米国の姿を垣間見せてくれました。しかしながらDS-1は「フライバイ」レベルのミッションであり、我々の「サンプルリターン」ミッションは依然世界トップレベルであることに変わりない、と考えることが出来ました。

さて、MUSEE-Cにおいて越えなければならない技術上の問題は上に述べた四つだけではなく、ハードウェアに限っても、充電可能な宇宙用リチウム・イオン

電池、小惑星接近・着陸時に必須のレーザーを用いた精密高度計、切断その他種々の動作に用いる火工品等々数多くの要素技術の開発が必要でした。一九八〇年代終りからワーキング・グループによってミッション計画を立て、必要技術開発の準備を整えて来た我々は、一九九五年、地球接近型小惑星（NEA）の一つ「ネレウス」を目的地としてサンプルリターン技術の実証を目指すMUSEE-C計画を宇宙科学研究所に正式提案するに至りました。

宇宙科学研究所において第二十号科学衛星候補として選定されたMUSEE-C計画は、次に国の宇宙開発委員会における審議・承認を経て初めて実行へと進めるのですが、この審議の場で、この計画はあまりにリスクではないか、という意見が出たのは当然といえば当然でした。我々は「非常にチャレンジングではあるが、充分に技術的な準備を進めて来ており、ミッション達成が可能」である旨を強調して理解を得る努力をしまし



彗星に向かうDS-1
(想像図)

た。まさに鷹山公の「為せば成る 為さねば成らぬ 何事も。成らぬは人の為さぬなりけり」の心境でした。

当時我が国の宇宙開発では、大小の不具合や失敗が続いたこともあり、ミッシェン達成度を百点満点で表すことが要求され、不具合があると減点されるという所謂減点法で評価がされるのが通例でした。そこで我々が立てた作戦は「減点法というマイナス思考ではなく、加点法で考えて戴けないか」という手でした。

先に述べたように、MUSE-1Cは本来一機づつの工学実験機で行うような四つの大きなミッションをたった一機で且つシリーズでやって行くものなので、例えばイオンエンジンが世界初の長時間運転に成功しても百点満点では二十五点しか貰えないことに

イオンエンジンの1000時間稼動	100点
電気推進併用の地球スウィングバイ成功	150点
自律光学航法に成功して小惑星到達	200点
小惑星の科学観測成功	250点
小惑星にタッチダウンしてサンプル採取	300点
地球帰還、カプセル大気圏再突入して回収	400点
小惑星のサンプル入手	500点

なっていました。

一方加点法によれば、四大ミッションの一つを達成するごとに百点満点の一〇〇点を与えることにより全工學ミッションが成功すれば四〇〇点、さらに回収カプセル内にサンプルが入っていれば理学的な成果が期待できるので、ボーナスの一〇〇点という評価法をお願いした訳です。或る意味これは単なる数字遊びで、例えばイオンエンジンが一、〇〇〇時間稼動した時点で、全工學ミッションの一／四達成という事実は変わらないにしても、二五点と評価されるのと、まず最初の大事な目標を達成したことで一〇〇点と評価されるのでは、その後のプロジェクト遂行上のモラルに大きな影響があると主張しました。幸いこの評価方式は宇宙開発委員会において公式に認められ、以後我々の大きな励みになりました。

宇宙開発委員会の承認とともに予算も認められ、一九九六年四月MUSE-1Cプロジェクトは正式に開始されました。但し、その時点までの軌道計画、探査機予想重量の詳細検討結果とM-Vロケットの打ち上げ能力を考えると、目的地第一候補の「ネレウス」への往復飛行は難しいことが明らかとなったため、第二候補の小惑星「1989 ML」をターゲットとして二〇〇二年七月の

打ち上げを目指すことに変更がなされました。

衛星の開発は通常、設計確定後サブシステムの開発・試験と並行して、構造モデル、熱モデルやプロトモデル（PM）と呼ばれる各種供試体を用いた衛星システムの構造・強度、熱設計、電気的特性等々が確認された後、実際に飛翔するフライトモデル（FM）の製作が始まります。この間大小様々な問題が出てくるのは避け難いのですが、特にMUSEE-Cではハードウェア、ソフトウェアいずれも多くの技術的ブレイクスルーが必要だったため、数多くの難題を克服しなければなりませんでした。

例えば、地球の十万分の一の重力しかない小惑星表面からのサンプル採取方式だけでも大問題です。単に着陸して表面を掘るのでは「作用・反作用の法則」で探査機が跳ね返されてしまいます。さらに小惑星表面は太陽に直に照らされているため一〇〇℃以上の高温になっているという推定もあり、着陸時間は一秒程度が限界と考えられました。「とりもち作戦」といって、粘性性テープに小惑星表面のレゴリス（砂）をくっつける案など、大学院学生や若手研究者の柔軟な頭からも色々なアイデアが出されましたが、様々な試作や試験を経て最終的に採

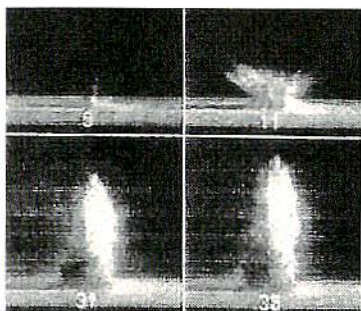
用されたのは、探査機からサンブラー・ホーンと呼ぶ筒状のものを出し、その先端が着地すると同時に弾丸を撃ち込み、筒の中に舞い上がる小惑星表面の粒子を掃選カプセルの中に取り込む、という案でした。

また探査機が着陸のため降下して行く時、小惑星表面が一面にレゴリスで覆われていて何の目印も無いと水平方向移動の制御が出来ません。これを克服するため、探査機から前以て目印となるものを着陸目標点に落としておき、そこに向かって降りて行くことにしました。問題は跳ね返った時の速度がわずか一〇cm/s程度でも小惑星表面には留まらないという殆ど無重力の所へどんなものを落とせばよいかということでした。ここでも色々なニクな案が出されましたが、採用されたのは「お手玉作戦」でした。

お手玉を硬い表面に落とすと、袋の中の小豆が互いにぶつかって運動量を吸収してしまい殆ど跳ね返らない、という特徴があります。実験結果も他の素材に比べ最良で、（中身は小豆ではありませんが）この極めて日本的な方式が「ターゲット・マーカー（TM）」と呼ばれる人工の着陸目標に選ばれました。なお、このターゲット・マーカーの中に世界中の八十八万人から寄せられた名前

やメッセージを書いたマイクロフィルムを入れて、無事小惑星に届けることが出来たのを御存知の方は多いと思います。

サンプルの入ったカプセルを地球大気圏再突入時の高熱から守る耐熱材の開発も大変でした。MUSES-1Cは惑星間空間から秒速一二kmで直接地球大気圏に突入しますが、この速度はスペース・シャトル等の地球周回軌道からの再突入速度の約一・五倍に達します。この時、所謂空力加熱によって発生する熱は速度の三乗に比例するため、MUSES-1Cカプセルはシャトルの約三・五倍の熱入力に耐えねばならず、その表面温度は三、〇〇



弾丸打ち込み式サンプル採取実験



探査機に搭載された3個のTM

〇℃以上になると推定されました。このための耐熱材はシャトルのような耐熱タイルではなく、アポロで用いられたような「アブレーション」方式になりました。それはカプセルを覆っていて、大気圏突入時に高温になって気化（昇華）する時、気化熱が奪われることによって内部を守る方式ですが、当時これだけの高温に耐えられるアブレーション材の技術を持つのはSTARDUSTの経験を有する米国NASAだけでした。

実は宇宙探査の分野では、競争（Competition）と協力（Cooperation）が並行して行われることがよくあります。勿論お互いがほぼ同じ力を持っていることが条件ですが、競争によって双方が切磋琢磨して高みを目指すとともに、相手の得意とするところをgive and takeでやりとりすることでお互いに自らの目的を早く（安く）達成する、という関係が成り立ち得ます。先に述べたようにFCBの太陽系探査では鎬を削ってきた日米ですが、MUSES-1A計画では当初から密接な協議を重ね、表のような協力協定が結ばれました。

カプセル耐熱材は我々の手で開発し、宇宙研にある高温高速を出せる風洞での試験を重ねていましたが、実際の大気圏再突入環境で機能するか否かを、表の①に記し

たようにNASA・ARCの設備を使って評価して貰いました。

一方、我々にとって最も重要な課題は、1989MLから帰還したカプセルの着陸・回収場所の決定でした。回収地域は安全のため長さ一〇〇km以上、幅二〇km程度の無人のエリアを必要としますが、狭い日本では適地を見つけることは難しく、STARDUSTの回収地でもある米国ソルトレークの干上がった塩湖で回収する

NASA

- ① ARC (エームス研究センター)での再突入カプセル耐熱材試験と評価
- ② DSN (深宇宙通信網)による探査機の追跡・電波航法支援
- ③ 米国ソルトレーク地域でのカプセル回収
- ④ サンプル分析者の訓練と米国でのサンプル分析に日本側共同研究者受け入れ

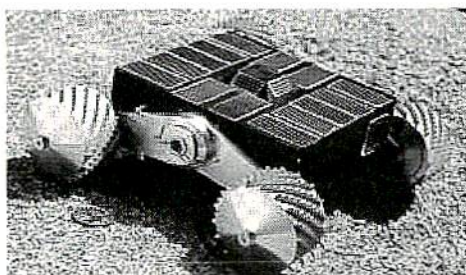
宇宙研

- ① 小惑星サンプルの一部を米国に提供
- ② JPL開発の超小型ローバーSSVを搭載
- ③ 搭載観測機器へ米国側共同研究者受け入れ
- ④ サンプル初期分析への米国側共同研究者の受け入れ

ことになりました。

これらへの代償として、日本からは小惑星サンプルが得られた暁にはその一部を米国に提供すること、またJPLが開発する手の平に載るほどの極小のローバーSSV (Small Separable Vehicle) をMUSEEICに搭載して小惑星表面に降ろす等の約束がされました。

こうして苦勞しながらも計画を進めていた二〇〇〇年、相次いで二つの大問題が発生しました。最初の事件は二〇〇〇年二月十日に起きたX線天文衛星の打ち上げ失敗でした。その直接原因は、MIV-4号機の第一段モーターのグラフィット製ノズルが発射直後に破損し、十分な推力が得られなかったためと判明しました。しかし何故そのような不具合が起きたのかの原因究明と対策が終らない限り、次の5号機でMUSEEICを打ち上



JPL開発のSSV (© NASA)

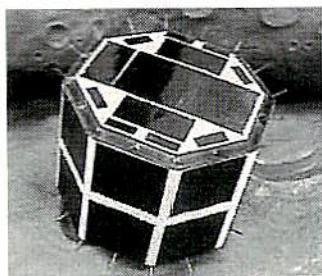
げる訳にはいきません。

一方、小惑星1989 MLに行くには二〇〇二年七月に打ち上げなければなりません、それまでに対策まで含めてこの問題を解決するのは不可能なことが明らかになってきました。そこで我々は急遽1989 ML以外で到達可能なNEAを探さなければならぬことになりました。その結果登場したのが1998 SF36という小惑星でした。その名が表すように、この小惑星が発見されたのは一九九八年、即ちMUSESC計画が開始された一九九六年には未発見で、今思えばこれが「いとかわ」・「はやぶさ」にまつわる最初の奇跡だったのかもしれない。

しかしながらターゲット変更に伴い探査機軌道を検討した結果、カプセル回収地点を北半球に設定することは難しく、唯一オーストラリア南西部の砂漠であれば降ろせることが分かりました。それは当然NASAとの協定に影響を及ぼすと共に、新たに豪州政府との交渉という厄介な仕事の追加を意味しました。この交渉も文部省や外務省の後押しを得ながら、何度かオーストラリアの首都キャンベラに足を運んで目的が付くようになっていきました、その矢先またもや問題発生です。

それは二〇〇〇年十一月の或る日、NASA本部から宇宙研に緊急電話会議の要請があったことから始まりました。その要件は、JPLの超小型ローバISSVの開発を重量増と予算増の理由により中止する、という通告でした。MUSESCN（NはNASAのN）というプロジェクト名でSSV開発を行ってきたJPLは以前から1kg以下という条件では苦しいので何とか割り当て重量増をと言って来ていたのですが、こちらの台所事情も苦しいため認めることは出来ず、遂にこの日ギブアップとなったのです。

二〇〇〇年日米双方に起きたこれらの出来事は日米協力関係だけでなく、MUSESC計画の進捗そのものにも大きな影響を与えざるを得ないものでしたが、関係者全員の奮闘努力により、二〇〇二年十一月十二月に1998 SF36に向け打ち上げる方向で立て直しが図られました。但しその中にはMUSESCの後に控える科学衛星ASTROF、ASTROEII、SOLAR-B等の打ち上げを夫々半年或いは一年遅らせねばならないことも含まれ、これら衛星の関係者には大変苦しい妥協をお願いせざるを得ないことになってしまいました。



MINERVA

この一連の動きの中で、
 明るいニュースは、キャン
 セルされたSSVに代り宇
 宙研の若い研究者達が密か
 に(?)暖めていたユニー
 クな着陸機の搭載が決まっ
 たことでした。MINER
 VA (Micro / Nano Ex-
 perimental Robot Vehicle
 for Asteroid) と名付けられた着陸機は、重量僅か五九
 〇grながら、携帯電話カメラをベースとした撮像装置と
 通信機を内臓、小惑星表面を飛蝗のように跳んで移動し
 ながら撮像と温度計測をするという優れたものです。この
 移動方法は子供の頃糸巻きと割り箸とゴム輪で作って遊
 んだ「糸巻き車」の原理に似ていて、MINERVA内
 部で超小型のDCモーターを回転させると、殆ど無重力
 下の小惑星表面では発生したトルクによってピョンと跳
 ぶことが出来、跳び方はモーターの回転数を変えること
 で制御する方式になっています。

二〇〇一年十月にはノズル材を変更した新しいM-V
 ロケットの第一段モーターの燃焼試験が成功裡に行わ

れ、打ち上げに向けての準備が進む一方、LIDAR等
 の開発に手こずりながらも年末には探査機FMの電氣的
 機能を総合的に確認する試験も始まり、予定通り一年後
 には打ち上げが出来ると信じて年を越すことが出来まし
 た。

ところが打ち上げまで七カ月に迫った二〇〇二年四月
 末になって、またまた信じられない事態が発生しました。
 総合試験の一環として行われた軌道姿勢制御用推進系
 (RCS: Reaction Control System) の機密試験中に押
 しガスの圧力を調整する調圧弁というバルブ(米国製)
 からのガス漏洩が生じたのです。バルブ内のオリングが
 切れていたのが原因で、これを直ちに交換すること以一
 件落着と思ったのですが、実はこのオリングの材質が規
 格外のものであったことも判明しました。もしこれと同じ
 材質のオリングが燃料や酸化剤の流路にある各種のバル
 ブに使われているとすると、最悪の場合オリングが溶け
 てしまうこともあり得るので、同じ会社製の全てのバル
 ブについて検査すべきである、という意見が大勢を占め
 ました。しかしながらそれをするには既に探査機に組み
 込まれた推進系を取り外した後、溶接された配管を切断、
 バルブを分解して調査という大作業になり、スケジュー

ルの遅れはもとより、配管切断、再溶接に伴う二次災害も心配されました。

後に「はやぶさ」が数々の危機を乗り越えるために様々な智慧が生れましたが、この時も同じような智慧が発揮されました。推進系を分解することなく、配管内にガスを流して出てくる微量の揮発成分をガスクラマトグラフィという手法で分析することで、規格内の材質であれば含まれていない筈の例えば硫黄等の成分が無いと確認できればOKというわけです。

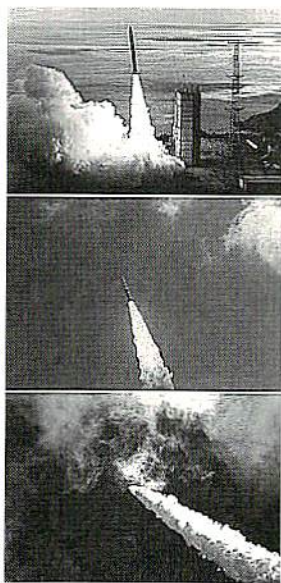
早速この方法が実行に移され、結果は良好でしたが、スケジュールの遅れは如何ともし難く、二〇〇二年十一月十二月の打ち上げは難しくなりました。幸い1998SF36へは半年後の二〇〇三年五月に打ち上げても到達可能になるよう軌道設計がされていたことが救いました。

かくして、二〇〇三年五月九日午後一時二十九分二十五秒、M-V-5号機によって鹿児島県内之浦町の鹿児島宇宙空間観測所から打ち上げられたMUSES-ICは「はやぶさ」と命名され、小惑星1998SF36への旅が始まりました。「はやぶさ」という名の由来が、小惑星からタッチ・アンド・ゴーでサンプルを採取する様

子が隼が舞い降りて獲物を獲る姿を彷彿とさせることから、というのは既に御存知の方が多いと思います。

一方、目的地の小惑星を1998SF36という記号で呼ぶのは味気無いので何か良い名前を付けたいという希望は以前からあったのですが、打ち上げ成功を機に運動を具体化させました。小惑星命名の権利は発見者にあるため、宇宙研から1998SF36を発見した米国マサチューセッツ工科大学リンカーン研究所の地球接近小惑星研究グループ(LINER)に対し、日本のロケット開発の父・糸川英夫の名を付けて欲しい旨依頼しました。

LINERはこれを受けて国際天文学連合に申請、当初アポロ群とも呼ばれるNEAには人名ではなくギリシャ神話の中から名を採るのがルール等という原則論からの意



2003.5.9 はやぶさの旅立ち

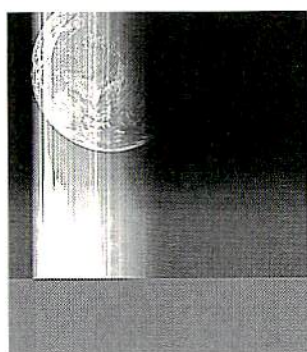
見もあったようですが、結局「はやぶさ」打ち上げ三ヵ月後の八月六日、正式に「ITOKAWA」という名が認められました。「はやぶさ」チームの中では最長老の私が糸川先生の訁咳に接した唯一の人間になってしまっただけに、この決定は個人的にも大変嬉しいものでした。

さて「はやぶさ」打ち上げ当時の予定では：地球公転軌道に近い軌道上でイオンエンジンを作動させて徐々にエネルギーを蓄えた後、打ち上げ一年後の二〇〇四年五月地球に再接近、地球の重力を利用して加速するスウィングバイを実施して「イトカワ」に向かう飛行を開始、二〇〇五年九月「イトカワ」到着、約二ヵ月間のランデヴー飛行（注2）を行う間に「イトカワ」の詳細観測と着陸地点の調査、十一月に最大限三回のサンプル採取を試みた後帰路に着き、二〇〇七年六月地球に帰還、サンプルの入ったカプセルのみ大気圏に再突入、オーストラリア・ウーメラ砂漠で回収というシナリオでした。

一方、実際の「はやぶさ」の旅がこのシナリオのように平穩無事でなかったことは、インターネットや多くのメディアで報じられているので、既に多くの方がご存知だと思います。従って、それらをここで記すことはしません。ただ「はやぶさ」が困難な状況に立ち至る度に信

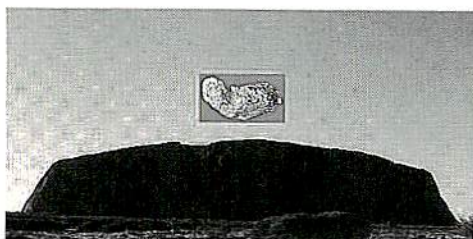
じられないほど多くの方々から激励を戴いたことが、どれほど「はやぶさ」チームの力になったか計り知れない、ということをお礼と共にお伝えしておきたいと思ひます。

私自身は「はやぶさ」が「イトカワ」への着陸に成功して三〇〇点（サンプル回収用の弾丸が発射されなかったので多少減点か？）を獲得した後、行方不明になったものの、その後奇跡の復活を遂げたのを見届けて、二〇〇六年三月末に退職したため、「はやぶさ君」の地球への帰路の運用には携わることはありませんでした。ただ報告だけは欠かさず受けていて、常に心配しながらも必ずや帰ってくると信じて待っていました。



はやぶさの撮った最後の写真
(© JAXA/ISAS)

そしてウーメラへの帰還。元のシナリオでは大気圏に突入するのはサンプルの入ったカプセルだけの予定だったのですが、「イトカワ」着陸のダメージによる



ウルルとイトカワの大きさの比較

RCS燃料漏洩により、カプセル切り離した後「はやぶさ」本体の再突入回避のマヌーバを出来なくなったため、本体も一緒に大気圏に突入、燃え尽きることになりました。結果的にはこの方が「美しく散る」いかにも日本的な最後で、情緒的にはこれで良かったのかもしれない。

情緒的と言えば、「はやぶさ」に最後のミッシェンとして地球の写真を撮ることを命じたのは、はやぶさ君に最後に地球を見せてやりたいという親心からだったそうですが、送られてきた写真を見ると、地球が涙に滲んでいるようにも見え、また映像が途切れてしまっているのは、最後の最後までミッシェンを果たしながら、遂に力尽きた瞬間を表していて、こちらも涙無しには見ることの出来ない一枚となりました。

ウーメラの砂漠で「はやぶさ」の帰還を出迎えた私は、燃え尽きる直前のはやぶさにはウーメラから五〇〇kmほど

北にある地球最大の（実際には二番目らしい）一枚岩と言われるエアーズ・ロック（現地名ウルル）が見えたのだろうかと思いつながら、「イトカワ」と「ウルル」の大きさを揃えて並べた絵を作ってみました。これを見ても「イトカワ」は何と小さな星だったのだろうとあらためて驚かざるを得ません。

それにしても六月十三日がウーメラ砂漠としては一年に一度あるかないかという快晴無風だったこととあわせて、実際にカプセルが落下した場所が、回収区域として設定した縦約一〇〇km、横約一〇kmの細長い楕円の中心からわずか七〇〇mしか離れていなかったのは「はやぶさ」が起こした最後の奇跡と言えるのではないのでしょうか。

全てが終わった今、以前鷹山公のことを脚本に書かれたジェームス三木さんと話をした時に、三木さんが言われた「人は皆歴史というリレーのランナー」という言葉が思い出されてなりません。糸川先生始め多くの先達、諸先輩から学び受け継いだ宇宙工学の道でしたが、今こうして若い研究者、技術者が立派に育ち、この人達がまた新たな太陽系探査やさらにその先の道を切り開いて行ってくれる、まさにリレーのバトンのように歴史が繋がっ

ていくことを実感できたことが「はやぶさ」に携わって得られた最大の喜びでした。

注1) 例えば、仮に地球と同じ大きさの惑星があったとして、そこに着陸後、地球帰還のために離陸するには、地球出発時と同じ打ち上げ能力を持つ推進系を持って行かねばならないことになる。となると、遡って地球出発時のロケットは更に強力なものにしなければならぬ。余談であるが、火星探査の中継基地として月を用いる話があったが、今それを言う人はいない。それは、一旦月へ着陸してから再度離陸して火星に向かうというのはエネルギー的に無駄がある、という自明のことが理解されるようになったからである。

注2) 「イトカワ」のように重力が殆ど無い小さな天体の場合、その周りを周回するオービターは存在出来ず、探査機をそこに留めるためには双方の公転速度を同じにして並行して飛ぶ所謂「ランデヴー」飛行をしなければならぬ。但しこの天体と探査機の公転軌道を同一にするには極めて精密な軌道制御が必要となる。

例えば、「はやぶさ」と「イトカワ」のランデヴー

で実際に行われた制御では：双方の公転速度はおおよそ 30 km/s (注3)、「イトカワ」の大きさは $535 \times 294 \times 209\text{ m}$ 。従って双方の速度誤差が 1 cm/s (即ち約 $3/10,000,000$ の誤差) あつたとすると、一日(八六、四〇〇秒)で位置誤差は八六四mとなり、最長五三五mの「イトカワ」上空には留まらない。実際には地球から三億km彼方の「はやぶさ」と「イトカワ」の相対速度誤差を約 0.25 mm/s に制御して、二カ月に及ぶランデヴー飛行を行うことが出来た。

注3) 地球の公転速度も同じくほぼ 30 km/s 。従って我々も常に秒速 30 km で太陽の周りを飛んでいる。これは東京から大阪まで二十秒弱で到達できる速度である。

有為会雑誌第一號

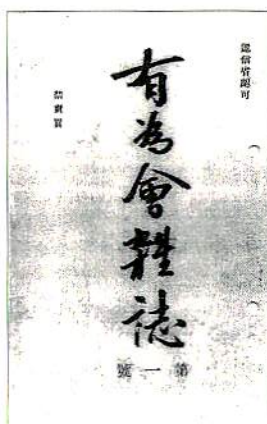
(明治二十三年一月発行)の発見!!

米沢支部 梅津幸保

米沢有為会は明治二十二年十一月二十三日発足した。会員の情報や意見の交換を図るため、有為会雑誌を毎月発行することとした。その年の十二月に手書きの第一号が発行された。米沢図書館に有為会から寄贈された有為会雑誌がほぼ揃っている。百十周年の平成十二年会誌四十九号に京都支部の新野昌生さんが有為会雑誌考と題してその変遷を寄稿された。その中で、明治二十三年二月発行の雑誌二号に二十二年十二月発行の一号を「首号」とすると記載されていることを紹介された。すると図書館に収められている以外に一号があることになる。つまり二十三年一月に発行されたものとなる。この雑誌が米沢図書館に収まっていない。探すことは不可能に近いだろうと思いが、京都の新野さんと交信した。新野さんから二十二年十二月に発行された手書きの雑誌一号の

表紙にも一号、六号欠と書かれている情報をいただいた。ますます探索困難と思った。雑誌の号数を再度確認のため米沢図書館に行った。郷土資料担当の青木さんに相談していたら、早速インターネットで調べていただいた。すると東京大学の明治新聞雑誌文庫に有為会雑誌一号、六号が収められていることが分かった。この時本当かと目を疑った。気を落ち着かせて再度見てみるとまぎれもなく一号と記載されていた。しかし疑った。この一号は手書きの一号に違いないとさえ思ったのである。この一号の発行月日を確認しないとわからないと思いました。早速東京大学に出向いて確認しようと思い利用案内を見たら、東大関係者は学生証などであると簡単に利用できるが、他は申請許可が必要とのこと。本部事務局に関係者を確認したら現在はいないものとのこと。そこで東京農大教授で本会の大滝理事に連絡を取りました。早速手配していただき、マイクロフィルムからの全コピーをお願いしました。三週間ほどして資料が届きました。心わくわくしながら開封して、有為会雑誌第一号明治二十三年一月二十八日出版、発行者兼編集者伊東忠太を確認しました。これを見て本当に感激しました。百二十年前の資料が存在していたという事実と、資料を保存して

いただいていたことに感謝し、有為会雑誌が首号、一号、二号と揃ったこととなります。有為会雑誌考を寄稿された京都支部の新野昌生さんに連絡し共に喜んだところで、有為会雑誌1号は複製であります。米沢図書館に寄贈しました。この度の発見に係わっていただいた皆さんのおかげです。深く感謝申し上げます。



第1号
明治23年1月発行



首号
明治22年12月発行

トピックス ②

有為会復刊会誌 昭和24年版（首号）の発見

米沢支部 梅津 幸保

復刊会誌五十九号は米沢有為会百二十周年の記念特集号として、記念事業が開催される十一月十五日の祝賀行事も掲載する方針で作業を進めておりました。記念式会場の都市センターホテル二階大会議室に、東京支部担当で設営され、歴代会長、歴代興譲館寮館長の顔写真が整理され展示されておりました。記念特集号には寄宿舍の百年の歩みも掲載されるので館長さんの顔写真もこのデータで掲載することにして、担当者から借りました。そして記念特集号を発行しました。一月に会員に届きました。ところが資料不足で正確なデータでなく、顔写真（金子芳雄館長）など欠落していることが判明し、二月訂正版を印刷することにしました。この段階で金子芳雄（十九代東京興譲館長）さんのご指導のもと再調査して正確を期すことにしました。

特に戦前戦後の様子が不明であり、当時の方々にも確認をいただきました。記憶をたどるくらいのものであったのでなかなか正確な資料もなく苦慮しておりました。

京都支部の新野さんの有為会雑誌考を見ていて最初の復刊版として昭和二十四年発行の会誌があることを思い出していました。幻の会誌といわれており、米沢図書館にも納められていませんでした。どうせ資料は見つからないだろうと思いつつも、念のため米沢支部の古い書類の詰まった段ボール箱を確認することになりました。それは我妻榮記念館の倉庫の中に眠っているものです。真冬ですので記念館は冷蔵庫の中のように冷えています。ちょっと探そうと外套のまま作業していました。ひとつの段ボールの中に古い名簿などが綴られている高さ三十センチ程のものを見つけ外に出しておきました。そして別にないか探していたのです。特にそれらしき資料はありませんでした。寒いので段ボールから出した資料を元に戻して帰ろうとしたとき名簿の綴りはいつからのものだろうと見ていたら一番下の名簿の次に薄手の資料が綴じられていました。これは何かとめくってみたら、昭和二十四年発行と書かれた会誌でありました。えっ！と疑ってよく見ても昭和二十四年でした。これが探してい

た資料だ！。こんなところに幻といわれてきた資料があったと興奮しました。

早速金子さんに連絡して、当時の状況を確認してもらうように資料を複写しました。金子さんに確認いただき寄宿舎の館長名と在任期間などが分かりました。この資料には戦後の各支部の様子が記載されていて、有為会にとっては一級の資料です。金子さんとあれこれ連絡しているとその熱意が伝わってきて、探索に動かされた結果です。この情報と資料は京都の新野さんにも金子さんを通して届けていただきました。現在の復刊会誌号数は昭和二十七年発行が第一号なので、この昭和二十四年発行の復刊会誌単品を、明治の有為会雑誌首号にならって復刊会誌首号と名付けたいと思います。米沢支部の資料として眠っていましたが、早速米沢図書館に寄贈しました。

昭和二十四年七月

社団法人 米沢有為会 会誌

昭和24年発行の会誌

トピックス 3

NHK大河ドラマ「天地人」が平成二十一年放映されました。これを記念し「上杉景勝公、直江兼続公」主従の銅像を建立しようと実行委員会が設立されました。概要を掲載いたします。ご協力のほどよろしくお願いします。

《趣旨》平成二十一年はNHK大河ドラマ「天地人」が大好評を博しました。お蔭様で米沢に多くのお客様が来訪され、上杉景勝公と直江兼続公主従の強い絆と、上杉家を貫く義と愛の精神が改めて広く認識される機会となりました。このこ

上杉景勝公 直江兼続公 主従の銅像を 皆さんの心と力を合わせて 建立しましょう



「上杉景勝公・直江兼続公主従の銅像」建立実行委員会

とは私たち郷土の誇りでもあります。つきましては、今回の「天地人」放送を記念して、景勝公・兼続公主従の像を建立し、その英邁なる精神と

偉業を永く記憶にとどめてまいりたいと存じます。皆様方のご賛同とご芳志を賜りますようお願い申し上げます。
平成二十二年五月十八日

《銅像建立の計画概要（予定）》

1. 名称 「上杉景勝公・直江兼続公主従の銅像」
2. 建立場所 松が岬公園内（調整中）
3. 建立時期 平成二十三年四月（予定）
4. 製作者 新井 浩氏（福島大学教授）
5. 制作費 一、七〇〇万円（予定）

《寄付要項》

1. 総額目標 一、七〇〇万円
2. 期間 平成二十二年六月一日（火）～平成二十三年四月二十八日（木）まで
3. お願いしたい寄付金額

（1）個人の場合 三、〇〇〇円以上

（2）法人の場合 一〇、〇〇〇円以上

4. 寄付金の申込方法（納入方法）

取扱い金融機関窓口でのお振込みか、事務局窓口へご持参願います。

■お振込みの場合

所定の「振込依頼書」により、下記の取扱い金融機関窓口にてお振込み下さい。

「振込依頼書」をもって申込書に、「受領証」をもって領

収書に、それぞれかえさせていただきます。

なお、各金融機関のご協力により、本寄付に関する同一行(庫)間の振込手数料は無料となります。

■事務局窓口へご持参の場合

「寄付申込書」にご記入の上、寄付金を添えて下記実行委員会事務局窓口までご持参下さい。

〔銅像建立実行委員会事務局〕

米沢商工会議所内 米沢市中央四―一三〇

TEL:〇二三八―二一五一―一

FAX:〇二三八―二一五一―一六

(注)米沢観光物産協会内

米沢市金池五―二二五 市庁舎五階

TEL:〇二三八―二一六二―二六

FAX:〇二三八―二二九六―〇八

〔取扱い金融機関〕

米沢信用金庫 米沢市内全営業店、赤湯支店、長井支店、

高島糠野目支店、川西支店、山形支店

山形銀行 県内全営業店対象

きやらか銀行 全営業店対象

荘内銀行 全営業店対象

山形第一信用組合 全営業店対象

山形おきたま農業協同組合 米沢支店、米沢北出張所、

米沢東出張所

振込み手数料は、同金融機関営業店間は無料となります。

(訪問窓口と同じ金融機関をご指定ください。)

5. ご芳名の掲載について

ご協力いただきました方については、ご芳名を記念誌に掲載させていただきます予定です。

《実行委員会》

「上杉景勝公・直江兼続公主従の銅像」建立実行委員会

委員長 小嶋彌左衛門(社団法人米沢観光物産協会会

長・上杉鷹山公と郷土の先人を顕彰する会会長)

副委員長 佐藤良吉(米沢商工会議所会頭)

副委員長 種村信次(米沢信用金庫理事・米沢温故会会
長)

委員構成団体 社団法人米沢観光物産協会

上杉鷹山公と郷土の先人を顕彰する会

米沢商工会議所

米沢温故会

上杉・松岬両神社信仰会

置賜史談会

米沢御堀端史蹟保存会

米沢直江會

米沢市芸術文化協会

直江兼続公をNHK大河ドラマに推進する会

山形おきたま農業協同組合

米沢織維協同組合連合会

(順不同)

興讓館寮歌

歌作氏 熊信行 鐵儀 大東
曲作氏 笛

は調 $\frac{4}{4}$ 拍子

<u>3.</u> カ	<u>3</u> レ		<u>3.</u> ラ	<u>3</u> ノ	<u>4.</u> キ	<u>3</u> ソ	<u>2</u> ク		<u>3.</u> シ	<u>2</u> メ	<u>3.</u> ヤ	<u>4</u> カ	<u>3</u> ニ
<u>6.</u> シヨ	<u>7</u> コ		<u>1̇</u> 一	<u>2̇</u> ノ	<u>1.</u> コ	<u>7</u> ド	<u>6</u> ウ		<u>5.*</u> ハ	<u>4</u> ウ	<u>5.</u> チ	<u>6</u> シ	<u>5</u> テ
<u>3</u> カ	<u>3</u> ゲ		<u>3.</u> ロ	<u>2</u> ウ	<u>3.</u> ノ	<u>4</u> モ	<u>3</u> ト		<u>7.</u> オ	<u>7</u> ド	<u>1̇.</u> リ	<u>2̇</u> ユ	<u>1̇</u> ク
<u>5.</u> ハ	<u>4</u> ヤ		<u>3.</u> セ	<u>4</u> ノ	<u>1.</u> オ	<u>2</u> ト	<u>1</u> ニ		<u>3.</u> タ	<u>2</u> ダ	<u>3.</u> ズ	<u>4</u> メ	<u>3</u> バ
<u>3.</u> キ	<u>4</u> エ		<u>5.</u> ツ	<u>6</u> ノ	<u>7.</u> サ	<u>1̇</u> ケ	<u>2̇</u> ピ		<u>1̇.</u> サ	<u>7</u> ハ	<u>6.</u> ヤ	<u>7</u> カ	<u>5</u> ニ
<u>3.</u> キ	<u>2</u> タ		<u>1.</u> リ	<u>1̇</u> テ	<u>7.</u> ム	<u>6</u> ネ	<u>5</u> ニ		<u>4.</u> ト	<u>3</u> モ	<u>2.</u> ナ	<u>3</u> リ	<u>1</u> ス

1

吾等の氣息きそく蕭しやうかに
陽炎かげらうの下踊りもとおど往ゆく
喜き悦ねつの叫こゑび爽さわやかに

三

華飾を擴ぐ金色の
萬象ぞ今踊躍して
希望の光輝漲りて

三

神祕の色や流星の
朔風樹々を襲ひ來て
永却を告ぐ吾が胸に

四、

霜氣鋭く雲寒く
高臺風ぎて黎明の
夢は破れて此處にまた

五

歴史は辿れ二百年
鷹山公の名と共に
其の藩校の『興讓』の

曙光の鼓動羽搏して

早瀬はやせの音に佇たふめば
來りて胸むねに共鳴どもなりす、

日輪昇る東雲や

吾が感激の胸の内
努力の泉激り立つ

跡一筋の闇の虚

巨剎の鐘は程近く
自治の灯の吾が寮に

去燕暫く歸らざる

風冷やけく同袍が
新たなる日の生命あり

譽は視よや後の世に

治蹟天下の人ぞ識る
 唱へ床しき我が寮ぞ

トピックス 4

寄宿舎興譲館寮寮歌を五線譜に採譜

この度寄宿舎の寮歌が有為会雑誌大正3年3月発行の241号に掲載されているとの情報があり、確認したところ大熊信行作歌、東儀鐵笛作曲の楽譜でありました。作曲者は雅楽の方であるのだろうと思われ、数字の羅列でした。これでは音階が分からないため、高校教諭OBの工藤俊恵先生に五線譜に置き換えていただきました。どうぞご活用ください。

(米沢支部 手塚 修)

興 譲 館 寮 歌

大熊信行 作詞
東儀鐵笛 作曲



われらの気そく しめやかにしこうのこどう 羽うちしてかげ
ろうのもと おどりゆくはやせのおとに たたずめば喜え
つのさけびさわやかに 来た りてむねにとも 鳴 りす

トピックス 5

有為会雑誌488号を50周年記念号として発刊

会誌59号は米沢有為会120周年記念特集号として昨年発行しました。ここに有為会年表を掲載しました。この度この年表を再調査して別冊定款・規則集に載せることとしました。小森力雄、金子芳雄両相談役のお力により修正年表ができました。この時、周年時の雑誌会誌の記念特集号を確認したいとの連絡がありました。早速米沢図書館で確認しました。雑誌は30ページ～40ページを毎月発行されていて、10、20、30、40周年の記念号は見当たりませんでした。50周年は昭和14年で、雑誌488号(12月26日発行)が50周年記念号として130ページもの雑誌が発行されました。その中に創立者6名の写真がグラビアとして掲載されました。今まで伊東忠太はか5名が……という表現で代表者の写真が掲載されております。この50周年記念号では創立者6名全員の顔写真を掲載し顕彰しておりました。転載致しましたのでご覧ください。

本會創立者

伊東忠太氏



故長谷部源治郎氏



内村達次郎氏



村井三雄藏氏



故島山南壽次郎氏



宮島幹之助氏



会員の広場

「漆の実」吟行句会

芭蕉の里・くろばね句碑めぐり記

JR西那須野駅には何回か降り立った。それは那須塩原温泉郷へ行くための駅であったが、今回は芭蕉くろばねの句碑めぐり。前から奥の細道・那須原へ行きたいとは思っていたが交通の不便性・季節の選定等もあり実現しなかったが、今回は句会「漆の実」那須原吟行ということで願いがかなった。

この企画立案は会員池田弁之助さん。乗り物の手配、宿泊地、句碑めぐりの順序、句会の場所と時間等、至れり尽くせりの配慮であった。そしてそれがすべて順調に推移したことは全会員の協調性もさることながら、特筆に値することであった。車は池田弁之助、小山八州央両氏の自家用車。

期 日 平成二十二年六月二十二日(火)～二十三日(水)
参加者 下條怡生、加納和子、小山八州央、大関蝸牛、片山丹波、池田弁之助、鈴木淳一の七名であった。



芭蕉翁と黒羽。「那須の黒羽」という所に知る人あれば、これより野超えかかりて：」

松尾芭蕉翁はその弟子曾良を伴い元禄二年（一六九八年）「奥の細道」へ旅立った。新暦五月二十一日に黒羽に到着。新暦六月三日までの十四日間十三泊十四日という最長期間黒羽に逗留し多くの足跡を残した。今回その足跡をめぐった所は、玉藻稻荷神社、鹿子畑翠桃墓、常念寺、明王寺、大雄寺、雲巖寺、遊行柳、黒羽城跡、等であつた。

野を横に馬牽きむけよほととぎす

芭蕉

夏山に足駄を拝む首途哉

芭蕉

秣負ふ人を枝折の夏野哉

芭蕉

山も庭も動き入るや夏座敷

芭蕉

木啄も庵は破らず夏木立

芭蕉

くろばねの句碑の一部を紹介

ここよりは、「漆の実」吟行句会の参加者の作品の一部を掲げます。ご賞味のほどを。

◎池田弁之助

旅に疲れ翁の跡や栗の花

禪寺に僧をたづねし庭涼し

夏野尽き芦野の里の柳かな

◎大関蝸牛

こども句碑あそこも句碑の夏草原

五月雨にかすむ木立や雲巖寺

雨蛙遊行柳を案内せり

◎片山丹波

今昔の与一の鎗矢夏木立

茅屋根に家紋光る夏の寺

遊行柳こんもり青田盛り上げり

◎加納和子

声明のくぐもる伽藍梅雨に入る

茅葺きの巡る回廊緑雨かな

望楼の白壁濡るる七変化

◎下條怡生

稲荷から大現はるる木下闇

大雄寺ハンカチの木に汗ぬぐひ

きつつきは魚板鳴らさず夏の禪寺

◎小山八州央

田草取畦居の蛇に言葉掛く

凹凸の庫裏土間に焚く蚊遣香

今年竹黒羽奥の屋敷墓

◎鈴木淳一

禅僧が多羅の木の葉に文字描ける

黒羽集落誘蛾灯がちらちらす

吊橋を境に天地片かける

※多羅の木がハガキの語源とか

追記めくが、黒羽山大雄寺は曹洞宗の禅寺、黒羽藩主、大関氏の菩提寺で室町時代の様式を今に伝える総力や葺屋敷の名刹である。重要な文化遺産を保存する。

「黒羽は我が父祖の地か花くわる」と大関蝸牛さんが一句したため血縁関係を探る。私は禅僧より日本でも有数の幽霊の掛軸（最近もNHKが収録していった由）を拝見、仰天。

「禅僧が突如幽霊引き合はす」

「からかみ引けば幽霊 幽霊宛らに」

淳一句。ちなみに幽霊は夏の季題。夏の夜、怖い話をして涼しさを味わうという趣向の主演。

最後になったが、句会「漆の実」のつねに、世話役として、今回も一泊二日の句会をまとめていただいた、句会「漆の実」の庶務幹事の小山八州央さんにこの機会を借りお礼を申し上げます。

（鈴木淳一 記）

陶人形 そう

〔陶歴〕三重県伊賀にて陶芸の修業を始める。

将来、仏像を作りたいと思い、その体型が子供のようだと学んだことから、修業の傍ら、子供をモデルとした人形をつくり始める。帰省後、陶人形作家として独立。以降、子供を中心に、土の温もりを生かした手作りの犬や猫、お雛様や武人形に至るまで幅広く創作。

・一九七三年 山形県米沢市の窯元の家に生まれる。

・二〇〇二年「大沼デパート米沢店」にて初個展

以降、〇五、〇八年度と開催

・二〇〇三年 茨城県笠間市「きらら館本館」にて個展

・二〇〇六年 ギャラリーTAKAOにて二人展

・二〇〇八年 益子「陶楽」にて個展

栃木県小山市「たから園」にて二人展

小山市に「小山評定」武者人形を三十数体おさめる

・二〇〇九年 山形県米沢市ギャラリーバセオにて、武者人

水野

宗（米沢市広輪町出身）
（一九七三年生まれ）

上杉謙信



上杉景勝

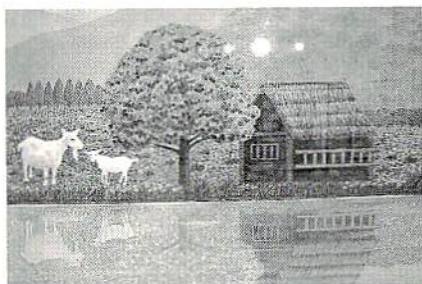


直江兼統



平成二十二年度 第六十五回 県美展入選作品

形「直江兼統」展
・二〇一〇年 東武百貨店池袋本店に
て「武者人形展」
他 グループ展 多数
〒三一九―二二二六
茨城県常陸大宮市北塩子一四七五
TEL & FAX
〇二九五―五三―〇三九五



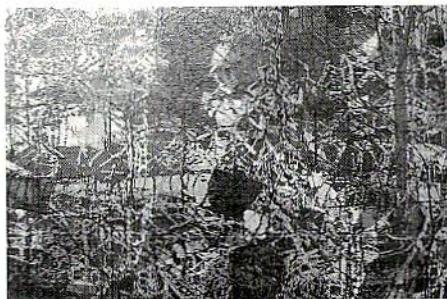
入選 山中三平 「里の春」



前田慶次



入選 高橋丈夫
「ベルベル人の廃村」



亀岡 博
「森の生き物たち」 委嘱

米沢有為会役員名簿

平成二十二年九月現在

名誉会長	上杉邦憲	名誉會員	小幡常夫	本間敏雄	會長	(理事) 下條泰生	副會長	(理事) 安部三十郎	(理事) 須貝英雄	理事	安部英夫	石原俊一	梅津幸保	大滝則忠	貝沼孝二	開沼啓
加藤国雄	加納和子	甲國信	上村勘二	菅野榮三	菅野憲幸	小山野泰	佐藤毅	柴田孝一	鈴木幸一	鈴木信之	情野文男	高橋勉	手塚修	中川紘一	沼澤研一	原弘一
平山英三	御供政敏	米野宗禎	伊藤秀太郎	中條良文	西澤榮一	本多和彦	山方雅晴	山本雅晴	評議員	(仙台) 安部金之丞	(東京) 安部忠彦	(同) 安部洋司	(同) 飯沼俊男	(米沢) 五十嵐京子	(同) 井熊征一	(同) 江川栄助
(東京) 大石道夫	(同) 柿間善彰	(同) 片平善造	(米沢) 加藤真琴	(東京) 金子晃司	(同) 金子孝治郎	(同) 川合勝雄	(同) 菊地隆雄	(同) 木村有恒	(米沢) 小林伸也	(東京) 齋藤彰	(同) 佐伯雅子	(同) 佐藤憲一	(同) 佐藤憲一	(同) 佐藤陞三	(同) 佐藤好明	(米沢) 柴田正孝

(東京) 赤井 淳一
(以上平成二十三年八月満期)

(同) 渡邊 忠義
(同) 山田 幸生
(同) 村石 房男
(同) 宮坂 孝夫
(同) 本郷 友信
(同) 深沢 和子
(東京) 平山 和博
(仙台) 林 一郎
(東京) 永井 忠弘
(仙台) 塚原 昌伸
(米沢) 塚田 昌伸
(京都) 谷 榮政
(仙台) 滝口 政彦
(米沢) 高橋 英機
(北海道) 須藤 進雄
(東京) 白根 澤利雄

(同) 鈴木 吉助
(東京) 鈴木 うめよ
(同) 山宮 光雄
(米沢) 佐藤 政一
(同) 佐藤 幸子
(東京) 佐藤 宏吉
(京都) 齋藤 昭一
(同) 小林 伸一
(米沢) 小坂 昌紀
(仙台) 香坂 昌紀
(米沢) 工藤 正三
(東京) 川井 陽一
(仙台) 大武 清夫
(米沢) 遠藤 善則
(同) 岩瀬 和子
(同) 今井 浩之介
(同) 伊藤 貞治
(同) 伊藤 隆明
(同) 安部 壮一郎

相談役
(以上平成二十四年八月満期)

大関 修敬
遠藤 道雄
青木 厚一
鈴木 浩美
(地方) 鈴木 浩美
(米沢) 清野 幸男
(仙台) 瀨川 耕雄
(東京) 瀧澤 新三
(米沢) 種村 信次
(北海道) 田村 邦夫
(東京) 西村 純夫
(同) 橋本 享子
(同) 羽隅 弘宣
(同) 林 里子
(米沢) 山本 勇一郎
(東京) 横山 彰人
(同) 吉澤 雄一
(同) 吉田 仁志

濱田 五左衛門
仁科 盛夫
新野 昌生
中條 信政
鑪 信政
高橋 幸翁
高橋 俊龍
高橋 廣
曾根 伸良
鈴木 脩二
佐野 清一
小森 力雄
小関 昌幸
小関 幸
九里 茂三
金子 芳雄
金子 利雄
加藤 常吉
大友 久太郎

同	理事	部長理事	教育部	同	同	参事	同	同	同	同	同	同	理事	部長理事	総務部			
沼澤研一	大滝則忠	高橋勉		樋口正宏	渡邊忠義	菅野昭彦	中川紘一	貝沼孝二	大滝則忠	菅野憲幸	鈴木信之	石原俊一	平山英三			三井修	松野良寅	星一郎

同	同	同	同	理事	部長理事	文化広報部	参事	同	同	理事	部長理事	産業部	同	参事	同	同	同	同
米野宗禎	沼澤研一	中川紘一	加藤雄一	原津幸保	梅弘一		山村浩和	貝沼孝二	石原俊一	柴田孝男			小野庄士	山村浩和	上村勘二	加納孝子	貝沼孝二	御供政敏

同	同	同	理事	部長理事	組織部	同	同	同	参事	同	理事	部長理事	婦人部	同	同	同	同	参事
佐藤毅	沼澤研一	中川紘一	情野文男	開沼啓		鈴木木淳一	青木恵子	佐伯雅子	近藤郁子	加納和子	米野宗禎	小山泰		鈴木美佐子	山口弘子	石田一郎	山宮光雄	小林伸一

			教育委員	参事	同	同	理事	部長理事	企画部	参事	同	同	同	同	同	同	同	同
吉田美智子	江川栄助	上杉季雄		大野隆樹	菅野憲幸	加藤国雄	原弘一	佐藤毅		佐藤憲一	加納和子	安部英夫	菅野榮三	甲國信	手塚修	鈴木幸一	御供政敏	小山泰

伊藤和夫

(理事及監事參加)

産業振興委員

種村信次

淀川泰正

佐藤俊弘

(理事及監事參加)

支部長

東京米野宗禎

米沢安部三十郎

仙台甲國信

京都菅野榮三

北海道安部英夫

興讓館長

東京沼澤研一

同副館長 川合勝雄

仙台御供政敏

同副館長 滝口政彦

我妻榮記念館

名譽館長 我妻堯

館長 上村勘二

事務局長 鈴木幸一

運営委員 遠藤拓

同 安部敏

同 佐藤英男

同 五十嵐京子

同 高橋節子

同 本多和彦

管理人 小林秀一

東京支部役員

支部長

米野宗禎

副支部長

沼澤研一

鈴木信之

理事

監事

飯沼俊男

伊藤喜助

伊藤秀太郎

伊藤貞治

上野和久

貝沼孝二

加藤国雄

川合勝雄

川井陽一

菅野憲幸

倉田和彰

齋藤子

佐伯雅子

佐藤陸三

鈴木吉助

中川絃一

西澤榮一

羽隅弘宣

監事

相談役

相談役

相談役

相談役

相談役

相談役

相談役

相談役

相談役

相談役

相談役

相談役

樋口正安

平山英三

平山和博

宮坂孝夫

吉澤雄一

横山彰人

渡邊忠義

赤井淳一

瀧澤新一

本間敏雄

小森力雄

金子芳雄

高橋龍

斎藤俊忠

情野文男

鈴木脩二

石原俊一

山方雅晴

参事

評議員

上野和久	今井浩之介	伊藤隆明	安部洋司	青木恵子	淀川勇夫	吉田仁志	村石房男	林里子	鈴木うめよ	斎藤郁子	近藤耕	紺野民夫	神野勝廣	大友ひろみ	太田ひろみ	今井浩之介
------	-------	------	------	------	------	------	------	-----	-------	------	-----	------	------	-------	-------	-------

安部忠彦	安部壮一郎	横山彰人	山田幸生	村山浩和	本川弘裕	原本享一	橋本恭一	新野昭義	瀧澤晋策	平藤幸子	佐藤卓	五雲寺郁子	近藤榮作	小林榮一郎	川越明彦	加藤道夫	大石
------	-------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-----	-------	------	-------	------	------	----

(以上平成二十三年五月満期)

村石房男	水見洋	舟山和夫	深沢和子	林里子	鈴木うめよ	菅原光弘	佐藤毅	紺野耕	小山泰	後藤謙三	金藤泰伸	神野民夫	大友勝廣	大滝則忠	太田ひろみ	遠藤弘隆	遠藤信夫	岩瀬和子
------	-----	------	------	-----	-------	------	-----	-----	-----	------	------	------	------	------	-------	------	------	------

米沢支部役員

支部長

副支部長

理事

遠藤善之	江川栄助	井熊征一	石田一郎	五十嵐京子	本多和彦	梅津幸保	高橋勉	安部三十郎	山田雅宏	吉田仁志	淀田勇夫	米野国雄
------	------	------	------	-------	------	------	-----	-------	------	------	------	------

(以上平成二十四年五月満期)

(常務)

山手塚種高高清鈴柴柴山佐佐小小小小加上小
木塚田村橋橋野木田田宮藤藤林林林藤村野
勇昌信丈節幸幸正孝孝光広政伸伸真勤庄
一郎修伸次夫子男一孝孝雄明一也一榮琴二士

評
議
員

監
事

桑工神川加加加遠漆岩稲阿安淀中上吉
原藤尾野藤藤藤善山間村部部川條杉田
君亮裕義正善弘虎泰良季美
子介潔章彦人功則裕一修雄敏正文雄智子

松前舟福長野戸手玉武高庄白島佐佐小小後下
田山山崎谷本田塚上田橋司田倉藤藤林藤條
健豐真啓弘直宮利誠英芳静富士惠圭浩邦
修二弘子二弘博雄恭一郎機彦悟夫雄次一浩彦

相
談
役

顧
問

大遠上石安横野中武高後木遠山山皆
久藤杉塚部沢村川田橋藤村藤渡山口口川
保藤虎忠行三研三勝誠翁源三彦秀秀
利英明雄夫雄男三勝誠翁源三彦雄

事

評議員						理事				顧問		庶務幹事	
高橋章	高木正助	後藤誠男	売間公男	保科喜重	谷榮政	高橋雅雄	斉藤昭一	菅野榮三	岩崎淳	新野昌生	保科喜重	岩崎淳	斉藤昭一

北海道支部役員										遠藤健次	小野島亀一	星利三	水科宗興	北郷勝	佐藤恒雄
支部長										相談役					
副支部長										名譽會長					
理事										興讓館寄宿舎OB会					
評議員										副會長					
関藤二郎	須藤進	鈴木吉行	芳賀秀樹	佐藤俊一	田村邦夫	安部英夫	大関修敬	羽隅弘宣	芳賀秀樹	大関修敬	下條泰生	佐藤康治	田中健治	孫田敏	
			(札幌OB)	(東京OB)											
幹事										副幹事長					
伊藤和夫	上野和子	斉藤彰	宮坂孝夫	菅野憲幸	本多彦一	高山征一	樋口正宏	山方雅晴	沼澤研一	原弘一	中條仁	川合勝雄	大滝則忠	佐藤毅	
顧問										監事					
小幡常夫										會計幹事					
石原俊一	飯沼俊男	川井陽一	貝沼孝二	小幡常夫	木村有恒	小森力雄	金子芳雄	高橋俊龍	小関薫	安部三十郎	今田久夫	板垣義次	釜井信政	今井和夫	

東京支部長

副支部長

幹事長

幹事

加藤 国雄
菅野 憲幸
貝沼 孝二
宮坂 孝夫
飯沼 俊男
舟山 国夫
安部 洋司
佐藤 隆三
平山 和博
川合 勝雄
島貫 正夫
小関 正敦
鈴木 正明
千喜良 誠
佐藤 憲一

会計幹事

監事

米沢支部長

仙台支部長

副支部長

理事

赤井 淳一
小野 仁
高瀬 勝
本多 和彦
中條 仁
甲 國信
滝口 政彦
本田 健夫
上野 恒太郎
香坂 昌紀
今野 多助
塚原 保夫
船山 完一

顧問

事務局

長澤 健一
丹野 真敬

奨学生OB・OG会

(平成21年2月28日発足)

かつこ内数字は

奨学金貸与開始年度

会長

副会長

加納 和子 (S30)
齊藤 彰 (S37)
村山 浩和 (S46)
小野 庄士 (S48)
幹事長 貝沼 孝二 (S47)

副幹事長

幹事

監事

監事

仁科 義英 (S47)
水見 洋 (S52)
遠藤 一栄 (S46)
渡部 順一 (H11)
佐藤 憲一 (S44)

賛助会員名簿

社団法人米沢有為会の主旨に賛同いただき賛助会員としてご支援ご協力をいただいている方々です。

東京支部

法人名 代表者

(敬称略)

日 綜 産 業 (株) 設 楽 保 雄
大木リフォーム(株) 設 楽 保 雄
(株)向洋アドシステム 金 子 晃 司
澁 谷 印 刷 (株) 野 本 英 夫
マコー技研(株) 東 海 達 夫

(平成二十二年度)

米沢支部

法人名 代表者

(敬称略)

相 田 建 設 (株) 相 田 晃 一
NEC パーソナルプロダクツ(株)
米沢事業場 神 尾 潔
遠 藤 廣
(株)置 賜 建 設 川 野 敬 典
(株)大 清 中 村 邦 夫

(株)小嶋総本店 小嶋 弥左エ門

さ の 医 院 佐 野 隆 一

鉄砲屋町町内会 磯 清 一

東北電力(株)米沢営業所 高 橋 芳 彦

中 條 医 院 中 條 明 夫

浜 田 (株) 浜 田 純

舟 山 清 宮 坂 直 樹

(株)財 宮 坂 考 古 館 佐 藤 良 吉

(株)丸 定 米沢中央高等学校同窓会権の実会

若 松 工 業 (株) 片 倉 尚

精 英 堂 印 刷 (株) 鈴 木 高 明

(株)タカハタ電子 安 房 毅

(平成二十二年九月二十日現在)

仙台支部

法人名 代表者

(敬称略)

(株)大 江 設 計 大 江 勝 雄
仙台環境科学(株) 加 藤 啓 二
日本不動産(株) 栗 田 一 巳
建装工業(株)東北支店 高 橋 学
(株)東北オフィスマシン 林 崎 まつ子

(平成二十二年度)

本部・各支部事務所所在地

本部

☎一八二〇〇〇四

東京都調布市入間町一丁目三六番地
東京興讓館内

電・FAX (03)(3330)933011

東京支部

☎一八二〇〇〇四

東京都調布市入間町一丁目三六番地
東京興讓館内

電・FAX (03)(3330)933011

米沢支部

☎九二一八五〇一

山形県米沢市金池五丁目二ノ二五
米沢市役所内 秘書広報課

電(0238)(22)5111 FAX(0238)(22)5541

仙台支部

☎九八〇〇八〇二

宮城県仙台市青葉区二日町六一一三四〇二
㈱エムアイティ建築研究所

電(022)(22)50336 FAX(022)(22)50252

京都支部

☎六二一八〇一一

京都府京都市伏見区桃山町伊庭二一九
齋藤昭一

電(075)(601)5465

北海道支部

☎〇六〇〇〇六二

北海道札幌市中央区南一条西八丁目 TG札幌ビル7F
㈱日建社内 田村邦夫

電(011)(271)2585

米沢有為会設置施設

- | | | |
|--------|-----------|--|
| 東京興讓館 | ☎182-0004 | 東京都調布市入間町1-36
電・FAX (03)(3309)3302 |
| 仙台興讓館 | ☎980-0874 | 宮城県仙台市青葉区角五郎2-6-21
電(022)(222)4790 |
| 我妻榮記念館 | ☎992-0045 | 山形県米沢市中央3-4-38
電・FAX (0238)(24)2211 |

後記

▼今年の六月十三日、大きな感動がありました。七年前に打ち上げられた、小惑星探査機「はやぶさ」が帰還したことです。帰還に当たり「はやぶさ」は燃え尽きましたが、切り離されたカプセルは無事オーストラリアのウーメラ砂漠に着地しました。小惑星「イトカワ」に着地、離陸して地球に戻ってくるという人類初の快挙でした。この仕事に係わってこられた上杉名誉会長に急速特別寄稿をお願いしました。

▼今年の夏は三〇度を超える日が続き、猛暑の記録が塗り替えられました。日本列島は九月二十二日現在、真夏日が七十一日となり観測史上最多となりました。気象庁によると二〇〇四年の七十日が最多だったと発表しました。暑すぎるのも問題で農作物に大きく影響しています。リンゴや柿、栗など果物が熟さないという。寒さを感じないとマツタケなども成長しないといわれる。秋の味覚が高騰しないかと少し心配です。

▼昨年は「天地人」で米沢も大変賑わいました。今年は直江兼統生誕四五〇年の年に当たり、記念事業が年間を通して行われています。戦国の杜開館をはじめ、上杉博物館では特別展「上杉家臣団」など盛りたくさんのイベントがあり、各地からの訪問客は米沢の魅力を満喫していることと思います。

▼今年の会誌復刊六十号は、平年ペースでの発行となりました。九月二十五日発行を目標に編集しましたが、昨年より二カ月早いペースで戸惑いもあり、五日遅れの九月三十日となってしまいました。各支部、本部の皆さんにご協力いただきありがとうございます。

▼編集会議でたびたび話題となっていました定款集については、今回会誌から除き別刷りとさせていただきます。なお別刷りには有為会年表、歴代会長、寄宿舎興譲館の歴代館長を掲載させていただきます。ご利用いただきたいと思います。

(編集担当 梅津 幸保記)

アート・ビオトープ那須



レジデンス 陶芸・ガラススタジオ ワークショップ

www.artbiotop.jp

T 325-0303

栃木県那須郡那須町高久乙道上 2294-3

TEL : 0287-78-7833 FAX : 0287-78-6627



サマー・オープン・カレッジ——— いま、ここで考えたいことをあつめた夏の5日間

Schule im Berg

Schule im Berg 山のシュール

「山のシュレ」は、那須高原山麓・横沢地区にあるアート・ビオトープ那須で開催されるテンポラリーな学校です。

www.schuleimberg.com

主催＝特定非営利活動法人アート・ビオトープ

長期優良住宅

カモ三ール



世界に
たったひとつしかない
我が家



株式
会社

本多建設

お問い合わせは今すぐ！ TEL 0238-21-5100

FAX 0238-21-4458 E-mail info@hondahomes.com

〒992-0047 山形県米沢市徳町7-52

WEBで検索！

ホンダホームズ

検索

本多建設ホームページアドレス
hondahomes.com

割烹

志ん柳

個室5名様から100名様まで

〒992-0045 米沢市中央一丁目14-4

電話 0238-21-1234



米沢牛串焼き

玉こんにゃく

米沢ラーメン

全国唯一!!

うこきソフト

その他いろいろ

上杉城史苑すぐ隣り!

べに花庵

住所/〒992-0052 米沢市丸の内1-1-22

電話番号/0238-23-6310

営業時間/9:00から17:00まで 定休日/なし

漬物はやっぱり 雪国の米沢のが一番

一度あがってみてください!!

創業50年の専門店 窪田の後藤商店



お申し込みは最寄りの取り扱い店または当店まで
自然の味をそのまま手づくり

◎宅配便でお届けします。(関東方面630円)
(送料は別途申し受けます)

お支払いは代金引替、郵便振替等で

有限 後藤商店

〒992-0003 山形県米沢市窪田町窪田413-3

☎0238-37-5378(代)

FAX 0238-37-6345

http://www.marsho.jp

E-mail: info@marsho.jp

No.	規 格	価 格
A	おみ漬(8袋)	3,150円
B	青菜漬(8袋)	3,150円
C	おみ漬・青菜漬詰合(8袋)	3,150円
D	赤かぶ甘酢漬(8袋)	3,570円
E	おみ漬(3袋)青菜漬(3袋)赤かぶ(2袋)	3,255円

後藤喜彦 東京興譲館寮 平成12年卒

他にミックスにも応じます。
米沢では米沢駅2Fアスクでも販売しています。

グルメからお土産まですべて揃う
米沢観光のキーステーション



ごき/ん 食彩倶楽部

米沢牛をはじめ、
物産品が満載!!

●ご希望の方に上杉城史苑商品
カタログをお送りいたします。

<http://uesugijoshien.jp>



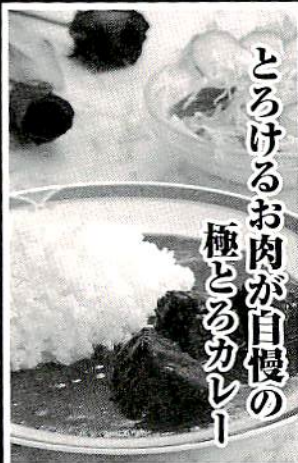
上杉城史苑

代表取締役 内藤 文徳

(株)上杉コーポレーション

〒992-0052 米沢市丸の内一丁目1-22

TEL.0238-23-0700 FAX.0238-21-8252



とろけるお肉が自慢の
極とろカレー



伝統の味を守り続けて
百六十二年



赤ワインたっぷりの
ビーフシチュー

鯉料理 &
スローフーズ

鯉の宮坂

米沢牛惣菜
地産創食

宮本舗

みやこう
ほんぼ

株式会社 タスクフーズ
山形県米沢市相生町7-130

☎0120-25-7188
URL <http://www.koi-miyasaka.com>

地元に愛されて30年。

皆様の「大切」を私たちの「大切」に。



東北警備保障株式会社

山形県公安委員会認定第6号
山形県米沢市アルカディア1丁目808-17
電話 0238-29-0005
FAX 0238-29-0015
URL <http://www.next-alert.co.jp>

営業品目 ・機械警備 ・常駐警備 ・交通誘導業務
・イベント警備（上杉まつり・花火大会など）
・施設管理（米沢市総合公園 指定管理者など）
・清掃業務（法人契約）

**IPを使ったホームセキュリティシステム(最新式)導入！
体験キャンペーン実施中！！**

株式会社
羽陽印刷

米沢市中央3丁目9-22
TEL (0238)23-0467代
FAX (0238)23-0480

創業四百十余年

伝統が生きる

米沢の銘酒



東光

とうこう

醸造元
(株)小嶋総本店

山形県米沢市本町二丁目一番三号 東町上通り
TEL(0238)231-4848
FAX(0238)231-4863

URL <http://www.sake-toko.co.jp/>
Email info@sake-toko.co.jp

ご宴会、ご会合は
サンルートにおまかせ下さい。



ご予約
お問合せは



ホテルサンルート米沢

〒992-0039 山形県米沢市門東町3-3-1 共立ビル TEL 0238-22-6655(代)

O H H A R A

L A W

O F F I C E

大 原 法 律 事 務 所



ご 案 内 図



所 属 弁 護 士 小 田 切 登

東京都千代田区麹町1丁目6番地2 アーバンネット麹町ビル3F 〒102-0083
電話 東京 03 (3239) 1311 FAX 03 (3239) 1811

3rd Floor, Urbannet Kojimachi Bldg., 6-2 Kojimachi 1-chome
Chiyoda-Ku, Tokyo, 102-0083 Tel. 03 (3239) 1311 Fax 03 (3239) 1811



Party Space



米沢の中心にあり、郷土感あふれる土地にたたずむ

「GRAND HOKUYO」

英国式の厳かな独立型チャペルや、多種多様なパーティー会場があります。
ステンドグラスが特徴的なチャペル、県内でも大変珍しい和テイストのさくら。
レンガ造りで、大きな暖炉が特徴的な邸宅のハウスウェディング風のプロヴァンス。

豪華なシャンデリアが特徴的なブライトン。

一歩足をふみ入れれば正面に赤い階段がひろがり様々なテーマ性のある個性的な会場で、
最幸の一日をとびきりロマンティックにお過ごしく下さい。

☎でのお問い合わせは ☎ **0238-22-1238**

www.grand-hokuyo.com

グランドホクヨウ

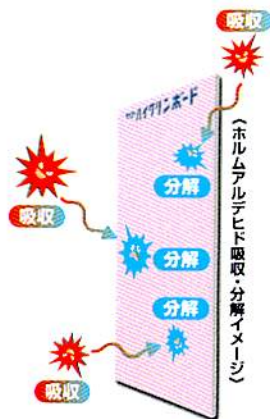
山形県米沢市金池2丁目3-7/TEL:(0238)22-1238/FAX:(0238)21-1067

日本全国、ホルムアルデヒド退治の虎の巻。

タイガーハイクリンボードはシックハウス症候群の主な原因物質のホルムアルデヒドを吸収・分解するので、日本全国、安心家族の「虎の巻」です。



- ◎新築・リフォーム直後や新しい家具などから発生するホルムアルデヒドを短時間で吸収・分解します。
- ◎一定の条件下で厚生労働省指針値のホルムアルデヒド濃度0.08ppmを下回る0.05ppmの数値を実現しました。
- ◎ハイクリンボードの「壁材」や「天井材」は物理的な吸着と異なり、ホルムアルデヒドを化学的に吸収・分解するため再放出されません。
- ◎タバコの煙に含まれているアセトアルデヒドの低減効果も併せ持っています。
- ◎不燃性、施工の容易性など、せっこうボードのすぐれた性能をそのまま保持しています。



YOSHINO
安全で快適な住空間を創る 吉野石膏

【本社】東京都千代田区丸の内3-3-1 新東京ビル 100-0005
<http://www.yoshino-gypsum.com/>

取締役社長 須藤 永一郎

明治二十二年十二月十四日創刊
昭和二十七年八月二日復刊
平成二十二年九月三十日発行

発行 社団法人 米沢有為生命会
編集 文化広報部長 梅津幸保
東京都調布市人間町一丁目三十六番地
電話・FAX 〇三・三三三・〇九一・三三三三

印

印刷 山形県米沢市中央三丁目九一・一二
電話 〇三三八一・三三〇・四六七